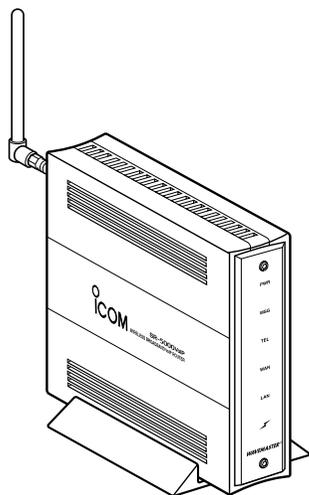




WIRELESS BROADBAND VoIP ROUTER
SR-5000VoIP

IP電話対応



Icom Inc.

各章について

各メニューの設定画面について説明しています。
設定画面は、用途別に下記の各メニューに分類されています。

参照ページ ▼	メニュー名など ▼	
3ページ☞	WAN側設定	1
31ページ☞	電話設定	2
59ページ☞	ネットワーク設定	3
73ページ☞	無線設定	4
87ページ☞	システム設定	5
97ページ☞	情報表示	6
101ページ☞	メンテナンス	7
107ページ☞	ご参考に	8

はじめに

本書は、本製品で設定できるさまざまな機能について、各メニューの設定画面について詳しく説明しています。
取扱説明書[接続編]に記載されていない詳細な機能を設定するときなど、本書と併せてご覧ください。

表記について

本書は、次の規則にしたがって表記しています。

- 「 」表記……本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「 」)で囲んで表記します。
- [] 表記……各設定画面の設定項目名を([])で囲んで表記します。
- < > 表記……設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(< >)で囲んで表記します。

登録商標について

- ©アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、 ICOMロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。
- ©WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。
- ©Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ©Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。
- ©Adobe、Acrobatは、アドビシステムズ社の登録商標です。
- ©その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

この章では、
「WAN側設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1-1.「WAN側」画面	4
■ 接続状況(回線種別：DHCP設定時)	4
■ 接続状況(回線種別：PPPoE設定時)	5
■ 接続状況(回線種別：PPPoE複数固定IP設定時)	6
■ 回線種別	7
■ 回線設定 DHCP	8
■ 回線設定/接続設定(PPPoE設定時)	9
■ マルチセッションとは	12
■ 回線設定/接続設定(PPPoE複数固定IP設定時)	13
1-2.「WAN側詳細」画面	16
■ 共通詳細設定	16
■ UPnP設定	18
■ Messenger機能対応表	19
■ Windows Messengerの制限について	20
■ PPPoE詳細設定	21
1-3.「アドレス変換」画面	24
■ アドレス変換設定	24
■ 静的マスカレードテーブル設定	25
■ DMZホスト機能と静的マスカレード機能の違い	25
■ 静的NATテーブル設定	26
1-4.「IPフィルタ」画面	27
■ IPフィルタ設定	27
■ 現在の登録	30

1 「WAN側設定」メニュー

1-1.「WAN側」画面



■ 接続状況(回線種別：DHCP設定時)

登録された回線への接続状況を表示します。

接続状況		
接続状況	切断 ①	接続中
回線種別	②	DHCP
DNSサーバ	③	-
本体側のIPアドレス	④	-
相手先のIPアドレス	⑤	-
接続時間	⑥	- 時間 - 分 - 秒

- ① 接続状況 WAN側回線への接続状況を「未接続」/「接続中」で表示します。
本製品に登録した回線接続先に手動で接続および切断するときは、画面上の〈接続〉および〈切断〉ボタンをクリックします。
※ 〈接続〉ボタンは、回線を切断したとき表示します。
- ② 回線種別 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
設定されている接続方式(DHCP)を表示します。
- ③ DNSサーバ ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。
- ④ 本体側のIPアドレス 本製品のWAN側に設定されたIPアドレスを表示します。
- ⑤ 相手先のIPアドレス 契約の回線接続業者、またはプロバイダーのIPアドレスを表示します。
- ⑥ 接続時間 ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーに接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
WWWブラウザの〈更新〉ボタンで、最新の時間表示になります。

1-1.「WAN側」画面(つづき)



■ 接続状況(回線種別：PPPoE設定時)

登録された回線への接続状況を表示します。

接続状況			
PPPoEセッション	①	第1セッション	第2セッション
接続先の選択	②	WAN01 <input type="button" value="接続"/>	なし <input type="button" value="接続"/>
接続状況	③	未接続	未接続
回線種別	④	PPPoE (自動接続)	PPPoE
DNSサーバ	⑤	-	-
本体側のIPアドレス	⑥	-	-
相手先のIPアドレス	⑦	-	-
接続時間	⑧	- 時間 - 分 - 秒	- 時間 - 分 - 秒

- ① PPPoEセッション …… 表示するセッション番号に対する接続状況をこの列に表示します。
- ② 接続先の選択 …… <接続> および <切断> ボタンは、この欄の各セッションで選択した接続先への回線接続および切断に使用します。
 ※<切断> ボタンは、回線が接続されているとき表示します。
 ※第2セッションを利用するには、この欄で選択した接続先がマルチセッションに対応していることと同時に、利用申し込みが必要な場合があります。
 ※第2セッションの接続先に、第1セッションで選択したインターネットへの接続先を指定しても、[接続状況]欄に「接続中」と表示されるだけで、実際に通信できませんのでご注意ください。
 また、その逆についても同じです。
- ③ 接続状況 …… WAN側回線への接続状況を「未接続」/「接続中」で表示します。
- ④ 回線種別 …… 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
 設定されている接続方式および方法に応じて、「PPPoE(手動接続)」/「PPPoE(自動接続)」/「PPPoE(常時接続)」のいずれかを表示します。
- ⑤ DNSサーバ …… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。
- ⑥ 本体側のIPアドレス …… 本製品のWAN側に設定されたIPアドレスを表示します。
- ⑦ 相手先のIPアドレス …… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーのIPアドレスを表示します。
- ⑧ 接続時間 …… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーに接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
 WWWブラウザの <更新> ボタンで、最新の時間表示になります。

1 「WAN側設定」メニュー

1-1.「WAN側」画面(つづき)



■ 接続状況(回線種別：PPPoE複数固定IP設定時)

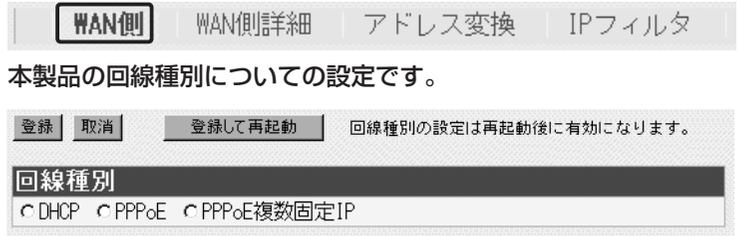
登録された回線への接続状況を表示します。

接続状況		
接続先の選択	①	WAN01 <input type="button" value="接続"/>
接続状況	②	未接続
回線種別	③	PPPoE (自動接続)
DNSサーバ	④	-
本体側のIPアドレス	⑤	-
相手先のIPアドレス	⑥	-
接続時間	⑦	- 時間 - 分 - 秒

- ① 接続先の選択 <接続> および <切断> ボタンは、この欄で選択した接続先への回線接続および切断に使用します。
※ <切断> ボタンは、回線が接続されているとき表示します。
- ② 接続状況 WAN側回線への接続状況を「未接続」/「接続中」で表示します。
- ③ 回線種別 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
設定されている接続方式および方法に応じて、「PPPoE(手動接続)」/「PPPoE(自動接続)」/「PPPoE(常時接続)」のいずれかを表示します。
- ④ DNSサーバ ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。
- ⑤ 本体側のIPアドレス 本製品のWAN側に設定されたIPアドレスを表示します。
- ⑥ 相手先のIPアドレス ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーのIPアドレスを表示します。
- ⑦ 接続時間 ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーに接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
WWWブラウザの <更新> ボタンで、最新の時間表示になります。

1-1. 「WAN側」画面(つづき)

■ 回線種別



本製品の回線種別についての設定です。

- 〈登録〉ボタン …………… [回線種別]項目以外の設定内容が有効になります。
 ※[回線種別]項目を変更した場合は、画面上で確定されますが、
 〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。
- 〈取消〉ボタン …………… 「WAN側」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお 〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- 〈登録して再起動〉ボタン …… 本製品を再起動して、「WAN側」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

回線種別 …………… ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定された回線種別を選択します。

◎何も選択しない場合(出荷時の設定)

ルータタイプモデムと接続する場合など、回線を本製品のWAN側ポートに接続しない場合で、本製品を無線アクセスポイントだけに使用するときは、出荷時の設定で使用します。

※アッカネットワークスやイー・アクセス、IP電話サービス対応のフレッツ・ADSLをご契約の場合に該当します。

◎DHCP

回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合で、本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約のプロバイダーや回線接続業者から「DHCP」方式で取得します。

※CATVやYAHOO! BBをご契約の場合に該当します。

◎PPPoE

回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合で、本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約のプロバイダーや回線接続業者から「PPPoE」方式で取得します。

※Bフレッツやフレッツ・ADSLをご契約の場合に該当します。

◎PPPoE複数固定IP

回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合で、ご契約のプロバイダーや回線接続業者から割り当てられた複数のIPアドレスのうち1つを本製品のWAN側IPアドレスに設定し、残りは本製品のLAN側に接続されたパソコンに直接割り当てて使用するとき、設定します。

割り当てられた複数のIPアドレスの使いかたについては、「複数固定IPサービスを使う」(本書8-2章)をご覧ください。

1 「WAN側設定」メニュー

1-1.「WAN側」画面(つづき)

■ 回線設定 DHCP



[DHCP]方式で回線接続時、本製品のWAN側についての設定です。

回線設定 DHCP	
接続先名 ①	<input type="text"/>
IPアドレス ②	<input type="text"/>
サブネットマスク ③	<input type="text"/>
デフォルトゲートウェイ ④	<input type="text"/>
プライマリDNSサーバ ⑤	<input type="text"/>
セカンダリDNSサーバ ⑥	<input type="text"/>

固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。

- <登録> ボタン [回線設定 DHCP]項目(①～⑥)の内容を確定するボタンです。
- <取消> ボタン [回線設定 DHCP]項目(①～⑥)の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、<登録> をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ① 接続先名 ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーがわかるような名前を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ② IPアドレス ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。
- ③ サブネットマスク ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。
- ④ デフォルトゲートウェイ ... ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。
- ⑤ プライマリDNSサーバ ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。
- ⑥ セカンダリDNSサーバ ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。

1-1.「WAN側」画面(つづき)



■ 回線設定/接続設定 (PPPoE設定時)

[PPPoE]方式で回線接続時、本製品のWAN側についての設定です。

登録		取消		①	②	③
回線設定		WAN01	編集	削除		
接続先名	④					
IPアドレス	⑤					
サブネットマスク	⑥	固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。				
デフォルトゲートウェイ	⑦					
プライマリDNSサーバ	⑧					
セカンダリDNSサーバ	⑨					
接続設定						
ユーザID	⑩					
パスワード	⑪					
認証プロトコル	⑫	接続先にあわせる				

〈登録〉ボタン [回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑫)の内容を確認するボタンです。

〈取消〉ボタン [回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑫)の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

① 接続先選択 <▼> をクリックして、「追加」を選択すると接続先の登録を追加できます。(最大8件まで登録可能)
 登録されている接続先に対する内容を変更するときは、この欄から編集する接続先名を選択します。
 <編集> をクリック後に、[回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑫)を設定してください。

② <編集> ボタン [接続先選択]①で選択した接続先名称の設定内容を変更するため、その内容を[回線設定]項目(④～⑨)と[接続設定]項目(⑩～⑫)に表示するボタンです。

③ <削除> ボタン [接続先選択]①で選択した接続先を削除するボタンです。

1 「WAN側設定」メニュー

1-1.「WAN側」画面



■ 回線設定/接続設定 (PPPoE設定時)つづき

登録	取消	①	②	③
回線設定		WAN01	編集	削除
接続先名	④	<input type="text"/>		
IPアドレス	⑤	<input type="text"/>		
サブネットマスク	⑥	<input type="text"/>		固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。
デフォルトゲートウェイ	⑦	<input type="text"/>		
プライマリDNSサーバ	⑧	<input type="text"/>		
セカンダリDNSサーバ	⑨	<input type="text"/>		
接続設定				
ユーザID	⑩	<input type="text"/>		
パスワード	⑪	<input type="text"/>		
認証プロトコル	⑫		接続先にあわせる	

- ④ 接続先名 ご契約になっているプロバイダーの名前を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
登録後、入力した名前は、[接続先選択](①)に表示されます。
- ⑤ IPアドレス ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。
- ⑥ サブネットマスク ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。
- ⑦ デフォルトゲートウェイ ... ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。
- ⑧ プライマリDNSサーバ ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。
- ⑨ セカンダリDNSサーバ ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。

1-1.「WAN側」画面



■ 回線設定/接続設定 (PPPoE設定時)つづき

登録		取消		①	②	③
回線設定		WAN01	編集	削除		
接続先名	④					
IPアドレス	⑤			固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。		
サブネットマスク	⑥					
デフォルトゲートウェイ	⑦					
プライマリDNSサーバ	⑧					
セカンダリDNSサーバ	⑨					
接続設定						
ユーザID	⑩					
パスワード	⑪					
認証プロトコル	⑫			接続先にあわせる		

■ 接続設定

- ⑩ ユーザID プロバイダーから指定されたログインユーザー名またはアカウント名を大文字/小文字の表記に注意して、入力します。
- ⑪ パスワード プロバイダーから指定されたログインパスワードを大文字/小文字の表記に注意して、入力します。
- ⑫ 認証プロトコル ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから指定された認証プロトコルを設定します。
指定のない場合は、「相手にあわせる」(出荷時の設定)でご使用ください。

下記の内容は、マルチセッションに対応する接続先を設定してご使用になる場合にご覧ください。

【NTTフレッツ・スクウェアをご使用になるには】

以下の内容を[接続設定]項目に設定してください。

◎NTT西日本でご契約の場合

- ユーザID : 「flets@flets」(半角文字)と入力
- パスワード : 「flets」(半角文字)と入力
- 認証プロトコル : 「接続先にあわせる」(出荷時の設定)を選択

◎NTT東日本でご契約の場合

- ユーザID : 「guest@flets」(半角文字)と入力
- パスワード : 「guest」(半角文字)と入力
- 認証プロトコル : 「接続先にあわせる」(出荷時の設定)を選択

1 「WAN側設定」メニュー

1-1. 「WAN側」画面(つづき)

■ マルチセッションとは

〈設定の手順について〉

8-5章(本書)には、NTTフレッツ・スクウェアの設定手順を記載しています。

右記の記載と併せてご覧ください。

「PPPoE」を本製品の回線種別に設定した場合だけ使用できる機能で、ご契約の接続先がマルチセッションに対応していれば、同じパソコンから通常の「PPPoE」接続先とは別の「PPPoE」接続先(NTTフレッツ・スクウェア)にも接続できます。

また、2台のパソコンのうち1台は通常の「PPPoE」接続先に接続、残りの1台はマルチセッション対応の「PPPoE」接続先に接続できません。

※「第2セッション」側を使用する場合は、登録する接続先の回線がマルチセッションに対応している必要があります。

※本製品の場合、2003年10月現在に於いてマルチセッションに対応できる回線接続先は、NTTフレッツ・スクウェアだけです。

※お住まいの地域がNTTフレッツ・スクウェア提供地域であることをご確認ください。

※NTTフレッツ・スクウェアへの接続は、[接続状況]項目の「第1セッション」側に、フレッツ・ADSLやBフレッツへの接続内容を設定した接続先名を選択し、「第2セッション」側にNTTフレッツ・スクウェアへの接続内容を設定した接続先名を選択してください。

また、「WAN側詳細」画面にある[PPPoE詳細設定]項目の[接続先選択]欄で、該当する接続先名を選び、[宛先ドメイン]欄に、「*.flets」と入力してください。

これを設定しない場合、NTTフレッツ・スクウェアのホームページを利用してサービスを受けることができません。

※NTT東日本でご契約の場合、NTTフレッツ・スクウェアを本製品でお使いいただくには、「ネットワーク設定」メニューの「ルーティング」画面にある[スタティックルーティング設定]項目で設定の追加が必要です。(☎8-5章)

※NTTから提供される「フレッツ接続ツール」は不要です。

1-1.「WAN側」画面(つづき)



■ 回線設定/接続設定 (PPPoE複数固定IP設定時)

[PPPoE複数固定IP]方式で回線接続時、本製品のWAN側についての設定です。

★ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレス(例：8個の場合)の使いかたについては、第8-2章(本書)を参考にしてください。

登録		取消		①		②		③	
回線設定		WAN01 ▼		編集		削除			
接続先名	④								
IPアドレス	⑤								
サブネットマスク	⑥	固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。							
デフォルトゲートウェイ	⑦								
プライマリDNSサーバ	⑧								
セカンダリDNSサーバ	⑨								
接続設定									
ユーザID	⑩								
パスワード	⑪								
認証プロトコル	⑫	接続先にあわせる ▼							

〈登録〉ボタン [回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑫)の内容を確認するボタンです。

〈取消〉ボタン [回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑫)の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

① 接続先選択 <▼> をクリックして、「追加」を選択すると接続先の登録を追加できます。(最大8件まで登録可能)
 登録されている接続先に対する内容を変更するときは、この欄から編集する接続先名を選択します。
 <編集> をクリック後に、[回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑫)を設定してください。

② <編集> ボタン [接続先選択](①)で選択した接続先名称の設定内容を変更するため、その内容を[回線設定]項目(④～⑨)と[接続設定]項目(⑩～⑫)に表示するボタンです。

③ <削除> ボタン [接続先選択](①)で選択した接続先を削除するボタンです。

1 「WAN側設定」メニュー

1-1. 「WAN側」画面



■ 回線設定/接続設定 (PPPoE複数固定IP設定時)つづき

登録	取消	①	②	③
回線設定		WAN01	編集	削除
接続先名	④	<input type="text"/>		
IPアドレス	⑤	<input type="text"/>		固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。
サブネットマスク	⑥	<input type="text"/>		
デフォルトゲートウェイ	⑦	<input type="text"/>		
プライマリDNSサーバ	⑧	<input type="text"/>		
セカンダリDNSサーバ	⑨	<input type="text"/>		
接続設定				
ユーザID	⑩	<input type="text"/>		
パスワード	⑪	<input type="text"/>		
認証プロトコル	⑫		接続先にあわせる	

- ④ **接続先名** …………… ご契約になっているプロバイダーの名前を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
登録後、入力した名前は、[接続先選択](①)に表示されます。
- ⑤ **IPアドレス** …………… ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。
※複数固定IPアドレスサービスをご契約の場合についても、指定された固定IPアドレスの中から、1つをこの欄に入力します。
- ⑥ **サブネットマスク** …………… ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。
※複数固定IPアドレスサービスをご契約の場合についても、指定されたサブネットマスクをこの欄に入力します。
- ⑦ **デフォルトゲートウェイ** …… ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。
- ⑧ **プライマリDNSサーバ** …… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。
- ⑨ **セカンダリDNSサーバ** …… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。

1-1.「WAN側」画面



■ 回線設定/接続設定 (PPPoE複数固定IP設定時)つづき

登録		取消		①	②	③
回線設定		WAN01 ▼	編集	削除		
接続先名	④					
IPアドレス	⑤					
サブネットマスク	⑥			固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。		
デフォルトゲートウェイ	⑦					
プライマリDNSサーバ	⑧					
セカンダリDNSサーバ	⑨					
接続設定						
ユーザID	⑩					
パスワード	⑪					
認証プロトコル	⑫			接続先にあわせる ▼		

■ 接続設定

- ⑩ ユーザID 接続先からの指定に応じて入力します。
 プロバイダーから指定されたログインユーザー名またはアカウント名を大文字/小文字の表記に注意して、入力します。
- ⑪ パスワード プロバイダーから指定されたログインパスワードを大文字/小文字の表記に注意して、入力します。
- ⑫ 認証プロトコル ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから指定された認証プロトコルを設定します。
 指定のない場合は、「相手にあわせる」(出荷時の設定)でご使用ください。

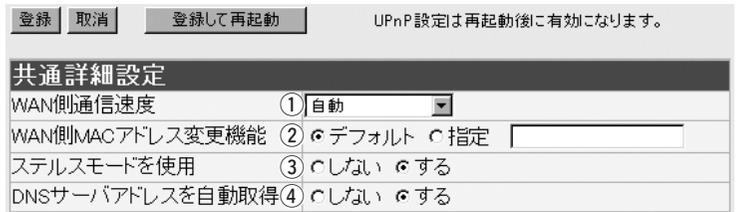
1 「WAN側設定」メニュー

1-2.「WAN側詳細」画面

■ 共通詳細設定



本製品のWAN側回線に共通する詳細設定です。

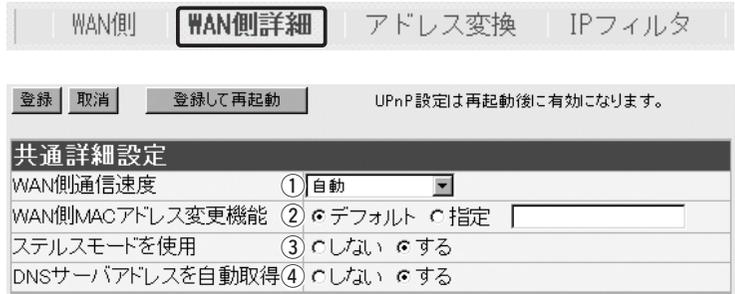


※[DHCP]設定時は、[共通詳細設定]項目と[UPnP設定]項目だけを表示します。

- 〈登録〉ボタン 「WAN側詳細」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
[UPnP設定]項目(※P18)以外の設定内容が有効になります。
※[UPnP設定]項目の変更内容は、画面上で確定されるだけであり、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。
- 〈取消〉ボタン 「WAN側詳細」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- 〈登録して再起動〉ボタン 本製品を再起動して、「WAN詳細」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
- ① WAN側通信速度 本製品とEthernetケーブルで接続された機器間のリンクスピードの設定です。(出荷時の設定：自動)
◎自動：本製品の[WAN]ポートに接続されている機器の通信速度に合わせて自動で設定されます。
◎100(Half Duplex)：
[100Mbps(Half Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、[100Mbps(Half Duplex)]に対応しているとき設定できます。
◎100(Full Duplex)：
[100Mbps/Full Duplex]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続している機器が、[100Mbps(Full Duplex)]に対応しているとき設定できます。
◎10(Half Duplex)：
[10Mbps(Half Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、[10Mbps/Half Duplex]に対応しているとき設定できません。

☞次ページにつづく

1-2. 「WAN側詳細」画面
 ■ 共通詳細設定(つづき)



※「DHCP」設定時は、[共通詳細設定]項目と[UPnP設定]項目だけを表示します。

① WAN側通信速度(つづき) …

◎ 10(Full Duplex) :

[10Mbps(Full Duplex)]固定で通信します。
 本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、
 [10Mbps/Full Duplex]に対応しているとき設定できま
 ず。

② WAN側MACアドレス
 変更機能 ……………

インターネットを、すでにMACアドレス登録が必要なプロバイダ
 ーでご使用の場合、登録された機器のMACアドレスで対応できま
 ず。 (出荷時の設定：デフォルト)
 登録している機器のMACアドレスを入力したときは、「指定」のラ
 ジオボタンをクリックしてから「登録」をクリックします。

△警告

この機能をご利用になるときは、登録されているMACアドレスを
 よく確認していただき、設定値を間違えないように注意してくださ
 い。
 設定値を誤ってご使用になられたことにより生じる結果については、
 一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

③ ステルスモードを使用 ……

インターネットを使用して本製品に不正アクセスされた場合、
 Pingやポートスキャンに対して防御するかしないかの設定です。
 (出荷時の設定：する)

④ DNSサーバアドレスを
 自動取得 ……………

WAN側DNSサーバアドレスを、DHCPまたはPPPoEより自動
 取得するかしないかの設定です。 (出荷時の設定：する)

1 「WAN側設定」メニュー

1-2. 「WAN側詳細」画面(つづき)

■ UPnP設定

WAN側	WAN側詳細	アドレス変換	IPフィルタ
UPnP設定			
UPnPを使用	①	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
ポートマッピング有効期間	②	2 日	*0に設定すると再起動するまで有効。

① UPnPを使用 ……………

UPnP(Universal Plug and Play)機能を使用するかしないかの設定です。(出荷時の設定：しない)

UPnPを使用すると、NATトラバーサル対応のアプリケーションを、本製品に接続された有線パソコンから利用できます。

※使用時は、セキュリティが低下しますので注意が必要です。

〈本製品のUPnP機能について〉

下記のアプリケーションが本製品のUPnP(NATトラバーサル)機能に対応しています。

◎Windows Messenger (Version4.6以上)

Windows XP専用アプリケーション

◎MSN Messenger (Version4.6以上)

Windows 98/98SE/Me/2000専用アプリケーション

※MSN Messengerで音声チャットを行う場合は、「DirectX」のバージョン8.1以上が必要です。

※あらかじめIPフィルターを設定しているポートをMessengerで使用した場合は、UPnP機能が優先します。

※アプリケーションをバージョンアップする必要がある場合は、「Windows Update」などから行ってください。

② ポートマッピング有効期間

UPnP(NATトラバーサル)対応アプリケーションなどを使用するために、WAN側に対してポートを開いている期間を日数で設定します。

最大9999日まで設定できます。(出荷時の設定：2)

※「0」日を設定すると、アプリケーションを正しく終了しなかった場合など、本製品を再起動するまでポートが開いたままになりますのでご注意ください。

※ポートマッピング機能は、「複数固定IP接続」でグローバルIPアドレスを割り当てられたパソコンには機能しません。

1-2.「WAN側詳細」画面(つづき)

■ Messenger機能対応表

出荷時、UPnP機能は、「使用しない」に設定されています。

■ : UPnPが必要な機能を意味します。

○ : 対応 × : 非対応

アプリケーション	機能	UPnP機能を使用する	UPnP機能を使用しない(出荷時)
Windows Messenger ※Windows XP専用	サインイン	○	○
	メンバーの追加	○	○
	インスタントメッセージ	○	○
	音声チャット	○ (Version 4.6以上)	×
	ビデオチャット	○ (Version 4.6以上)	×
	アプリケーション共有	○ (Version 4.6以上)	×
	ホワイトボード	○ (Version 4.6以上)	×
	ファイル転送	×	×
	電話をかける	×	×
リモートアシスタンス ※Windows XP専用	デスクトップの制御	○ (Version 4.6.0082以上)	×
	音声会話	○ (Version 4.6.0082以上)	×
	ファイル転送	○ (Version 4.6.0082以上)	×
MSN Messenger ※Windows 98 Windows 98SE Windows Me Windows 2000	サインイン	○	○
	メンバーの追加	○	○
	インスタントメッセージ	○	○
	音声チャット	○ (Version 4.6以上、 DirectX8.1以上)	×
	ファイル転送	×	×
NetMeeting	すべての機能	×	×

※相手のパソコンとIP電話する場合、「Windows Messenger」または「MSN Messenger」の音声チャット機能を利用します。

音声チャット機能を利用して本製品とIP電話するときは、本書8-1章で説明するバージョンの「Windows Messenger」または「MSN Messenger」でご使用ください。

1 「WAN側設定」メニュー

1-2. 「WAN側詳細」画面

■ Windows Messengerの制限について

- 〈制限〉
- ◎通信相手もUPnP対応ルーターを使用しているか、グローバルIPアドレスが割り当てられている必要があります。
 - ◎Messengerでの音声チャットなどは、プロバイダーや回線接続業者から割り当てられるIPアドレスがプライベートIPアドレスの場合、使用できません。
 - ◎静的マスカレードで使用しているポートが多い場合、Messengerの起動が遅かったり音声チャット等が利用できないことがあります。

- 〈再起動が必要な場合〉
- 下記のような原因でMessengerが使用できなくなったときは、Messengerを完全に終了してからもう一度起動してください。
- ◎Messengerを起動させた状態でポートマッピングの有効期間を経過したとき
 - ◎Messenger起動後にNATおよび静的マスカレードの設定を変更したとき
 - ◎パソコンがスリープ状態になったとき

1-2.「WAN側詳細」画面(つづき)

■ PPPoE詳細設定

「PPPoE」/「PPPoE複数固定IP」で使用するとき設定します。

WAN側		WAN側詳細	アドレス変換	IPフィルタ
PPPoE詳細設定				
接続先選択 ①		WAN01	選択	
接続設定 ②		<input type="radio"/> 手動	<input type="radio"/> 自動	<input checked="" type="radio"/> 常時
自動切断タイマ ③		10	分	* 自動接続時のみ有効。0に設定するとOFF。
MSS制限値 ④		1322		
ACネーム ⑤				
サービスネーム ⑥				
宛先ドメイン ⑦				DNSサーバの代理応答を使用しない場合は無効。

※回線種別を「DHCP」に設定したときは、表示されません。

※[宛先ドメイン]欄は、回線種別を「PPPoE複数固定IP」に設定したときは、表示されません。

- ① **接続先選択** 詳細設定する接続先名を選択します。
 選択したら、〈選択〉をクリックします。
 「WAN側」画面の[回線設定]項目および[接続設定]項目で登録した接続先ごとの設定を詳細にできます。
- ② **接続設定** 回線への接続方法を選択します。 (出荷時の設定：常時)
 手動：「WAN側」画面の〈接続〉/〈切断〉ボタンで、回線を強制的に接続/切断します。
 自動：パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的に接続します。
 常時：常時接続します。
 本製品で指定した接続先(WAN側)と常に接続状態を保持します。
 SIPサーバを使用するときなどは、「常時」を設定します。
- ③ **自動切断タイマ** [接続設定](②)欄で「自動」を設定している場合、WAN側への送出パケットがなくなってから回線を切断するまでの時間を分で入力します。 (出荷時の設定：10)
 設定できる範囲は、「0(自動切断しない)~65535」です。

1 「WAN側設定」メニュー

1-2. 「WAN側詳細」画面

■ PPPoE詳細設定(つづき)

WAN側		WAN側詳細	アドレス変換	IPフィルタ
PPPoE詳細設定				
接続先選択	①	WAN01	▼	選択
接続設定	②	<input type="radio"/> 手動 <input type="radio"/> 自動 <input checked="" type="radio"/> 常時		
自動切断タイム	③	10 分 * 自動接続時のみ有効。0に設定するとOFF。		
MSS制限値	④	1322		
ACネーム	⑤	<input type="text"/>		
サービスネーム	⑥	<input type="text"/>		
宛先ドメイン	⑦	<input type="text"/> <small>DNSサーバの代理応答を使用しない場合は無効。</small>		

※回線種別を「DHCP」に設定したときは、表示されません。

※[宛先ドメイン]欄は、回線種別を「PPPoE複数固定IP」に設定したときは、表示されません。

④ MSS制限値

プロバイダーから指定されている場合に限り、WAN側回線への最大有効データ長を数字で指定します。(出荷時の設定: 1322) 設定できる範囲は、「536~1452」です。

MSS値とは、受信できる最大セグメント数のことです。

イーサネットパケットの最大長(MTU)は1500バイトと定められています。

これに対して、「PPPoE」や「フレッツ・ADSL」の最大データサイズは1322より大きい値となっていますが、現行のインターネットルータには、オーバーサイズのパケットを破棄するものがあります。

よって、パケットの保護を優先するために小さめに設定しておく必要があります。

△警告

弊社では、MSS値を変更したことによって生じる結果については一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

⑤ ACネーム

プロバイダーから指定されている場合に限り、指定のアクセスコンセントレータ名を入力します。

⑥ サービスネーム

プロバイダーから指定されている場合に限り、指定のサービスネームを入力します。

1-2.「WAN側詳細」画面

■ PPPoE詳細設定(つづき)

WAN側		WAN側詳細	アドレス変換	IPフィルタ
PPPoE詳細設定				
接続先選択	①	WAN01	選択	
接続設定	②	<input type="radio"/> 手動 <input type="radio"/> 自動 <input checked="" type="radio"/> 常時		
自動切断タイム	③	10 分 * 自動接続時のみ有効。0に設定するとOFF。		
MSS制限値	④	1322		
ACネーム	⑤	<input type="text"/>		
サービスネーム	⑥	<input type="text"/>		
宛先ドメイン	⑦	<input type="text"/> <small>DNSサーバの代理応答を使用しない場合は無効。</small>		

※回線種別を「DHCP」に設定したときは、表示されません。

※[宛先ドメイン]欄は、回線種別を「PPPoE複数固定IP」に設定したときは、表示されません。

⑦ 宛先ドメイン

回線種別が「PPPoE」に設定されているとき表示されます。

マルチセッションで接続する接続先(NTTフレッツ・スクウェアなど)を[接続先選択](①)欄で、マルチセッションで接続する接続先(NTTフレッツ・スクウェアなど)を選択している場合、その接続先が使用するDNSサーバのドメインを設定します。

この欄には、ワイルドカードとして、「?」「*」が使用できます。また「?」は任意の1文字、「*」は任意の文字列として認識されません。

NTTフレッツ・スクウェアへ接続する場合、「*.flets」を指定したときは、「www.flets」などのドメイン名として、その接続先が使用するDNSサーバに問い合わせをします。

※DNSサーバのIPアドレス入力しても無効です。

※本製品の「ネットワーク設定」メニューの「LAN側IP」画面に表示される「DHCPサーバ設定」項目で「DNS代理応答を使用」欄を「しない」に設定している場合は、無効です。

1 「WAN側設定」メニュー

1-3.「アドレス変換」画面

■ アドレス変換設定



アドレス変換機能を設定します。



登録		取消	
アドレス変換設定			
アドレス変換	①	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
DMZホスト IPアドレス	②	<input type="text"/>	
PPTPパススルーを使用	③	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する

〈登録〉ボタン …………… 「アドレス変換」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン …………… 「アドレス変換」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

① アドレス変換 …………… 静的マスカレード機能、静的NAT機能を使用して、指定したグローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：する)

② DMZホストIPアドレス …… DMZホスト機能(非武装セグメント)を使用するホストのIPアドレスを入力します。
DMZホスト機能を使うと、WAN(インターネット)側から発信されたすべてのIPフレームを、LAN側に存在する特定IPアドレスへ転送できます。
転送することにより、本製品とEthernetケーブルで接続されたパソコンでWWWサーバを運用したり、ネットワーク対戦ゲームなどが行えますが、セキュリティー上問題となることがありますのでご使用には十分注意してください。

③ PPTPパススルーを使用 …… 自宅のパソコンなどから、インターネット経由で社内LANの仮想プライベートネットワーク(VPN)サーバにアクセスするとき設定します。
(出荷時の設定：する)
※使用例については、第8-4章(本書)を参考にパソコンを設定してください。
マルチプロトコル仮想プライベートネットワーク(VPN)をサポートするネットワーク技術で、クライアントからのPPTPパケットをWAN側に転送するかしないかの設定です。

1-3.「アドレス変換」画面(つづき)



■ 静的マスカレードテーブル設定

IPマスカレード変換を静的に行う設定です。

静的マスカレードテーブル設定					
登録の追加					
ローカルIP	プロトコル	ポート	開始ポート	終了ポート	
<input type="text"/>	TCP	指定	<input type="text"/>	<input type="text"/>	追加
現在の登録					
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート		

マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。

- ◎ローカルIP：プライベートIPアドレスを入力します。
 - ◎プロトコル：TCP、UDP、TCP/UDP、GREから選択します。
 - ◎ポート：選択したプロトコルに対するポートを数字で指定するときは、「指定」を選択します。
数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。
 - ◎開始ポート：プロトコルに対する開始ポート番号を入力します。
 - ◎終了ポート：プロトコルに対する終了ポート番号を入力します。
- ※入力後は〈追加〉をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

■ DMZホスト機能と静的マスカレード機能の違い

DMZホスト機能	静的マスカレード機能
プロトコルやポート番号の指定が不要。	プロトコルやポート番号の指定が必要。
転送先として指定できるホストのIPアドレスは、1つだけである。	異なるプロトコルやポート番号ごとに、複数の転送先を設定できる。
転送先の変更が容易にできる。	転送先は、プロトコルやポート番号ごとに指定されているため、変更が複雑である。
転送先に指定したホストについては、セキュリティが低下する。	静的マスカレードテーブルに登録していないプロトコルやポート番号は、遮断される。

1 「WAN側設定」メニュー

1-3.「アドレス変換」画面(つづき)



■ 静的NATテーブル設定

グローバルとプライベートのIPアドレス変換を行う設定です。

静的NATテーブル設定			
登録の追加			
グローバルIP	-	ローカルIP	
<input type="text"/>	-	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録			
グローバルIP	-	ローカルIP	

プロバイダーおよび回線接続業者との契約で、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。

最大32個のNATテーブルを設定できます。

◎グローバルIP：指定されたグローバルIPアドレスを入力します。

◎ローカルIP：任意のプライベートIPアドレスを入力します。

※入力後は〈追加〉をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

1-4.「IPフィルタ」画面

■ IPフィルタ設定



特定条件を満たす内部または外部からのパケットを通過させたり、通過を阻止させるフィルターの設定です。

IPフィルタ設定	
番号	① <input type="text"/> <input type="button" value="登録"/>
フィルタ方向	② WAN側から ▼
フィルタ方法	③ 遮断 ▼
プロトコル	④ すべて ▼ 指定時: <input type="text"/>
発信元ポート番号	⑤ すべて ▼ 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先ポート番号	⑥ すべて ▼ 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
発信元IPアドレス	⑦ <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先IPアドレス	⑧ <input type="text"/> ~ <input type="text"/>

① 番号

最大64件のフィルターを登録できます。
 入力できる範囲は、「1～64」です。
 フィルターを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに、[現在の登録]項目(※P30)に表示されたフィルターと比較します。
 [番号]欄では、フィルターを比較する順位を指定します。
 フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。
 フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。

〈登録〉ボタン

この項目で新規作成、または編集した内容をフィルターとして[現在の登録]項目に登録するボタンです。
 ※フィルター条件は、1つ以上指定してください。

② フィルタ方向

パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルターの対象となる方向を設定します。
 以下の中から選択してください。

- WAN側から：WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
 ※フィルタリング処理は、アドレス変換のあとに行います。
- LAN側から：本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
 ※フィルタリング処理は、アドレス変換の前に行います。
- 両方：本製品からWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。

1 「WAN側設定」メニュー

1-4.「IPフィルタ」画面

■ IPフィルタ設定(つづき)

WAN側		WAN側詳細		アドレス変換		IPフィルタ	
IPフィルタ設定							
番号	①	<input type="text"/>	<input type="button" value="登録"/>				
フィルタ方向	②	WAN側から ▾					
フィルタ方法	③	遮断 ▾					
プロトコル	④	すべて ▾	指定時:	<input type="text"/>			
発信元ポート番号	⑤	すべて ▾	指定時:	<input type="text"/>	~	<input type="text"/>	
宛先ポート番号	⑥	すべて ▾	指定時:	<input type="text"/>	~	<input type="text"/>	
発信元IPアドレス	⑦	<input type="text"/>	~	<input type="text"/>			
宛先IPアドレス	⑧	<input type="text"/>	~	<input type="text"/>			

③ フィルタ方法 ……………

フィルタリングの方法は、以下の2通りから選択します。

- ◎遮断 : フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
- ◎透過 : フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。

④ プロトコル ……………

フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。

- ◎指定 : 右のテキストボックスに、IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。
プロトコル番号は、10進数で0~255までの半角数字を入力してください。
- ◎すべて : すべてのプロトコルの条件に一致します。
- ◎TCP : TCPプロトコルの条件だけに一致します。
- ◎TCP_FIN : TCP_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
- ◎TCP_EST : TCP_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
- ◎UDP : UDPプロトコルの条件だけに一致します。
- ◎ICMP : ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
- ◎GRE : GREプロトコルの条件だけに一致します。

1-4.「IPフィルタ」画面

■ IPフィルタ設定(つづき)

WAN側		WAN側詳細		アドレス変換		IPフィルタ	
IPフィルタ設定							
番号	①	<input type="text"/>	<input type="button" value="登録"/>				
フィルタ方向	②	WAN側から					
フィルタ方法	③	遮断					
プロトコル	④	すべて	指定時:	<input type="text"/>			
発信元ポート番号	⑤	すべて	指定時:	<input type="text"/>	~	<input type="text"/>	
宛先ポート番号	⑥	すべて	指定時:	<input type="text"/>	~	<input type="text"/>	
発信元IPアドレス	⑦	<input type="text"/>	~	<input type="text"/>			
宛先IPアドレス	⑧	<input type="text"/>	~	<input type="text"/>			

- ⑤ 発信元ポート番号 …………… フィルタリングの対象となる発信元のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。数字で指定するときは、「指定」を選択して、番号を始点から終点まで連続で入力します。
入力できる範囲は、10進数で「1~65535」までの半角数字です。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
数字で指定しない場合は、「すべて」、または二ーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。
- ⑥ 宛先ポート番号 …………… フィルタリングの対象となる宛先のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。
数字で指定するときは、「指定」を選択して、番号を始点から終点まで連続で入力します。
入力できる範囲は、10進数で「1~65535」までの半角数字です。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
数字で指定しない場合は、「すべて」、または二ーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。
- ⑦ 発信元IPアドレス …………… 発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。
何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
発信元ホストのIPアドレスを始点から終点まで連続で入力します。また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。
- ⑧ 宛先IPアドレス …………… 宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。
始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
宛先ホストのIPアドレスを始点から終点まで連続で入力します。また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

1 「WAN側設定」メニュー

1-4.「IPフィルタ」画面(つづき)

WAN側

WAN側詳細

アドレス変換

IPフィルタ

■ 現在の登録

		現在の登録							
		番号	方向	方法	プロトコル	発信元ポート番号	宛先ポート番号	発信元IPアドレス	宛先IPアドレス
編集	削除	57	WAN側から	透過	TCP	20	*	*	*
編集	削除	58	WAN側から	遮断	TCP_EST	*	*	*	*
編集	削除	59	両方	遮断	すべて	135	*	*	*
編集	削除	60	両方	遮断	すべて	*	135	*	*
編集	削除	61	両方	遮断	すべて	445	*	*	*
編集	削除	62	両方	遮断	すべて	*	445	*	*
編集	削除	63	両方	遮断	TCP	*	137 - 139	*	*
編集	削除	64	両方	遮断	UDP	137 - 139	137 - 139	*	*

現在登録されているIPフィルタを表示します。

【出荷時、登録されているフィルタについて】

- ◎57番 : FTPをデフォルトで通過させる
- ◎58番 : WAN側からの不正パケット防止
- ◎59、60番 : Windowsのアプリケーションを外部からリモートコントロールされる危険性を防止
- ◎61～64番 : Windowsが行う定期的な通信によって起こる「意図しない自動接続」を防止

〈編集〉ボタン

〈編集〉ボタンの右の欄に表示されたIPフィルタを編集するボタンです。

編集する欄の〈編集〉ボタンをクリックすると、その内容を[IPフィルタ設定]項目の各欄に表示します。

〈削除〉ボタン

〈削除〉をクリックすると、その右の欄に表示されたIPフィルタが削除されます。

この章では、
「電話設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

2-1.「接続」画面	32
■ VoIP接続設定	32
■ 使用回線の設定(コミュファ以外を設定時)	33
■ 使用回線の設定(コミュファを設定時)	34
■ 電話回線設定(Peer to Peerを設定時)	35
■ 電話回線設定(Peer to Peer以外を設定時)	36
■ 付加機能設定	37
2-2.「電話」画面	38
■ 基本設定(Peer to Peerまたはフュージョン・コミュニケーションズを設定時)	38
■ 基本設定(コミュファまたはケイ・オプティコムを設定時)	40
■ VoIPダイヤルタイミング	42
■ トーン設定	42
2-3.「SIP」画面	43
■ SIP設定(Peer to Peerを設定時)	43
■ 直接発信設定(Peer to Peer以外を設定時)	43
■ 直接発信設定(Peer to Peerを設定時)	44
■ IP加入電話番号表示(フュージョン・コミュニケーションズを設定時)	45
■ 050電話番号設定(コミュファまたはケイ・オプティコムを設定時)	45
■ SIPサーバ(1)/SIPサーバ(2)/SIPサーバ(3)設定 (フュージョン・コミュニケーションズを設定時)	46
■ SIPサーバ(1)/SIPサーバ(2)/SIPサーバ(3)設定(コミュファを設定時)	47
■ SIPサーバ(1)/SIPサーバ(2)/SIPサーバ(3)設定(ケイ・オプティコムを設定時)	48
2-4.「VoIP詳細」画面	49
■ VoIP音質設定	49
■ TOS設定	51
2-5.「着信」画面	53
■ セレクト着信設定/現在の設定	53
2-6.「VoIP電話帳」画面	54
■ 電話帳の保存と書き込み	54
■ 登録の追加/現在の登録	55
2-7.直接発信の設定例	57
■ Peer to Peerの相手に直接発信して通話する場合	57
■ SIPサーバの相手に直接発信して通話する場合	60

2 「電話設定」メニュー

2-1.「接続」画面

■ VoIP接続設定



IP電話の回線接続方法を設定します。

- 〈登録〉ボタン …………… 「接続」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン …………… 「接続」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- 接続方法の選択 …………… 本製品が対応するIP電話への接続方法は、相手のSIP URL(グローバルIPアドレス)を登録して1対1で通話する方法と、SIPサーバを利用する方法があります。(出荷時の設定：Peer to Peer)
- ◎Peer to Peer：
SIPサーバを使用せず、相手のSIP URL(グローバルIPアドレス)を登録して、1対1で通話するとき設定します。
 - ◎フュージョン・コミュニケーションズ：
フュージョン・コミュニケーションズのSIPサーバに接続して「FUSION IP-Phone」サービスを使用するとき設定します。
 - ◎コミュファ：
コミュファのSIPサーバに接続して「はなしてフォン」サービスを使用するとき設定します。
 - ◎ケイ・オプティコム：
ケイ・オプティコムのSIPサーバに接続して「eo-netフォン」サービスを使用するとき設定します。

2-1.「接続」画面(つづき)



■ 使用回線の設定(コミュファ以外を設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の [VoIP接続設定]項目で、「コミュファ」以外を設定したとき表示されます。

本製品で使用する回線(加入電話/VoIP)についての設定です。

使用回線の設定	
標準発信先	① 自動切替(VoIP優先) ▼
電話回線発信番号	② 0000
フッキングによる切替を使用③	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する

① 標準発信先 ……………

受話器を取ったとき、発信する回線を設定します。

※VoIP電話帳に登録した電話番号をダイヤルした場合は、その電話番号と共に登録された「発信先」に発信します。

(出荷時の設定：自動切替(VoIP優先))

◎電話回線 : 電話をかけたとき、加入電話回線で発信します。

加入電話回線を本製品の[LINe]ポートに接続していない場合は、IP電話での発信に自動で切り替わります。

◎VoIP : 電話をかけたとき、IP電話で発信します。

◎自動切替(VoIP優先) : 最初にIP電話で発信し、発信できなかったときは、加入電話回線で発信します。

② 電話回線発信番号 ……………

[標準発信先]欄で「電話回線」以外を設定したとき有効な設定で、発信先をIP電話から加入電話回線に切り替えるとき、電話機からダイヤルする番号を4桁以内の数字で入力します。

(出荷時の設定：0000)

受話器を取ってこの欄で設定した番号に続けて加入電話回線の電話番号をダイヤルすると、加入電話回線の相手と通話できます。

※IP電話で通話中は、機能しません。

③ フッキングによる切替を使用 ……………

IP電話と加入電話回線の発信を電話機のフックボタンで切り替えできるようにするかしないかを設定します。

「する」に設定されているときは、電話機のフックボタンを短く押す(フッキングする)と、何回でも切り替えできます。

(出荷時の設定：する)

2 「電話設定」メニュー

2-1.「接続」画面(つづき)



■ 使用回線の設定(コミュファを設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の [VoIP接続設定]項目で、「コミュファ」を設定したとき表示されます。

本製品で使用する回線(加入電話/VoIP)についての設定です。

使用回線の設定	
標準発信先	① 自動切替(VoIP優先) ▼
電話回線発信番号	② 0009
VoIP発信番号	③ 0008
フッキングによる切替を使用	④ <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する

① 標準発信先 ……………

受話器を取ったとき、発信する回線を設定します。

※VoIP電話帳に登録した電話番号をダイヤルした場合は、その電話番号と共に登録された「発信先」に発信します。

(出荷時の設定：自動切替(VoIP優先))

◎電話回線 : 電話をかけたとき、加入電話回線で発信します。

加入電話回線を本製品の[LINe]ポートに接続していない場合は、IP電話での発信に自動で切り替わります。

◎VoIP : 電話をかけたとき、IP電話で発信します。

◎自動切替(VoIP優先) : 最初にIP電話で発信し、発信できなかったときは、加入電話回線で発信します。

② 電話回線発信番号 ……………

[標準発信先]欄で「電話回線」以外を設定したとき有効な設定で、発信先をIP電話から加入電話回線に切り替えるとき、電話機からダイヤルする番号を4桁以内の数字で入力します。

(出荷時の設定：0009)

受話器を取ってこの欄で設定した番号に続けて加入電話回線の電話番号をダイヤルすると、加入電話回線の相手と通話できます。

※IP電話で通話中は、機能しません。

③ VoIP発信番号 ……………

[標準発信先]欄で「自動切替(VoIP優先)」を設定したとき有効な設定で、IP電話で発信しつながらない場合でも加入電話回線に自動切り替えしないうき、電話機からダイヤルする番号を4桁以内の数字で入力します。

(出荷時の設定：0008)

受話器を取ってこの欄で設定した番号に続けてIP電話回線の電話番号をダイヤルすると、IP電話回線の相手と通話できます。

※加入電話回線への発信は行いません。

④ フッキングによる

切替を使用 ……………

IP電話と加入電話回線の発信を電話機のフックボタンで切り替えできるようにするかしないかを設定します。

「する」に設定されているときは、電話機のフックボタンを短く押す(フッキングする)と、何回でも切り替えできます。

(出荷時の設定：する)

2-1.「接続」画面(つづき)



■ 電話回線の設定(Peer to Peerを設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の [VoIP接続設定]項目で、「Peer to Peer」を設定したとき表示されま
す。

ご使用の一般加入電話回線についての設定です。

電話回線の設定		
回線種別 ①	DP(20pps) ▼	
回線側音量 ②	受話音量 標準 ▼	送話音量 標準 ▼

① 回線種別

本製品の[LINE]ポートに接続する回線の種類を設定します。

(出荷時の設定：DP(20pps))

※設定した回線種別が実際の回線と異なると、加入電話から発信
できませんので、ご注意ください。

- ◎PB : 接続する加入電話回線のダイヤル方式がPB(ト
ーン信号)のとき
- ◎DP(20pps) : 接続する加入電話回線のダイヤル方式がDP(パ
ルス信号)で、パルス速度が20ppsのとき
- ◎DP(10pps) : 接続する加入電話回線のダイヤル方式がDP(パ
ルス信号)で、パルス速度が10ppsのとき

② 回線側音量

【受話音量】 : 一般加入電話使用時、回線側から自分の受話器に聞
こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

【送話音量】 : 一般加入電話使用時、回線側から相手の受話器に聞
こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

2 「電話設定」メニュー

2-1.「接続」画面(つづき)



■ 電話回線の設定 (Peer to Peer以外を設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の [VoIP接続設定]項目で、「Peer to Peer」以外を設定したとき表示されます。

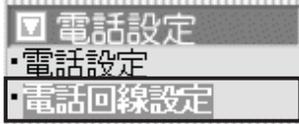
ご使用の一般加入電話回線についての設定です。

電話回線の設定		
回線種別 ①	DP(20pps) ▼	
回線側音量 ②	受話音量 標準 ▼	送話音量 標準 ▼
市外局番 ③		

- ① 回線種別 本製品の[LINe]ポートに接続する回線の種類を設定します。
(出荷時の設定：DP(20pps))
※設定した回線種別が実際の回線と異なると、加入電話から発信できませんので、ご注意ください。
- ◎PB : 接続する加入電話回線のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき
- ◎DP(20pps) : 接続する加入電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が20ppsのとき
- ◎DP(10pps) : 接続する加入電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が10ppsのとき
- ② 回線側音量 【受話音量】 : 一般加入電話使用時、回線側から自分の受話器に聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)
- 【送話音量】 : 一般加入電話使用時、回線側から相手の受話器に聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)
- ③ 市外局番 本製品をお使いになる地域に割り当てられている一般加入電話回線の市外局番を入力します。
(出荷時の設定：空白)
- 入力は、「0」から始まる2～7桁の番号を半角で入力します。
電話機から電話番号(市内局番+加入者番号)だけをダイヤルすると、ここで入力した市外局番をダイヤルした電話番号(市内局番+加入者番号)の先頭に付加して発信します。
- ※「0」から始まる番号をダイヤルした場合を除きます。
※SIPサーバへの発信を介して、市内にある一般加入電話の相手に発信するとき、この市外局番が必要になります。

2-1.「接続」画面(つづき)

■ 付加機能設定

VoIP通話中に電話回線からの
着信を受ける ……………

IP電話で通話中、加入電話からの着信に対する設定です。



IP電話通話中、加入電話回線から着信を受けられるようにするかしないかを設定します。 (出荷時の設定：する)

IP電話で通話中に加入電話回線から着信があると、音(「ブルブルブル」を3回繰り返す)でお知らせします。

このとき、フッキングすると、IP電話での通話を切断して、加入電話回線の通話に切り替わります。

※IP電話でダイヤル中の場合は、着信を受けることができません。

2 「電話設定」メニュー

2-2.「電話」画面



■ 基本設定 (Peer to Peer またはフュージョン・コミュニケーションズを設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の [VoIP接続設定]項目で、「Peer to Peer またはフュージョン・コミュニケーションズ」を設定したとき表示されます。

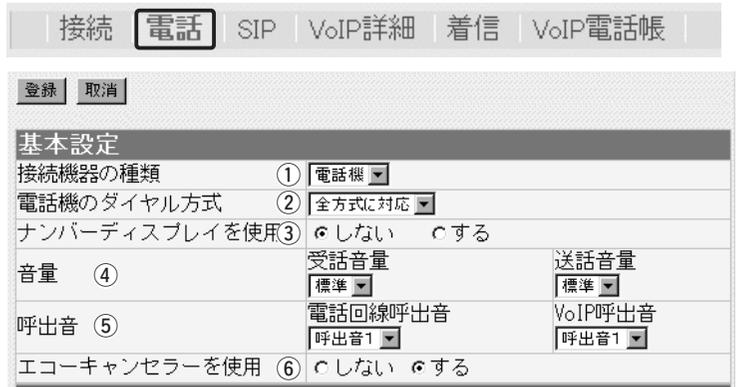
[TEL]ポートに接続する電話機の基本設定です。

- 〈登録〉ボタン …………… 「電話」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン …………… 「電話」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお 〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ① 接続機器の種類 …………… 本製品の[TEL]ポートに接続する機器の種類を設定します。
(出荷時の設定：電話機)
◎電話機：アナログ電話機を接続するとき
◎FAX：G3ファクシミリを使用するとき
※IP電話によるファクシミリの動作は、保証いたしません。
- ② 電話機のダイヤル方式 …… 本製品に接続する電話機のダイヤル信号の種類を設定します。
(出荷時の設定：全方式に対応)
◎全方式に対応：電話機のダイヤル方式を自動認識させるとき
◎PB：電話機のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき
◎DP(20pps)：電話機のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が20ppsのとき
◎DP(10pps)：電話機のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が10ppsのとき
- ③ ナンバーディスプレイ
を使用 …………… NTTのナンバーディスプレイサービス(有料)を、本製品に接続する電話機で使用するかしないかを設定します。
(出荷時の設定：しない)
※本製品に接続する電話機でナンバーディスプレイサービスを使用する場合、ナンバーディスプレイ対応の電話機が必要です。

2-2.「電話」画面

■ 基本設定(Peer to Peerまたはフュージョン・コミュニケーションズを設定時)のつづき

この項は、「接続」画面(※2-1章)の[VoIP接続設定]項目で、「Peer to Peerまたはフュージョン・コミュニケーションズ」を設定したとき表示されます。



④ 音量

【受話音量】：一般加入電話およびIP電話使用時、自分の受話器から聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

【送話音量】：一般加入電話およびIP電話使用時、相手の受話器に聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

⑤ 呼出音

【電話回線呼出音】：加入電話回線からかかってきた電話の着信音パターンを選択します。
(出荷時の設定：呼出音1)

※本製品に接続する電話機によっては、呼び出し音が変わらないことがあります。

【VoIP呼出音】：IP電話からかかってきた電話の着信音パターンを選択します。(出荷時の設定：呼出音1)

※本製品に接続する電話機によっては、呼び出し音が変わらないことがあります。

⑥ エコーキャンセラーを使用

IP電話で通信するとき起こるエコー(反響)を低減する機能を使用するかしないかの設定です。
(出荷時の設定：する)

2 「電話設定」メニュー

2-2.「電話」画面



■ 基本設定(コミュファまたはケイ・オプティコムを設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の [VoIP接続設定]項目で、「コミュファまたはケイ・オプティコム」を設定したとき表示されます。

[TEL]ポートに接続する電話機の基本設定です。

登録		取消	
基本設定			
接続機器の種類	①	電話機	
電話機のダイヤル方式	②	全方式に対応	
ナンバーディスプレイを使用	③	<input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
非通知着信時に着信を拒否	④	<input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
音量	⑤	受話音量	送話音量
		標準	標準
呼出音	⑥	電話回線呼出音	VoIP呼出音
		呼出音1	呼出音1
エコーキャンセラーを使用	⑦	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する

〈登録〉ボタン ……………

「電話」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………

「電話」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。

なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

① 接続機器の種類 ……………

本製品の[TEL]ポートに接続する機器の種類を設定します。

(出荷時の設定：電話機)

◎電話機：アナログ電話機を接続するとき

◎FAX：G3ファクシミリを使用するとき

※IP電話によるファクシミリの動作は、保証いたしません。

② 電話機のダイヤル方式 ……

本製品に接続する電話機のダイヤル信号の種類を設定します。

(出荷時の設定：全方式に対応)

◎全方式に対応：電話機のダイヤル方式を自動認識させるとき

◎PB：電話機のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき

◎DP(20pps)：電話機のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が20ppsのとき

◎DP(10pps)：電話機のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が10ppsのとき

③ ナンバーディスプレイ
を使用 ……………

NTTのナンバーディスプレイサービス(有料)を、本製品に接続する電話機で使用するかしないかを設定します。

(出荷時の設定：しない)

※本製品に接続する電話機でナンバーディスプレイサービスを使用する場合、ナンバーディスプレイ対応の電話機が必要です。

2-2.「電話」画面

■ 基本設定(コミュファまたはケイ・オプティコムを設定時のつづき

この項は、「接続」画面(※2-1章)の[VoIP接続設定]項目で、「コミュファまたはケイ・オプティコム」を設定したとき表示されます。

接続			電話	SIP	VoIP詳細	着信	VoIP電話帳
登録		取消					
基本設定							
接続機器の種類		①	電話機				
電話機のダイヤル方式		②	全方式に対応				
ナンバーディスプレイを使用		③	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する				
非通知着信時に着信を拒否		④	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する				
音量	⑤	受話音量		送話音量			
		標準		標準			
呼出音	⑥	電話回線呼出音		VoIP呼出音			
		呼出音1		呼出音1			
エコーキャンセラーを使用		⑦	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する				

④ 非通知着信時に着信を拒否

IP電話からの非通知着信を拒否するかしないかの設定です。拒否するに設定すると、IP電話を使って番号非通知でかけてきた相手からは着信しません。(出荷時の設定：しない)

⑤ 音量

【受話音量】：一般加入電話およびIP電話使用时、自分の受話器から聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。(出荷時の設定：標準)

【送話音量】：一般加入電話およびIP電話使用时、相手の受話器に聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。(出荷時の設定：標準)

⑥ 呼出音

【電話回線呼出音】：加入電話回線からかかってきた電話の着信音パターンを選択します。(出荷時の設定：呼出音1)

※本製品に接続する電話機によっては、呼び出し音が変わらないことがあります。

【VoIP呼出音】：IP電話からかかってきた電話の着信音パターンを選択します。(出荷時の設定：呼出音1)
 ※本製品に接続する電話機によっては、呼び出し音が変わらないことがあります。

⑦ エコーキャンセラーを使用

IP電話で通信するとき起こるエコー(反響)を低減する機能を使用するかしないかの設定です。(出荷時の設定：する)

2 「電話設定」メニュー

2-2.「電話」画面(つづき)



■ VoIPダイヤルタイミング

IP電話番号をダイヤルして発信を開始するまでの待ち時間についての設定です。

VoIPダイヤルタイミング		
ダイヤル待ち時間 ①	5 秒	VoIPでの発信時のみ有効です。
フッキング判定時間 ②	1 秒	

① ダイヤル待ち時間 ……………

本製品の[TEL]ポート接続された電話機からIP電話をかけたとき、ダイヤル終了から発信を開始するまでの時間を設定します。

(出荷時の設定：5)

設定できる範囲は、「1～99(秒)」です。

② フッキング判定時間 ……………

電話機のフックボタンを押して(受話器を置いて)から、実際に通話回線が切断(オンフック)されるまでの時間を設定します。

(出荷時の設定：1)

ここで設定した時間よりフックボタンを押し続ける時間が短い場合は、フッキングと認識します。

設定できる範囲は、「1～99(秒)」です。

■ トーン設定

IP電話使用時に受話器から聞こえるトーンについての設定です。

トーン設定		
ダイヤルトーン ①	トーン1	
ウェイトトーン ②	有効	
VoIP接続トーン ③	有効	

① ダイヤルトーン ……………

IP電話を使って電話をかける際に、受話器あげた時に聞こえるダイヤルトーンの種類を設定します。 (出荷時の設定：トーン1)

トーン1：「ツーツツ」

トーン2：「ツー」(一般加入電話回線発信時に聞こえる音と同じ)

② ウェイトトーン ……………

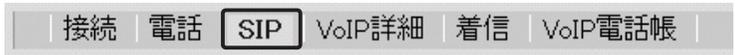
IP電話を使って電話をかける際に、相手先とつながるまでの間に受話器より聞こえるウェイトトーンを有効にするかしないかを設定します。 (出荷時の設定：有効)

③ VoIP接続トーン……………

IP電話で電話をかける際に、相手先とつながる時に受話器より聞こえる接続音を有効にするかしないかを設定します。

(出荷時の設定：有効)

2-3.「SIP」画面



■ SIP設定(Peer to Peerを設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の [VoIP接続設定]項目で、「Peer to Peer」(SIPプロトコルによる1対1の通信)を設定したとき表示されま

相手のSIP URL(グローバルIPアドレス)を登録して、1対1でIP電話するとき、自分のSIPアドレスを設定します。

〈登録〉ボタン ……………

「SIP」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………

「SIP」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

SIP URL ……………

自分のSIP URLを、「sip : [SIPユーザー名]@[本製品のWAN側IPアドレス]」、または「sip : [SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]」の書式で入力します。
[SIPユーザー名]の部分には、任意の英数字(半角31文字以内)を入力します。
[@]より以下の部分には、本製品のWAN側IPアドレス、またはダイナミックDNSサービスに登録して取得したホスト名(例：telephone)と指定されたドメイン名(例：icom.co.jp)を半角英数字(63文字以内)で入力します。

■ 直接発信設定(Peer to Peer以外を設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の [VoIP接続設定]項目で、「Peer to Peer」以外を設定したとき表示されます。
※直接発信の設定例については、57ページをご覧ください。

直接発信でIP電話するとき、相手先のIPアドレスを登録します。

直接発信設定				
ホストアドレス設定				
01	02	03	04	05
06	07	08	09	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

ホストアドレス設定 ……………

ここに設定した相手のIPアドレスは、「VoIP電話帳」画面(※2-5章)の [登録の追加]項目にある [発信先の選択]欄で、「直接発信プレフィクス」に指定された電話番号をダイヤルしたとき、使用されます。

発信したい相手側のIPアドレスを入力します。
登録したIPアドレスの相手が通話中のときや接続できないときは、それ以外に登録しているIPアドレスの相手を順番に呼び出します。
[01]の相手から番号順に発信を開始し、登録内容を一巡しても接続できない場合は、発信を中止します。

2 「電話設定」メニュー

■ 直接発信設定(Peer to Peerを設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の[VoIP接続設定]項目で、「Peer to Peer」(SIPプロトコルによる1対1の通信)を設定したとき表示されます。

※直接発信の設定例については、57ページをご覧ください。

直接発信でIP電話するとき、相手先のIPアドレスを登録します。

直接発信設定				
自動切替を使用		<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
ホストアドレス設定				
01	02	03	04	05
06	07	08	09	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

自動切替を使用 ……………

「VoIP電話帳」に登録されていない番号へダイヤルしたとき、直接発信へ自動切替するかしないかの設定です。

(出荷時の設定：しない)

◎しない : 自動切替をしません。直接発信を利用するためには、「直接発信プレフィクス」で設定した番号を先頭につけてダイヤルする必要があります。

◎する : 自動切替をします。ダイヤルした番号が電話帳に見つからないとき、「直接発信プレフィクス」番号を先頭に補完して直接発信を行います。

※「直接発信プレフィクス」番号を先頭につけてダイヤルした場合でも従来どおりの直接発信となります。

ホストアドレス設定 ……………

ここに設定した相手のIPアドレスは、「VoIP電話帳」画面(※2-5章)の[登録の追加]項目にある[発信先の選択]欄で、「直接発信プレフィクス」に指定された電話番号をダイヤルしたとき、または「自動切替を使用」項目を「する」に設定し、直接発信するときに使用されます。

本製品の[TEL]ポート接続された電話機からIP電話をかけたとき、ダイヤル終了から発信を開始するまでの時間を設定します。

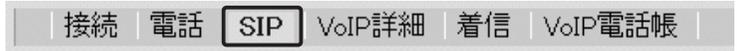
(出荷時の設定：5)

発信したい相手側のIPアドレスを入力します。

登録したIPアドレスの相手が通話中のときや接続できないときは、それ以外に登録しているIPアドレスの相手を順番に呼び出します。

[01]の相手から番号順に発信を開始し、登録内容を一巡しても接続できない場合は、発信を中止します。

2-3.「SIP」画面(つづき)



■ IP加入電話番号表示(フュージョン・コミュニケーションズを設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の[VoIP接続設定]項目で、「フュージョン・コミュニケーションズ」を設定したとき表示されます。

SIPサーバを使用したIP電話の番号通知についての設定です。



〈登録〉ボタン ……………

「SIP」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………

「SIP」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

IP加入電話番号 ……………

ご契約の回線業者から付与された電話番号を表示します。
 ※電話番号表示は、[SIPサーバ(1) 設定]項目の[アカウントID]を登録することで表示されます。

■ 050電話番号設定(コミュファまたはケイ・オプティコムを設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の[VoIP接続設定]項目で、「コミュファおよびケイ・オプティコム」を設定したとき表示されます。

SIPサーバを使用したIP電話の番号通知についての設定です。



〈登録〉ボタン ……………

「SIP」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………

「SIP」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

050電話番号 ……………

ご契約の回線業者から付与された電話番号を設定します。

番号通知 ……………

IP電話使用时、接続先にIP電話番号を通知するかしないかを設定します。番号通知を使用しない場合、接続先が非通知着信拒否を設定していると電話がかかりません。
 ※一般加入回線を使用して電話をかける場合、この設定は無効です。

2 「電話設定」メニュー

2-3.「SIP」画面(つづき)



■ SIPサーバ(1)/SIPサーバ(2)/SIPサーバ(3)設定(フュージョン・コミュニケーションズを設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の [VoIP接続設定]項目で、「フュージョン・コミュニケーションズ」を設定したとき表示されます。

SIPサーバにアクセスするための設定です。

商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定された項目だけを設定します。

また、SIPサーバ(2)とSIPサーバ(3)についても、指定された場合だけ設定してください。

SIPサーバ(1) 設定	
SIPプロキシサーバ ①	<input type="text"/>
SIPドメイン ②	<input type="text"/>
アカウントID ③	<input type="text"/>
IP加入電話パスワード ④	<input type="text"/>
接続状況 ⑤	<input type="text"/>

※この項目で設定できる内容は同じため、[SIPサーバ(1)設定]項目の画面で説明しています。

- ① SIPプロキシサーバ …………… 商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定されたSIPプロキシサーバのIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ② SIPドメイン …………… 商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定されたSIPサーバのドメイン名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ③ アカウントID …………… SIPサーバへの接続認証に使用するアカウントIDです。
商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
- ④ IP加入電話パスワード …… SIPサーバへの接続認証に使用するパスワードです。
商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
- ⑤ 接続状況 …………… SIPサーバとの接続状態を、「接続中」、「接続成功」、「接続失敗」で表示します。
SIPサーバ未設定時は、何も表示されません。
また、「接続失敗」と表示される場合は、設定内容を確認してください。

2-3.「SIP」画面(つづき)

接続 | 電話 | **SIP** | VoIP詳細 | 着信 | VoIP電話帳

■ SIPサーバ(1)/SIPサーバ(2)/SIPサーバ(3)設定(コミュファを設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の [VoIP接続設定]項目で、「コミュファ」を設定したとき表示されます。

SIPサーバにアクセスするための設定です。

商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定された項目だけを設定します。

また、SIPサーバ(2)とSIPサーバ(3)についても、指定された場合だけ設定してください。

SIPサーバ(1) 設定

SIPサーバアドレス	①	<input type="text"/>
SIPサービスドメイン	②	<input type="text"/>
IP電話用ID	③	<input type="text"/>
パスワード	④	<input type="text"/>
接続状況	⑤	<input type="text"/>

※この項目で設定できる内容は同じため、[SIPサーバ(1)設定]項目の画面で説明しています。

- ① SIPサーバアドレス …………… 商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定されたSIPサーバのIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ② SIPサービスドメイン ……… 商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定されたSIPサーバのドメイン名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ③ IP電話用ID …………… SIPサーバへの接続認証に使用するIP電話用IDです。
商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
- ④ パスワード …………… SIPサーバへの接続認証に使用するパスワードです。
商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
- ⑤ 接続状況 …………… SIPサーバとの接続状態を、「接続中」、「接続成功」、「接続失敗」で表示します。
SIPサーバ未設定時は、何も表示されません。
また、「接続失敗」と表示される場合は、設定内容を確認してください。

2 「電話設定」メニュー

2-3.「SIP」画面(つづき)

接続 | 電話 | **SIP** | VoIP詳細 | 着信 | VoIP電話帳

■ SIPサーバ(1)/SIPサーバ(2)/SIPサーバ(3)設定(ケイ・オプティコムを設定時)

この項は、「接続」画面(※2-1章)の[VoIP接続設定]項目で、「ケイ・オプティコム」を設定したとき表示されます。

SIPサーバにアクセスするための設定です。

商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定された項目だけを設定します。

また、SIPサーバ(2)とSIPサーバ(3)についても、指定された場合だけ設定してください。

SIPサーバ(1) 設定		
SIPサーバアドレス	①	<input type="text"/>
SIPサービスドメイン	②	<input type="text"/>
ユーザID	③	<input type="text"/>
パスワード	④	<input type="password"/>
接続状況	⑤	<input type="text"/>

※この項目で設定できる内容は同じため、「SIPサーバ(1) 設定」項目の画面で説明しています。

- ① SIPサーバアドレス …………… 商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定されたSIPサーバのIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ② SIPサービスドメイン …………… 商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定されたSIPサーバのドメイン名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ③ ユーザID …………… SIPサーバへの接続認証に使用するユーザIDです。
商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
- ④ パスワード …………… SIPサーバへの接続認証に使用するパスワードです。
商用IP電話接続業者またはプロバイダーから指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
- ⑤ 接続状況 …………… SIPサーバとの接続状態を、「接続中」、「接続成功」、「接続失敗」で表示します。
SIPサーバ未設定時は、何も表示されません。
また、「接続失敗」と表示される場合は、設定内容を確認してください。

2-4.「VoIP詳細」画面

■ VoIP音質設定



IP電話の音声について設定します。

登録		取消	
VoIP音質設定			
音声符号化方式 ①	両方使用(G.711を優先) ▼		
フレーム時間 ②	G.711	20ms ▼	
	G.729	20ms ▼	
受信バッファ ③	50ms ▼		

- 〈登録〉ボタン 「VoIP詳細」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン 「VoIP詳細」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお 〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ① 音声符号化方式 IP電話で、発信するときの音質についての設定です。
着信は、この設定に関係なく行えます。
- (出荷時の設定：両方使用(G.711優先))
 - ◎G.711のみ使用 : G.711を発信に使用します。
通話相手がG.711を発信できないときは通話できません。
※フュージョン・コミュニケーションズ
でご利用の場合は、「G.711のみ使用」を設定してください。
 - ◎G.729のみ使用 : G.729を発信に使用します。
通話相手がG.729を発信できないときは通話できません。
 - ◎両方使用(G.711優先) : 通常G.711を発信に使用しますが、通話相手がG.711を発信できないときはG.729を使用します。
 - ◎両方使用(G.729優先) : 通常G.729を発信に使用しますが、通話相手がG.729を発信できないときはG.711を使用します。

2 「電話設定」メニュー

2-4.「VoIP詳細」画面

■ VoIP音質設定(つづき)

接続 電話 SIP VoIP詳細 着信 VoIP電話帳	
登録 取消	
VoIP音質設定	
音声符号化方式 ①	両方使用(G.711を優先)
フレーム時間 ②	G.711 20ms
	G.729 20ms
受信バッファ ③	50ms

- ② フレーム時間 …………… 発信時、設定された音声符号化方式での1フレームの長さを時間で設定します。
(出荷時の設定：20ms)
設定した時間が短いほど遅延は少なくなりますが、ご契約の回線速度が遅いときは対応できません。
使用される音声符号化方式に応じて、「G.711」欄または「G.729」欄で設定した時間のフレーム長で発信します。
- ③ 受信バッファ …………… 音声を受信したとき、音声データを蓄える時間を設定します。
(出荷時の設定：50ms)
設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声途切れやすくなります。

2-4.「VoIP詳細」画面(つづき)

■ TOS設定



SIPサーバを使用したIP電話で、VoIPパケットを優先的にIP網へ送出する機能を設定します。

IP-VPN回線サービスの音声優先制御機能を利用するときなど、社内ネットワーク等で、TOS(Type-of-Service)を使用する場合に関係します。

【TOS種別：「使用しない」設定時】

TOS設定			
TOS種別	①	<input checked="" type="radio"/> 使用しない	<input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv

【TOS種別：「TOS」設定時】

TOS設定			
TOS種別	①	<input type="radio"/> 使用しない	<input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv
メディア(RTP)	②	優先度 <input type="text" value="2"/>	サービスタイプ <input type="text" value="0"/>
呼制御(SIP)	③	優先度 <input type="text" value="1"/>	サービスタイプ <input type="text" value="0"/>

【TOS種別：「Diffserv」設定時】

TOS設定			
TOS種別	①	<input type="radio"/> 使用しない	<input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv
メディア(RTP)	②	DSCP <input type="text" value="16"/>	
呼制御(SIP)	③	DSCP <input type="text" value="8"/>	

① TOS種別

TOS機能を使用するかしないかの設定です。

設定して〈登録〉をクリックすると、選んだTOS種別に該当する設定項目が上記のように表示されます。

(出荷時の設定：使用しない)

- ◎使用しない：TOSを使用しないネットワークに該当します。
- ◎TOS：TOSのフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールドに出力します。
RFC1349に準拠して、「1～3」ビットを優先度、「4～7」ビットをサービスタイプとして設定します。
- ◎Diffserv：Diffservのフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールドに出力します。
「1～6」ビットをDSCPとして設定します。

2 「電話設定」メニュー

2-4.「VoIP詳細」画面(つづき)

■ TOS設定(つづき)



【TOS種別：「使用しない」設定時】

TOS設定		
TOS種別	①	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv

【TOS種別：「TOS」設定時】

TOS設定		
TOS種別	①	<input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv
メディア(RTP)	②	優先度 <input type="text" value="2"/> サービスタイプ <input type="text" value="0"/>
呼制御(SIP)	③	優先度 <input type="text" value="1"/> サービスタイプ <input type="text" value="0"/>

【TOS種別：「Diffserv」設定時】

TOS設定		
TOS種別	①	<input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv
メディア(RTP)	②	DSCP <input type="text" value="16"/>
呼制御(SIP)	③	DSCP <input type="text" value="8"/>

② メディア(RTP) ……………

TOSフィールド内に出力された音声パケットの優先制御の基準となる項目の設定です。

- ◎優先度 : TOSの優先度フィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～7」です。
(出荷時の設定：2)
- ◎サービスタイプ : TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～15」です。
(出荷時の設定：0)
- ◎DSCP : DSCP(Diffserv Code Point)の値を設定します。
設定できる範囲は、「0～63」です。
(出荷時の設定：16)

③ 呼制御(SIP) ……………

TOSフィールド内に出力された呼制御(電話の発着制御)パケットの優先制御の基準となる項目の設定です。

- ◎優先度 : TOSの優先度フィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～7」です。
(出荷時の設定：1)
- ◎サービスタイプ : TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～15」です。
(出荷時の設定：0)
- ◎DSCP : DSCP(Diffserv Code Point)の値を設定します。
設定できる範囲は、「0～63」です。
(出荷時の設定：8)

2-5.「着信」画面

■ セレクト着信設定/現在の登録



IP電話または加入電話回線からかかってくる相手の電話番号を登録することにより着信動作を指定します。

※加入電話回線から着信動作を登録するには、NTTのナンバーディスプレイサービス(有料)の契約が必要です。

①セレクト着信②設定		③	④	⑤	⑥
番号	相手先名	電話番号	着信動作	着信呼出音	
2	SR-5000VoIP2	888	着信許可	呼出音1	追加

現在の登録						
⑦	番号	相手先名	電話番号	着信動作	着信呼出音	⑧
編集	1	SR-5000VoIP	999	着信許可	呼出音1	削除

- ① 番号 最大20件の相手先電話番号が登録できます。
1～20までの数字を半角で入力します。
- ② 相手先名 相手の名前を任意の英数字[半角31文字以内]で入力します。
- ③ 電話番号 相手から通知される電話番号を入力します。
◎相手と「Peer to Peer」で通話するときは、任意の数字(半角31桁以内)で入力します。
◎相手と加入電話回線または「SIPサーバ(フュージョン・コミュニケーションズなど)」で通話するときは、相手の電話番号を入力します。
- ④ 着信動作 着信動作を「着信許可」、「着信拒否」から指定します。
◎着信許可：「電話番号」欄に設定した電話番号からの着信を許可します。「着信呼出音」を設定することにより個別の着信音で鳴りわけをすることができます。
◎着信拒否：「電話番号」欄に設定した電話番号からの着信を拒否します。
- ⑤ 着信呼出音 「着信動作」欄で「着信許可」に登録した電話番号の着信音パターンを[呼出音1]、[呼出音2]、[呼出音3]から選択します。
- ⑥ 追加 入力した内容(①～⑤)を[現在の登録]項目の各欄に登録するボタンです。
- ⑦ 編集 このボタンの右に表示された内容を編集するボタンです。
- ⑧ 削除 このボタンの左に表示された内容を削除するボタンです。

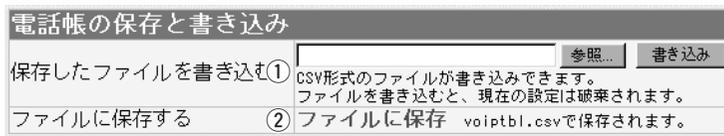
2 「電話設定」メニュー

2-6.「VoIP電話帳」画面

■ 電話帳の保存と書き込み



[現在の登録]項目に登録された電話帳のデータを保存したり、本製品の[現在の登録]項目に書き込んだりします。



① 保存したファイルを書き込む ……………

パソコンに保存された「電話帳登録ファイル」の内容を本製品に書き込むとき操作します。

[ファイルに保存する]②欄の操作で保存した「電話帳登録ファイル」の保存先をテキストボックスに直接入力するか、〈参照...〉ボタンをクリックすると表示される画面から目的の「電話帳登録ファイル」を指定します。



テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉ボタンをクリックすると、[現在の登録]項目(☞P45)にその内容を書き込みます。書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。

※「電話帳登録ファイル」を書き込んだあと、「設定保存」画面(☞7-3章)で保存された設定ファイルを書き込むと、後から書き込んだ設定ファイルの内容に上書きしますので、ご注意ください。

② ファイルに保存する ……………

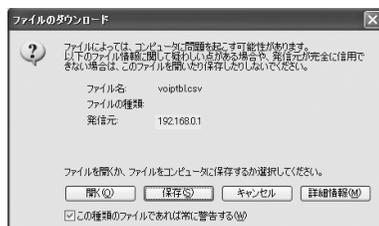
[現在の登録]項目の内容を「電話帳登録ファイル」として、パソコンに保存します。

画面上で[ファイルに保存]をクリックすると、表示される画面から〈保存〉をクリックしてください。

ファイル形式(拡張子)は、「.csv」で保存されます。

保存したファイルは、表計算やデータベースアプリケーションで編集できます。

また、保存した「電話帳登録ファイル」は、本製品を使用する複数の相手に書き込みできます。



2-6.「VoIP電話帳」画面(つづき)



■ 登録の追加/現在の登録

IP電話でかける相手の電話番号を登録します。

※「接続」画面(☞2-1章)の「接続方法の選択」欄で「Peer to Peer」を設定したときは、「電話番号」欄と「SIP URL」欄を併せて設定してください。

「フュージョン・コミュニケーションズ」を設定したときは、登録しなくても、「050」から始まる相手先の電話番号を直接ダイヤルすると発信できます。

① 録の ② 加		③	④	⑤	⑥	
番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択		
1	SR-5000VoIP	999	sip:SR-5kVoIPA@172.20.30.101	電話設定に合わせる	追加	
現在の登録						
⑦	番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択	⑧
編集	1	SR-5000VoIP	999	sip:SR-5kVoIPA@172.20.30.101	電話設定に合わせる	削除

※上記画面の「SIP URL」欄は、「接続」画面(☞2-1章)の「接続方法の選択」欄で「Peer to Peer」を設定したときなどに表示されます。

- ① 番号 最大50件の相手先電話番号が登録できます。
1～50までの数字を半角で入力します。
- ② 名前 相手の名前を任意の英数字[半角31(全角15)文字以内]で入力します。
- ③ 電話番号 電話機からダイヤルする電話番号を入力します。
なお、「1」で始まる3桁の番号(110、118、119)は、登録できません。
○相手と「Peer to Peer」で通話するときは、任意の数字(半角31桁以内)と記号(#、*、-)で入力します。
○相手と「SIPサーバ(フュージョン・コミュニケーションズなど)」で通話するときは、「050」で始まる相手の電話番号を入力します。
入力には、「#、*、-」の記号が使用できます。
- ④ SIP URL 相手の[SIP URL]を半角英数字(127文字以内)で入力します。
[電話番号]欄に設定した電話番号を電話機からダイヤルをすると、[SIP URL]欄に入力したSIP URLに電話をかけます。
下記のどちらかの書式で入力します。
「sip : [SIPユーザー名@本製品のWAN側IPアドレス]」、または
「sip : [SIPユーザー名@ホスト名.ドメイン名]」
※「設定」画面(☞2-1章)の「接続方法の選択」欄で「Peer to Peer」を設定したとき設定が必要です。

☞次ページへつづく

2 「電話設定」メニュー

2-6.「VoIP電話帳」画面

■ 登録の追加/現在の登録(つづき)

接続 電話 SIP VoIP詳細 着信 VoIP電話帳						
① 録の② 加	③	④	⑤	⑥		
番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択		
1	SR-5000VoIP	999	sip:SR-5kVoIPA@172.20.30.101	電話設定に合わせる		
現在の登録						
⑦	番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択	⑧
編集	1	SR-5000VoIP	999	sip:SR-5kVoIPA@172.20.30.101	電話設定に合わせる	削除

※上記画面の[SIP URL]欄は、「接続」画面(※2-1章)の[接続方法の選択]欄で「Peer to Peer」を設定したときなどに表示されます。

⑤ 発信先の選択

「VoIP電話帳」画面に登録された電話番号を電話機からダイヤルしたとき、その発信先を設定します。

(出荷時の設定：電話設定に合わせる)

◎電話設定に合わせる：

発信先を「電話設定」メニューの「接続」画面にある[標準発信先]欄の設定にしたがいます。

◎VoIPのみ：

「電話設定」メニューの「接続」画面にある[標準発信先]欄で「自動切替(VoIP優先)」を設定している場合、インターネット回線にだけ発信します。

◎電話回線のみ：

発信先を「電話設定」メニューの「接続」画面にある[標準発信先]欄の設定に関係なく、加入電話回線にだけ発信します。

◎電話回線プレフィックス：

[電話番号]欄に登録された電話番号の先頭部分の番号が、電話機からダイヤルした先頭部分の番号(電話回線発信番号)と一致したときだけ、本製品の[LINe]ポートに接続された加入電話回線へ発信します。

一致しない場合は、「電話設定」メニューの「接続」画面にある[標準発信先]欄で設定された発信先にしたがいます。

◎直接発信プレフィックス：

[電話番号]欄に登録された番号と電話機からダイヤルした電話番号の先頭部分(電話回線発信番号を除く)が一致したときだけ、[直接発信設定]項目の[ホストアドレス設定(01~25)]欄に設定された相手に発信します。

⑥ <追加>

入力した内容(①~⑤)を[現在の登録]項目の各欄に登録するボタンです。

⑦ <編集>

このボタンの右に表示された内容を編集するボタンです。

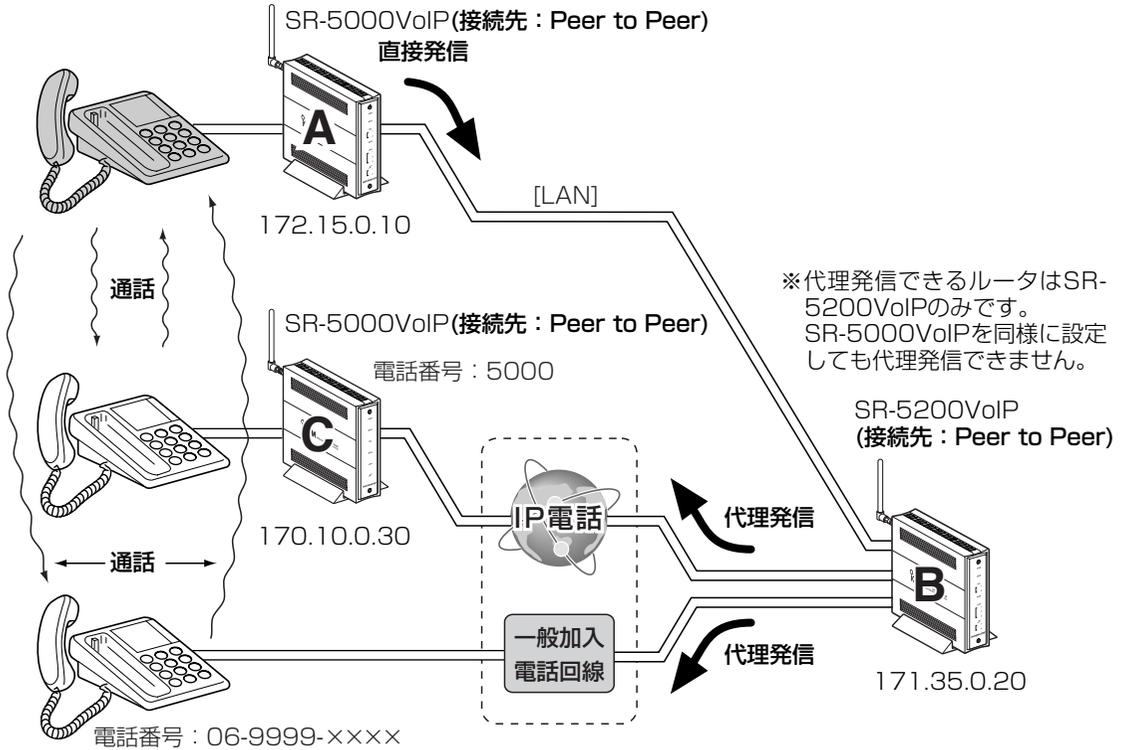
⑧ <削除>

このボタンの左に表示された内容を削除するボタンです。

2-7.直接発信の設定例

■ Peer to Peerの相手に直接発信して通話する場合

それぞれのルータは、IP電話できる状態に設定されているものとして説明しています。



〈ルータ：Aの設定〉

1. クリック

4. クリック

2. 入力する

3. 入力する

Peer to Peerで使用するときのSIP URLを入力します。

SIP設定
SIP URL

直接発信設定
自動切替を使用 しない する

ホストアドレス設定

01	171.35.0.20	02		03		04		05	
06		07		08		09		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22						25	

[ルータ：B]のIPアドレスを入力します。

次ページにつづく

2 「電話設定」メニュー

2-7. 直接発信の設定例

■ Peer to Peerの相手に直接発信して通話する場合

〈ルータ：Aの設定〉(つづき) 直接発信プレフィックスとして使用する電話番号「9(例)」は、[ルータ：A]と[ルータ：B]で同じ設定をします。

5. クリック

7. 選択する

直接発信するとき、電話機から最初にダイヤルする番号(桁数：任意)を[電話番号]欄に入力します。

「直接発信プレフィックス」を選択します。

6. 入力する

9. 確認する

8. クリック

番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択
1	直接	9	sip:	直接発信プレフィックス

現在の登録						
編集	番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択	削除
	1	直接	9	-	直接発信プレフィックス	

〈ルータ：Bの設定〉

1. クリック

3. クリック

2. 入力する

Peer to Peerで使用する時のSIP URLを入力します。

4. クリック

[登録の追加]項目で入力した内容が、[現在の登録]項目に表示されます。

5. 入力する

6. 確認する

番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択
			sip:sr5200VoIP@171.35.0.20	

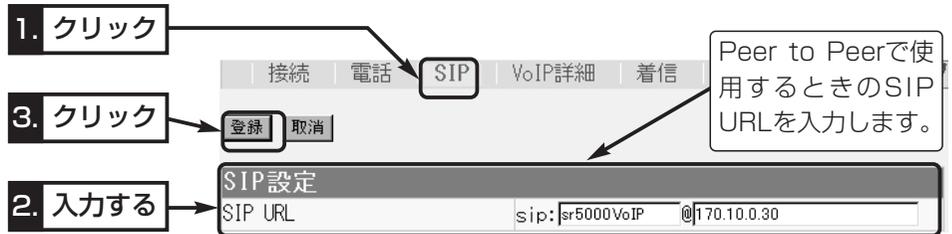
登録の追加				
番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択
			sip:	電話設定にあわせる

現在の登録						
編集	番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択	削除
	1	直接発信用	9	-	直接発信プレフィックス	
	2	SR-5000VoIP	5000	sip:SR5000VoIP@170.10.0.30	VoIPのみ	

2-7. 直接発信の設定例

■ Peer to Peerの相手に直接発信して通話する場合(つづき)

〈ルータ：Cの設定〉



〈IP電話の相手に電話するときは〉

[ルータ：A]に接続した電話機から「95000」とダイヤルすると、[ルータ：B]から直接発信プレフィックスとして設定された電話番号を除いた番号で、[ルータ：B]の電話帳に登録された電話番号「5000」の相手([ルータ：C]の電話機)へ代理発信します。

〈一般加入電話回線の相手に電話するときは〉

[ルータ：A]に接続した電話機から「9069999××××」とダイヤルすると、[ルータ：B]から直接発信プレフィックスとして設定された電話番号を除いた番号(069999××××)で代理発信します。

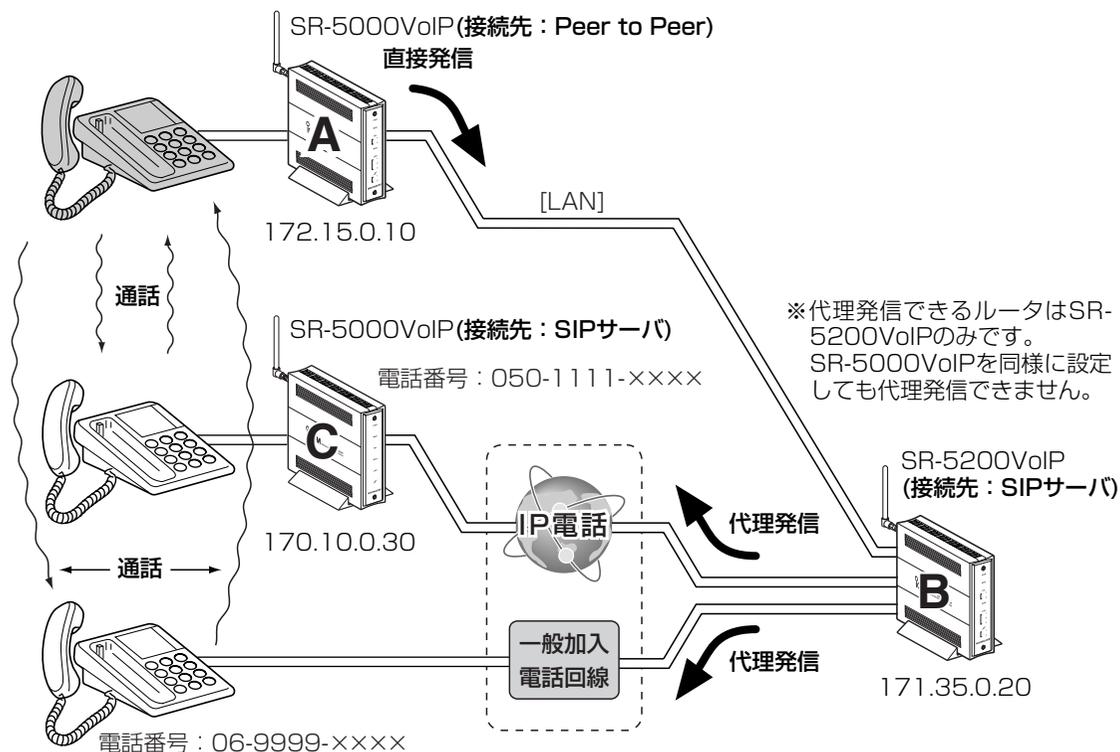
👉 次ページにつづく

2 「電話設定」メニュー

2-7.直接発信の設定例(つづき)

■ SIPサーバの相手に直接発信して通話する場合

それぞれのルータは、IP電話できる状態に設定されているものとして説明しています。



<ルータ: Aの設定>

1. クリック

4. クリック

2. 入力する

3. 入力する

接続 | 電話 | SIP | VoIP詳細 | 着信 | VoIP電話

登録 | 取消

SIP設定

SIP URL

直接発信設定

自動切替を使用 しない する

ホストアドレス設定

01	171.35.0.20	02		03		04		05	
06		07		08		09		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

[ルータ: B]の
WAN側IPアドレス
を入力します。

Peer to Peerで使用するときのSIP URLを入力します。

2-7.直接発信の設定例

■ SIPサーバの相手に直接発信して通話する場合

〈ルータ：Aの設定〉(つづき) 直接発信プレフィックスとして使用する電話番号「9(例)」は、[ルータ：A]と[ルータ：B]で同じ設定をします。

5. クリック

7. 選択する

直接発信するとき、電話機から最初にダイヤルする番号(桁数：任意)を[電話番号]欄に入力します。

6. 入力する

9. 確認する

8. クリック

「直接発信プレフィックス」を選択します。

番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択
1	直接	9	sip:	直接発信プレフィックス

番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択
1	直接	9	-	直接発信プレフィックス

〈ルータ：Bの設定〉

1. クリック

3. クリック

4. 確認する

2. 入力する

5. クリック

6. 入力する

7. 確認する

[登録の追加]項目で入力した内容が、[現在の登録]項目に表示されます。

IP加入電話番号	05098765432
----------	-------------

SIPプロキシサーバ	63.154.168.20
SIPドメイン	fusion.sip.0038.net
アカウントID	815098765432
IP加入電話パスワード	*****

接続状況	接続成功
------	------

番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択
		9	sip:	電話設定にあわせる

番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択
1	直接発信用	9	-	直接発信プレフィックス

次ページにつづく

2 「電話設定」メニュー

2-7.直接発信の設定例

■ SIPサーバの相手に直接発信して通話する場合(つづき)

〈ルータ：Cの設定〉

The screenshot shows a web interface for SIP registration. At the top, there are tabs: 接続, 電話, SIP, VoIP詳細, 着信, VoIP電話帳, ヘルプ. Below the tabs are buttons for 登録 and 取消. A section titled 'IP加入電話番号表示' shows 'IP加入電話番号' as 05098765432. Below that is the 'SIPサーバ(IP) 設定' section with the following fields:

SIPプロキシサーバ	63.154.168.20
SIPドメイン	fusion.sip.0038.net
アカウントID	815098765432
IP加入電話パスワード	*****
接続状況	接続成功

Numbered callouts on the left indicate the steps: 1. クリック (points to the SIP tab), 2. 入力する (points to the password field), 3. クリック (points to the 登録 button), and 4. 確認する (points to the IP加入電話番号 field).

〈IP電話の相手に電話するときは〉

[ルータ：A]に接続した電話機から「90501111××××」とダイヤルすると、[ルータ：B]から直接発信プレフィックスとして設定された電話番号を除いた番号(0501111××××)で代理発信します。

※通話する相手がSIPサーバを使用しているため、相手の電話番号を[ルータ：B]の電話帳に登録する必要はなく、[ルータ：B]から代理発信(0501111××××)します。

〈一般加入電話回線の相手に電話するときは〉

[ルータ：A]に接続した電話機から「9069999××××」とダイヤルすると、[ルータ：B]から直接発信プレフィックスとして設定された電話番号を除いた番号(069999××××)で代理発信します。

この章では、
「ネットワーク設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

3-1.「LAN側IP」画面	64
■ 本体名称/IPアドレス設定	64
■ DHCPサーバ設定	66
■ 静的DHCPサーバ設定	68
3-2.「RIP」画面	69
■ RIP設定	69
3-3.「ルーティング」画面	71
■ IP経路情報	71
■ スタティックルーティング設定	72

3 「ネットワーク設定」メニュー

3-1.「LAN側IP」画面

■ 本体名称/IPアドレス設定



本製品の名称とLAN側IPアドレスを設定します。

登録	取消	登録して再起動	本体IPアドレス/サブネットマスクの設定は再起動後に有効になります。
本体名称/IPアドレス設定			
本体名称	①	SR-5000VoIP	
IPアドレス	②	192.168.0.1	
サブネットマスク	③	255.255.255.0	

〈登録〉ボタン …………… [IPアドレス]欄と[サブネットマスク]欄以外の設定内容が有効になります。

※[IPアドレス]欄と[サブネットマスク]欄、[DHCPサーバ設定]項目、[静的DHCPサーバ設定]の変更内容は、画面上で確定されるだけですので、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン …………… 「LAN側IP」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。

なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン …… 本製品を再起動して、「LAN側IP」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

① 本体名称 ……………

ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。

設定した名前は、本製品とEthernetケーブルで接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使えます。
(出荷時の設定：SR-5000VoIP)

入力形式：[http://web.本体名称/]

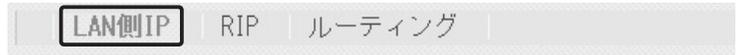
この場合、[DHCPサーバ設定]項目の[DNS代理応答を使用]欄を「する」(出荷時の設定)に設定しておく必要があります。

また、ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A～Z、0～9、-)、31文字以内で設定します。

※登録できない文字は、「# % / : ? @ ¥ '」の8種類です。

※全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNSサーバの代理応答機能は利用できなくなります。

3-1.「LAN側IP」画面



■ 本体名称/IPアドレス設定(つづき)

登録 取消 登録して再起動 本体IPアドレス/サブネットマスクの設定は再起動後に有効になります。

本体名称/IPアドレス設定		
本体名称	①	SR-5000VoIP
IPアドレス	②	192.168.0.1
サブネットマスク	③	255.255.255.0

② IPアドレス 本製品のLAN側IPアドレスを入力します。
 (出荷時の設定：192.168.0.1)
 本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークIPアドレスに変更してください。
 ※本製品のDHCPサーバ機能を使用する場合は、[DHCPサーバ設定]項目の[割り当て開始IPアドレス]欄についてもネットワーク部を同じに設定してください。

③ サブネットマスク 本製品のサブネットマスク(同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲)を設定します。(出荷時の設定：255.255.255.0)
 本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。

【例】

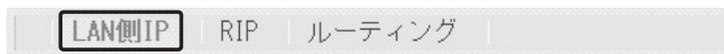
サブネットマスクを「255.255.255.248」と設定する場合、「192.168.0.2～192.168.0.6」が同じネットワークとしてパソコンに割り当てできます。

この場合、下記のIPアドレスはパソコンに割り当てできません。

- 「192.168.0.0」：ネットワークアドレス
- 「192.168.0.1」：本製品のLAN側IPアドレス
- 「192.168.0.7」：ブロードキャストアドレス

3 「ネットワーク設定」メニュー

3-1.「LAN側IP」画面(つづき)



■ DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能についての設定です。

DHCPサーバ設定		
DHCPサーバ機能を使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス	②	<input type="text" value="192.168.0.10"/>
割り当て個数	③	<input type="text" value="30"/> 個
サブネットマスク	④	<input type="text" value="255.255.255.0"/>
リース期間	⑤	<input type="text" value="72"/> 時間
ドメイン名	⑥	<input type="text"/>
デフォルトゲートウェイ	⑦	<input type="text" value="192.168.0.1"/>
DNS代理応答を使用	⑧	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
プライマリDNSサーバ	⑨	<input type="text"/>
セカンダリDNSサーバ	⑩	<input type="text"/>
プライマリWINSサーバ	⑪	<input type="text"/>
セカンダリWINSサーバ	⑫	<input type="text"/>

- ① DHCPサーバ機能を使用 … 本製品をDHCPサーバとして使用するかしないかを設定します。本製品のLAN側に有線および無線で接続しているパソコンのTCP/IP設定を、「IPアドレスを自動的に取得する」と設定している場合、本製品のDHCPクライアントになります。この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。 (出荷時の設定：する)
- ② 割り当て開始IPアドレス … 本製品に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。 (出荷時の設定：192.168.0.10)
- ③ 割り当て個数 … [割り当て開始IPアドレス]欄に設定されたIPアドレスから連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数は、0～128までです。 (出荷時の設定：30)
※128個を超える分については、設定できませんので手動でクライアントに割り当ててください。
※「0」を設定したときは、自動割り当てを行いません。
- ④ サブネットマスク … [割り当て開始IPアドレス]欄に設定されたIPアドレスに対するサブネットマスクです。 (出荷時の設定：255.255.255.0)
- ⑤ リース期間 … DHCPサーバがローカルIPアドレスを定期的に自動でパソコンに割り当てなおす期限を時間で指定します。設定できる範囲は、「1～9999」です。 (出荷時の設定：72)

3-1.「LAN側IP」画面

■ DHCPサーバ設定(つづき)

LAN側IP			RIP	ルーティング
DHCPサーバ設定				
DHCPサーバ機能を使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
割り当て開始IPアドレス	②	<input type="text" value="192.168.0.10"/>		
割り当て個数	③	<input type="text" value="30"/> 個		
サブネットマスク	④	<input type="text" value="255.255.255.0"/>		
リース期間	⑤	<input type="text" value="72"/> 時間		
ドメイン名	⑥	<input type="text"/>		
デフォルトゲートウェイ	⑦	<input type="text" value="192.168.0.1"/>		
DNS代理応答を使用	⑧	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
プライマリDNSサーバ	⑨	<input type="text"/>	DNSの代理応答機能を使用する場合は無効となります。	
セカンダリDNSサーバ	⑩	<input type="text"/>		
プライマリWINSサーバ	⑪	<input type="text"/>		
セカンダリWINSサーバ	⑫	<input type="text"/>		

- ⑥ **ドメイン名** ドメイン名を使用しているときや、プロバイダーからドメイン名を指定されたときなど必要があれば、DHCPサーバが有線および無線で接続するパソコンに通知するネットワークアドレスのドメイン名を、入力(半角英数字：127文字以内)します。

- ⑦ **デフォルトゲートウェイ** ... ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定された場合に限り、LAN側に通知するゲートウェイを入力します。
(出荷時の設定：192.168.0.1)

- ⑧ **DNS代理応答を使用** 本製品を代理DNSサーバとして使用するかしないかの設定です。代理DNSサーバ機能とは、パソコンからのDNS要求をプロバイダー側のDNSサーバへ転送する機能です。(出荷時の設定：する)代理DNSサーバ機能を利用すると、ネットワーク上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定している場合、本製品が接続する先のDNSサーバのアドレスが変更になったときでも、パソコンの設定を変更する必要がありませんので便利です。

- ⑨ **プライマリDNSサーバ** 本製品のDHCPサーバ機能を使用する場合に有効な機能で、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。

- ⑩ **セカンダリDNSサーバ** [プライマリDNSサーバ]欄と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。

- ⑪ **プライマリWINSサーバ** ... 「プライマリWINSサーバ」と同様に、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

- ⑫ **セカンダリWINSサーバ** ... 「プライマリWINSサーバ」と同様に、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

3 「ネットワーク設定」メニュー

3-1.「LAN側IP」画面(つづき)

■ 静的DHCPサーバ設定



特定のパソコンに割り当てるIPアドレスを固定するときの設定です。

静的DHCPサーバ設定		
登録の追加		
MACアドレス	IPアドレス	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録		
MACアドレス	IPアドレス	

DHCPサーバ機能を使用して自動的に割り当てるIPアドレスを、特定のパソコンに固定するとき、パソコンのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。

※入力後は、〈追加〉をクリックしてください。

※最大16個の組み合わせまで登録できます。

登録するパソコンのIPアドレスは、DHCPサーバ機能による割り当て範囲および本製品のIPアドレスと重複しないように指定してください。

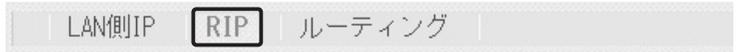
【登録例】

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

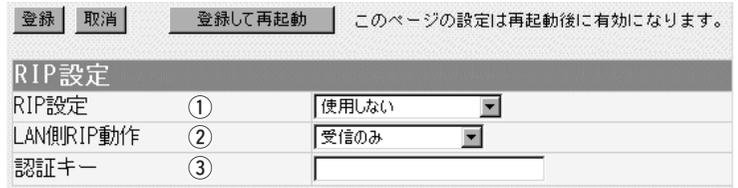
現在の登録		
MACアドレス	IPアドレス	
00-90-C7-3F-00-14	192.168.0.50	<input type="button" value="削除"/>

3-2.「RIP」画面

■ RIP設定



隣接ルータやアクセスポイントと経路情報を交換して、経路を動的に作成するときを使用します。



〈登録〉ボタン …………… 「RIP」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン …………… 「RIP」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン …… 本製品を再起動して、「RIP」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

① RIP設定 …………… RIPの種類を選択します。 (出荷時の設定：使用しない)
 ◎使用しない：RIPを使用しません。
 ◎RIP： RIPの「Version1」を使用します。
 ◎RIP2(マルチキャスト)：
 RIPの「Version2」を使用して、マルチキャストアドレスにパケットを送信します。
 ◎RIP2(ブロードキャスト)：
 RIPの「Version2」を使用して、ブロードキャストアドレスにパケットを送信します。

【RIP2について】

RIP2は、可変長サブネットマスクに対応していますので、イントラネット環境でも利用できます。
 受信については、ブロードキャスト/マルチキャストの区別なく受け入れます。

② LAN側RIP動作 …………… 「RIP設定」欄で選択したLAN側のRIP動作について、「使用しない」、「受信のみ」、「受信も送信も行う」から選択します。
 (出荷時の設定：受信のみ)

3 「ネットワーク設定」メニュー

3-2.「RIP」画面

■ RIP設定(つづき)

LAN側RIP		RIP	ルーティング
登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。
RIP設定			
RIP設定	①	使用しない	
LAN側RIP動作	②	受信のみ	
認証キー	③		

③ 認証キー

[RIP設定]①欄で、「RIP2(マルチキャスト)」または「RIP2(ブロードキャスト)」を設定する場合、そのRIP動作を認証するためのキーを入力します。

入力は、大文字/小文字の区別に注意して、半角15文字以内で入力します。

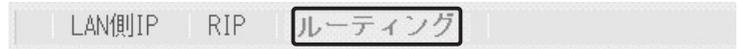
また、他のルータやアクセスポイントに設定されている認証キーと同じ設定にします。

認証キーを設定すると、「RIP」を設定しているゲートウェイと、異なる認証キーを設定している「RIP2」、および認証キーを設定していない「RIP2」ゲートウェイからのRIPパケットを破棄します。

※[LAN側RIP動作]②欄で「使用しない」を設定、または[RIP設定]①欄で「RIP」を設定する場合は、空白にします。

3-3.「ルーティング」画面

■ IP経路情報



ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータ、またはどの端末に配送すべきかの情報を表示します。

この項目には、[スタティックルーティング設定]項目(☞P56)で追加した経路も表示されます。

IP経①情報	②	③	④	⑤	⑥
宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	経路	作成	メトリック
0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	01:WAN01	static	0
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

- ① 宛先 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ② サブネットマスク ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するサブネットマスクを表示します。
- ③ ゲートウェイ ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④ 経路 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。
 ◎ local : インターフェイスがLAN側の場合です。
 ◎ WAN : 回線種別を「DHCP」に設定されていて、インターフェイスがWAN側の場合です。
 ◎ 「数字(01~08) : PPPoEの接続先名」:
 指定したPPPoE接続先のインターフェイスがWAN側の場合です。
 インターフェイスの詳細は、「情報表示」メニューの「インターフェイス情報」画面にある[ネットワーク インターフェイス リスト]項目に表示します。
- ⑤ 作成 どのように経路情報が作成されたかを表示します。
 ◎static : スタティック(定義された)ルートにより作成
 ◎rip : ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成
 ◎misc : ブロードキャストに関係するフレーム処理で作成
- ⑥ メトリック [スタティックルーティング設定]項目の[メトリック]欄で設定された値やダイナミックルーティングで作成された経路のコストを表示します。

3 「ネットワーク設定」メニュー

3-3.「ルーティング」画面(つづき)



■スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。

登録できるのは、最大32件までです。

★NTT東日本のフレッツ・スクウェアをお使いになる場合は、第8-5章(本書)を参考にルーティングテーブルを設定してください。

スタティックルーティング設定					
登録(1)追加	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	
local					追加
現在の登録					
経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	

- ① **経路** 回路の経路を指定します。
◎ local : インターフェイスがLAN側の場合です。
◎ WAN : 回線種別を「DHCP」に設定されていて、インターフェイスがWAN側の場合です。
◎ 「数字(01~08) : PPPoEの接続先名」:
指定したPPPoE接続先のインターフェイスがWAN側の場合です。
- ② **宛先** 経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。
経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。
※IPアドレスは、ゲートウェイのネットワーク部と同じにします。
- ③ **サブネットマスク** 対象となる宛先のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。
- ④ **ゲートウェイ** ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。
※入力は、[経路]欄で入力したIPアドレスのネットワーク部と同じにします。
- ⑤ **メトリック** 宛先までのコストを表す数値を入力します。
数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。
0(空白)~15まで入力できます。
- ⑥ **〈追加〉** 設定した内容で[IP経路情報]項目(※P55)に登録します。
※操作後は、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。
登録されると、その内容は[IP経路情報]項目に表示されます。

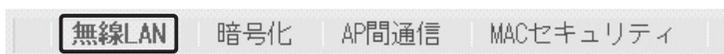
この章では、
「無線設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

4-1.「無線LAN」画面	74
■ 無線LAN設定	74
4-2.「暗号化」画面	80
■ 暗号化設定	80
■ キー値	83
4-3.「AP間通信」画面	84
■ BSSID	84
■ ステーションリスト	84
4-4.「MACセキュリティ」画面	85
■ 無線端末間通信設定/MACアドレスセキュリティ設定	85

4 「無線設定」メニュー

4-1.「無線LAN」画面

■ 無線LAN設定



内蔵無線LANカードに対する設定です。



無線LAN設定		
BSSID	①	00-90-C7-73-00-69
SSID	②	LG
ANYを拒否	③	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
チャンネル	④	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑤	無し
11g保護機能	⑥	無効
パワーレベル	⑦	高
接続端末制限	⑧	255

〈登録〉ボタン …………… 「無線LAN」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

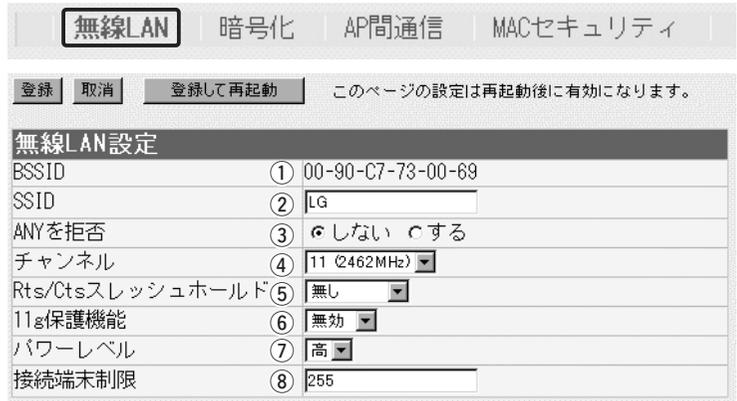
〈取消〉ボタン …………… 「無線LAN」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン …… 本製品を再起動して、「無線LAN」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

① BSSID …………… 本製品に内蔵する無線LANカードの[BSSID]を表示します。

② SSID …………… 無線ネットワークのグループ分けをするために使用します。無線ルータや無線アクセスポイントが無線伝送エリア内に複数存在しているような場合、個々の無線ネットワークグループを[SSID(無線ネットワーク名)]で識別したり、異なる無線ネットワーク名で通信するグループからの混信を防止できます。この[SSID]が異なると本製品と無線で通信できません。大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。(出荷時の設定：LG)
※[SSID]と[ESS ID]は、同じ意味で使用しています。
本製品以外の無線LAN機器では、[ESS ID]と表記されている場合があります。

4-1.「無線LAN」画面
 ■ 無線LAN設定(つづき)



③ ANYを拒否

「ANY」モード(アクセスポイント自動検索接続機能)で動作している無線パソコンからの検索や接続を拒否するかしないかを設定します。(出荷時の設定：しない)
 出荷時の設定では、弊社製無線LANカード(SL-11やSL-110を除く)を装着するパソコンとの接続が容易になるように、これらの無線パソコンからの検索や接続を許可しています。
 この設定を「する」にした場合、「ANY」モードで通信する無線パソコンが使用する「Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続」や「無線ネット表示に対応する弊社製無線LANカードに付属の設定ユーティリティー」に検索されません。
 ※ご使用のパソコンにSL-50(ドライバーのVer.1.34以降)やSL-5000、SL-5000XG、SL-5100をインストールしたときは、出荷時から「ANY」モードで動作しています。

④ チャンネル

無線アクセスポイントの接続に使用する無線通信チャンネルを設定します。(出荷時の設定：11(2462MHz))
 ※無線パソコン側は、本製品のチャンネルを自動的に検知して通信します。
 ◎2.4GHz帯(IEEE802.11b/g規格)で通信するときは、「1～13」チャンネルを選択します。
 ◎5.2GHz帯(IEEE802.11a規格)で通信するときは、「34、38、42、46」チャンネルの中から選択します。
 (※次ページにつづく)

4 「無線設定」メニュー

4-1.「無線LAN」画面

■無線LAN設定(つづき)

無線LAN		暗号化	AP間通信	MACセキュリティ
登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。	
無線LAN設定				
BSSID	① 00-90-C7-73-00-69			
SSID	② LG			
ANYを拒否	③ <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する			
チャンネル	④ 11 (2462MHz)			
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑤ 無し			
11g保護機能	⑥ 無効			
パワーレベル	⑦ 高			
接続端末制限	⑧ 255			

④ チャンネル(つづき) ………

※近くに2.4GHz帯(IEEE802.11b/g)の無線アクセスポイント機能で通信する別の無線ネットワークグループが存在するときは、電波干渉を避けるため、本製品の「チャンネル」は、別の無線ネットワークグループと4チャンネル以上空けて設定してください。

それ以下のときは、図に示すように帯域の1部が重複するため混信する可能性があります。

例えば、お互いの設定が、1-6-11チャンネルに設定すると混信しません。

※5.2GHz帯(IEEE802.11a)で通信する場合は、お互いを異なるチャンネルに設定すれば、チャンネル間の電波干渉に配慮する必要はありません。



4-1.「無線LAN」画面
 ■ 無線LAN設定(つづき)

無線LAN		暗号化	AP間通信	MACセキュリティ
登録	取消	登録して再起動		このページの設定は再起動後に有効になります。
無線LAN設定				
BSSID	①	00-90-C7-73-00-69		
SSID	②	LG		
ANYを拒否	③	○しない ○する		
チャンネル	④	11 (2462MHz)		
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑤	無し		
11g保護機能	⑥	無効		
パワーレベル	⑦	高		
接続端末制限	⑧	255		

⑤ Rts/Ctsスレッシュ
 ホールド

ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。

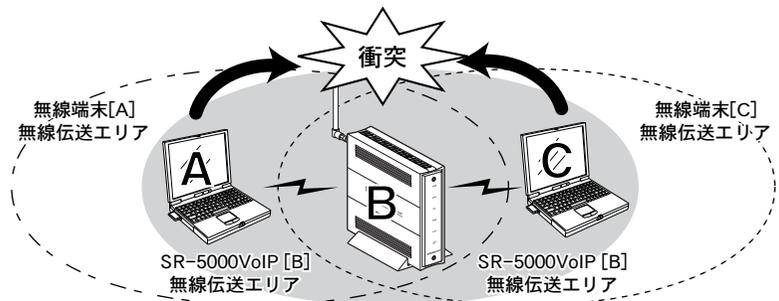
(出荷時の設定：無し)

Rts/Cts(Request to Send/Clear to Send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。

隠れ端末とは、下図のように、それぞれが本製品[B]と無線通信できても、互いが直接通信できない無線パソコン[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。

通信の衝突を防止するには、無線パソコン[A]から送信要求(Rts)信号を受信した本製品[B]が、無線伝送エリア内にある無線パソコン[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線パソコン[C]に本製品[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。

これにより、Rts信号を送信していない無線パソコン[C]は、本製品[B]から受信完了通知(ACK)を受信するまで本製品[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



4 「無線設定」メニュー

4-1. 「無線LAN」画面

■ 無線LAN設定(つづき)

無線LAN		暗号化	AP間通信	MACセキュリティ
登録	取消	登録して再起動		
このページの設定は再起動後に有効になります。				
無線LAN設定				
BSSID	①	00-90-C7-73-00-69		
SSID	②	LG		
ANYを拒否	③	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
チャンネル	④	11 (2462MHz)		
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑤	無し		
11g保護機能	⑥	無効		
パワーレベル	⑦	高		
接続端末制限	⑧	255		

⑥ 11g保護機能

アクセスしてくる無線パソコンの無線LANの規格を認識して、接続を制限できます。 (出荷時の設定：無効)

接続制限することで、[IEEE802.11b(11Mbps)]規格の通信を制限して、[IEEE802.11g(54Mbps)]規格の通信に影響されないように保護します。

◎「無効」：[IEEE802.11g]規格または[IEEE802.11b]規格の無線パソコンと通信できます。

◎「有効」：[IEEE802.11b]規格と混在するネットワーク環境で、[IEEE802.11g]規格の通信速度が極端に遅い場合に設定します。

「有効」に設定すると、[IEEE802.11g]規格の無線パソコンとの通信を優先させます。

優先させることで、[IEEE802.11g]規格の通信速度が低下することを防止できます。

◎「g専用」：[IEEE802.11g]規格の無線パソコンとだけ通信できます。

⑦ パワーレベル

本製品に内蔵された無線LANカードの送信出力を設定します。

高/中/低(3段階)の中から選択できます。 (出荷時の設定：高)

本製品の最大伝送距離は、パワーレベルが「高」の場合です。

パワーレベルを低くすると、それに比例して伝送距離も短くなります。

【パワーレベルを低くする目的について】

◎本製品から送信される電波が部屋の外に漏れるのを軽減したいとき

◎通信エリアを制限してセキュリティーを高めたいとき

◎比較的狭いエリアに複数台の無線アクセスポイントが設置された環境で、近くの無線クライアントや無線アクセスポイントとの電波干渉を無くして、通信速度の低下などを軽減したいとき

4-1.「無線LAN」画面
 ■ 無線LAN設定(つづき)

無線LAN		暗号化	AP間通信	MACセキュリティ
登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。	
無線LAN設定				
BSSID	①	00-90-C7-73-00-69		
SSID	②	LG		
ANYを拒否	③	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
チャンネル	④	11 (2462MHz) ▼		
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑤	無し ▼		
11g保護機能	⑥	無効 ▼		
パワーレベル	⑦	高 ▼		
接続端末制限	⑧	255		

⑧ 接続端末制限

本製品に同時接続可能な無線パソコンの台数を設定します。
 設定できる範囲は、「1～255」です。 (出荷時の設定：255)
 接続制限を設定すると、本製品1台だけに接続が集中するのを防
 止(本製品の負荷を分散)できますので、接続集中による通信速度
 低下を防止できます。

4 「無線設定」メニュー

4-2. 「暗号化」画面

■ 暗号化設定

無線LAN	暗号化	AP間通信	MACセキュリティ
-------	------------	-------	-----------

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。

暗号化設定	
認証モード ①	両対応
暗号化方式 ②	なし
キージェネレータ ③	
キーID ④	1

無線LANで通信するデータを保護するために、無線送信データを暗号化するための設定です。

〈登録〉ボタン ……………

「暗号化」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………

「暗号化」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……

本製品を再起動して、「暗号化」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

① 認証モード ……………

暗号化を使用する無線LANからのアクセスに対する認証方式を設定します。 (出荷時の設定：両対応)

※通信相手と認証モードが異なると通信できません。

- ◎両対応 : 無線LANのアクセスに対して、「オープンシステム」と「シェアードキー」を自動認識しますので、通信相手間で暗号化鍵(キー)が同じであれば通信可能です。
- ◎オープンシステム : 無線LANのアクセスに対して認証を行いません。
- ◎シェアードキー : 無線LANのアクセスに対して通信相手と同じ暗号化鍵(キー)かどうかを認証します。

4-2.「暗号化」画面
 ■ 暗号化設定(つづき)

無線LAN		暗号化	AP間通信	MACセキュリティ
登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。	
暗号化設定				
認証モード	①		両対応	
暗号化方式	②		なし	
キージェネレータ	③			
キーID	④		1	

② 暗号化方式 ……………
 ※[WEP RC4]、[OCB AES]
 は、それぞれ互換性はあ
 りません。

無線伝送データを暗号化する方式と暗号化ビット数を選択します。
 (出荷時の設定：なし)
 対応する暗号化方式は、「WEP RC4」、「OCB AES」です。
 通信を行う相手間で、ビット数も含め同じ方式を選択してくださ
 い。

◎WEP RC4：無線通信で一般によく使用されるセキュリティー
 です。
 暗号化方式は、WEP RC4(Rivest's Cipher 4)ア
 ルゴリズムをベースに構成されています。
 暗号化するデータのブロック長が8ビットで、暗
 号化鍵(キー)の長さを選択できます。
 ※暗号化鍵(キー)の長さは、64(40)/128
 (104)/152(128)ビットの中から選択できま
 す。

◎OCB AES：WEP RC4より強力で、標準化が推進されている
 次世代の暗号化方式です。

③ キージェネレータ ……………

暗号化および復号に使う鍵(キー)を生成するための文字列を設定
 します。

通信を行う相手間で同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、
 任意の半角英数字/記号)を31文字以内で設定します。

なお、入力した文字はすべて「*」で表示します。(表示例：**)
 「暗号化方式」を選択して、〈登録〉をクリックすると、[キージェ
 ネレータ]欄に入力した文字列より生成された鍵(キー)を[キー値]
 項目のテキストボックスに表示します。

[キー値]項目の各キー番号のテキストボックスに生成される桁数
 および文字数は、選択する「暗号化方式」によって異なります。(取
 扱説明書[接続編] 3-6章 ■ 暗号化鍵(キー)値の入力についてを
 参照)

※[WEP RC4]の場合、先頭の24ビットは、一定時間ごとに内容
 を自動更新して設定されますので、「キー値」項目のテキストボ
 ックスには表示されません。

※[キー値]項目の[入力モード]が「ASCII文字」に設定されている場
 合は、キージェネレータを使用できません。

(☞次ページにつづく)

4 「無線設定」メニュー

4-2.「暗号化」画面

■ 暗号化設定(つづき)

無線LAN		暗号化	AP間通信	MACセキュリティ
登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。	
暗号化設定				
認証モード	①		両対応	
暗号化方式	②		なし	
キージェネレータ	③			
キーID	④		1	

③ キージェネレータ(つづき)

※[暗号化方式]欄で「なし」が選択されていると、[キー値]項目の各キー番号のテキストボックスに鍵(キー)が生成されません。
※通信相手間で文字列が異なる場合、暗号化されたデータを復号できません。
※[キー値]項目から直接設定するときは、[キージェネレータ]欄には何も表示されません。

④ キーID

暗号化に使用する鍵(キー)番号を設定します。(出荷時の設定：1)
鍵(キー)番号は、通信する相手間でそれぞれ任意に選択できます。
[暗号化設定]項目の[暗号化方式]欄で、「WEP RC4」または「OCB AES」が登録されているときは、「1」～「4」の中から選択できます。
※本製品に無線LANで接続するパソコンの[キーID]を設定するとき、Windows XP(Service Pack適用時を除く)標準のワイヤレスネットワーク接続を使用する場合は、[キーID]の選択範囲が「0」～「3」で、本製品とは異なりますので注意してください。
本製品で「1」を選択した場合は、Windows XPの[キーインデックス(詳細)(X)]で「0」を設定するのと同じ意味になります。

4-2.「暗号化」画面(つづき)

■ キー値



暗号化鍵(キー)を直接入力するための設定です。

キー値	
入力モード ^①	<input checked="" type="radio"/> 16進数 <input type="radio"/> ASCII文字 <input type="radio"/> 26桁
1	00-00-00-00-00
2	00-00-00-00-00
3	00-00-00-00-00 ^②
4	00-00-00-00-00

① 入力モード ……………

暗号化鍵(キー)の入力のしかたを選びます。

(出荷時の設定：16進数)

※入力モードを変更したときは、「暗号化」画面の〈登録〉ボタンをクリックしてから、暗号化鍵(キー)を入力してください。

※ASCII文字が設定されているときは、キージェネレータを使用できません。

② 鍵(キー)入力用ボックス …

キージェネレータを使用しないとき、暗号化および復号に使用する鍵(キー)を、[入力モード]欄で設定された方法で、直接入力します。
(出荷時の設定：00-00-00-00-00)

16進数表記で使用する以外のアルファベットを入力しても無効です。

[キー値]は、通信する相手間で、使用するキーIDに対する鍵(キー)の内容を同じに設定してください。

使用するキーIDに対する鍵(キー)の内容が違うときは通信できません。

4 「無線設定」メニュー

4-3.「AP間通信」画面

■ BSSID



本製品に内蔵する無線LANカードの[BSSID]を表示します。

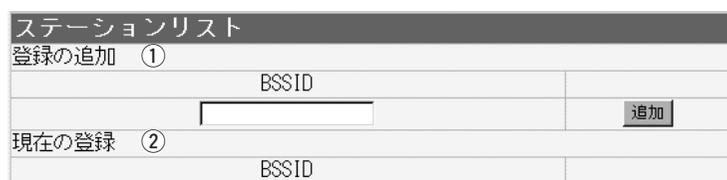


AP間通信を使用するときは、画面に表示された[BSSID]を相手側のSR-5000VoIPに登録します。

また、本製品には相手側の[BSSID]を「ステーションリスト」に登録します。

■ ステーションリスト

AP間通信する相手のBSSIDに登録します。



① 登録の追加 ……………

AP間通信する相手(AP-5100、SR-5000VoIP)の[BSSID]を入力します。

※〈追加〉をクリックすると、入力した[BSSID]が有効になります。

※最大6台分の[BSSID]が登録できます。

※[BSSID]の入力は、半角英数字で12桁(16進数)を入力します。

※[BSSID]を次のように入力すると、同じ[BSSID]として処理します。(入力例：00-90-c7-73-00-30、0090c7730030)

② 現在の登録 ……………

本製品に登録されている[BSSID]を表示します。

この欄に登録されている[BSSID]を持つ無線ルータや無線アクセスポイントと本製品のあいだでAP間通信できます。

【登録例】

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

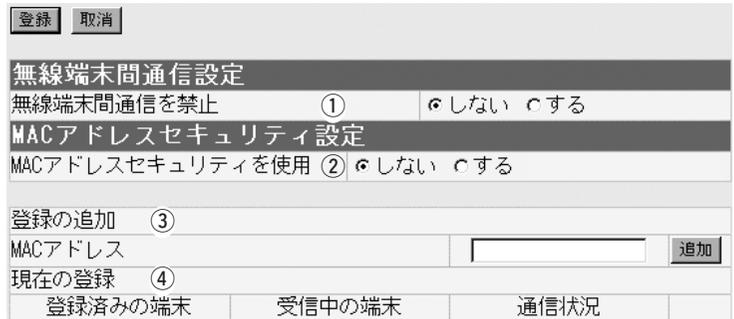


4-4.「MACセキュリティ」画面



■ 無線端末間通信設定／MACアドレスセキュリティ設定

通信を許可する無線パソコンのMACアドレスを登録することで、登録していない無線パソコンからの通信を制限するとき必要な設定です。



〈登録〉ボタン …………… 「MACセキュリティ」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン …………… 「MACセキュリティ」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

① 無線端末間通信を禁止 …… 本製品に接続している無線端末同士が本製品を介して通信することを禁止するかしないかを設定します。（出荷時の設定：しない）

② MACアドレス
セキュリティを使用 …… 本製品に登録されたMACアドレスを持つ無線LANのパソコンだけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。（出荷時の設定：しない）
「する」を選択すると、[現在の登録]欄に登録されていないMACアドレスを持つ無線パソコンからのアクセスを防止します。

4 「無線設定」メニュー

4-4.「MACセキュリティ」画面



■ 無線端末間通信設定/MACアドレスセキュリティ設定(つづき)

A screenshot of the MAC security configuration screen. At the top are buttons for '登録' and '取消'. Below are two sections: '無線端末間通信設定' with a radio button for '無線端末間通信を禁止' (①) set to 'しない' and 'する'; and 'MACアドレスセキュリティ設定' with a radio button for 'MACアドレスセキュリティを使用' (②) set to 'しない' and 'する'. Below these is a section for '登録の追加' (③) with a 'MACアドレス' input field and an '追加' button. At the bottom is a table for '現在の登録' (④) with columns for '登録済みの端末', '受信中の端末', and '通信状況'.

- ③ 登録の追加 …………… この欄に対象となる無線LANカードのMACアドレスを入力して〈追加〉をクリックすると、[登録済みの端末]欄に登録されます。MACアドレスセキュリティが有効なとき、[登録済みの端末]欄に表示されたMACアドレスをもつ無線LANカードを装着するパソコンとだけ通信できます。
※最大256台分のMACアドレスを登録できます。
※入力は半角英数字で12桁(16進数)を入力します。
※入力後は〈追加〉をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。
※2つの入力例は、同じMACアドレスになります。
(入力例：00-90-c7-3F-00-32、0090c73F0032)
- ④ 現在の登録 …………… 本製品と無線通信するパソコンの状況や登録済みの無線パソコンのMACアドレスを表示します。
登録されているMACアドレスは、〈削除〉で登録の削除が行えます。
なお、登録されていないMACアドレスを持つ無線パソコンも受信中の端末欄にMACアドレスが表示されますので、その欄に表示される〈追加〉ボタンをクリックすることで、その端末のMACアドレスを追加登録できます。

この章では、
「システム設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

5-1.「本体管理」画面	88
■ 管理者ID設定/管理者IP設定	88
5-2.「時計」画面	89
■ 内部時計設定	89
■ 自動時計設定	90
■ 接続時間制限設定	91
5-3.「SYSLOG」画面	92
■ SYSLOG設定	92
5-4.「SNMP」画面	93
■ SNMP設定	93
5-5.「ダイナミックDNS」画面	94
■ 登録状況	94
■ ダイナミックDNS設定	95

5 「システム設定」メニュー

5-1.「本体管理」画面



■ 管理者ID設定／管理者IP設定

本製品の設定画面へのアクセス制限を設定します。

A screenshot of a web-based configuration interface. At the top, there are two buttons: '登録' (Register) and '取消' (Cancel). Below them, the page is divided into two sections. The first section is titled '管理者ID設定' (Administrator ID Setting) and contains three rows: '管理者ID' (Administrator ID) with a circled '1' and an input field, '管理者パスワード' (Administrator Password) with a circled '2' and an input field, and 'パスワードの確認入力' (Password Confirmation) with a circled '3' and an input field. The second section is titled '管理者IP設定' (Administrator IP Setting) and contains three rows: '管理者IP1' (Administrator IP1) with a circled '4' and an input field, '管理者IP2' (Administrator IP2) with an input field, and '管理者IP3' (Administrator IP3) with an input field.

- 〈登録〉ボタン …………… [本体管理]画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン …………… [本体管理]画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ① 管理者ID …………… 本製品の設定画面へのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。(入力例：sr5000voip)
[管理者ID]を設定すると、次回のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに[管理者ID]を入力します。
- ② 管理者パスワード …………… [管理者ID]に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。
入力した文字は、すべて「*(アスタリスク)」で表示されます。
(表示例：****)
[管理者パスワード]を設定すると、次回のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに[管理者パスワード]を入力します。
- ③ パスワードの確認入力 …… 確認のために、パスワードを再入力します。(表示例：****)
- ④ 管理者IP …………… 本製品の設定画面へのアクセスを制限する場合に、管理者が本製品にアクセスするパソコンのIPアドレスを3台まで登録できます。
※[管理者IP]を設定すると、次回のアクセスからIPアドレスが登録されたパソコン以外からは、本製品の設定画面にアクセスできなくなります。

5-2.「時計」画面

■ 内部時計設定



本製品の内部時計を設定します。

登録 取消

内部時計設定							
本体の時刻	①	2003年	01月	01日	00時	00分	③
設定する時刻	②	2003年	11月	07日	13時	05分	時刻設定

- 〈登録〉ボタン …………… [内部時計設定]以外の「時計」画面にある項目で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン …………… 「時計」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ① 本体の時刻 …………… 本製品に設定されている時刻を表示します。
- ② 設定する時刻 …………… 本製品の設定画面にアクセスしたときの時刻を、最初に表示します。
 ※〈取消〉ボタンをクリックすると、空白になります。
 WWWブラウザの〈更新〉ボタンをクリックすると、パソコンの時計設定を取得して表示します。
- ③ 時刻設定 …………… [設定する時刻](②)欄に表示された時刻を本製品に設定するボタンです。
 時刻を正確に設定するときは、本製品の設定画面に再度アクセスしなおすか、WWWブラウザの〈更新〉ボタンをクリックしてから、〈時刻設定〉ボタンをクリックしてください。

5 「システム設定」メニュー

5-2.「時計」画面(つづき)

■ 自動時計設定



本製品の内部時計を自動設定するとき、アクセスするタイムサーバの設定です。

自動時計設定		
自動時計設定を使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
NTPサーバ1 IPアドレス	②	133.100.9.2
NTPサーバ2 IPアドレス	③	
アクセス時間間隔	④	1 日
前回アクセス日時	⑤	----/--/-- --:--
次回アクセス日時	⑥	2003/01/02 00:00

- ① 自動時計設定を使用 …………… インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせを行い、内部時計を自動設定します。 (出荷時の設定：する)
- ② NTPサーバ1 IPアドレス …………… 最初にアクセスするタイムサーバのIPアドレスを入力します。 (出荷時の設定：133.100.9.2)
- ③ NTPサーバ2 IPアドレス …………… [NTPサーバ1 IPアドレス]の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
返答がないときは、再度[NTPサーバ1 IPアドレス]で設定したタイムサーバにアクセスします。
- ④ アクセス時間間隔 …………… タイムサーバにアクセスする間隔を日で設定します。
設定できる範囲は、「0～99」です。 (出荷時の設定：1)
「0」を設定したときは、タイムサーバにアクセスを行いません。
回線に手動で接続したとき、前回アクセスした日から設定した日数が経過しているときは、接続時にタイムサーバにアクセスしません。
回線への常時接続を設定しているときは、設定した日数にしたがってアクセスします。
- ⑤ 前回アクセス日時 …………… タイムサーバにアクセスした日時を表示します。
- ⑥ 次回アクセス日時 …………… タイムサーバにアクセスする予定日時を、[前回アクセス日時]欄と[アクセス時間間隔]欄で設定された日数より算出して表示します。

5-2.「時計」画面(つづき)

■ 接続制限設定



本製品に無線で接続するパソコンからのアクセスを制限します。

接続制限設定		有効曜日						
制限時間		日	月	火	水	木	金	土
00 : 00 ~ 00 : 00		<input type="checkbox"/>						
00 : 00 ~ 00 : 00		<input type="checkbox"/>						
00 : 00 ~ 00 : 00		<input type="checkbox"/>						

時間の入力は、24時制で行います。

指定する曜日のチェックボックスをクリックして、チェックマークを入れます。

入力後は、〈登録〉をクリックします。

停電などに備えて、自動時計設定機能を併せてご使用になることをお勧めします。

※曜日を指定しないときは、機能しません。

※1つの登録で2日間にわたるような登録はできません。

※「本体管理」画面で、無線パソコンのIPアドレスを[管理者IP設定]項目に登録している場合、そのIPアドレスが設定されたパソコンからは、接続制限設定に関係なくいつでもアクセスできます。

△警告

接続制限設定の前に、管理者IPアドレスを設定しておくことをお勧めします。

[管理者IP設定]項目(5-1章)を設定しない状態で、接続制限設定を使用すると、その制限時間帯は、本製品に無線で接続するすべてのパソコンと通信できなくなります。

5 「システム設定」メニュー

5-3.「SYSLOG」画面

■ SYSLOG設定



指定したホストアドレスにログ情報などを出力する設定を行います。

SYSLOG設定		
DEBUGを使用 ①		<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
INFOを使用 ②		<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
NOTICEを使用 ③		<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
ホストアドレス ④		<input type="text"/>
ファシリティ ⑤		<input type="text" value="1"/>

- 〈登録〉ボタン …………… 「SYSLOG」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン …………… 「SYSLOG」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ① **DEBUG**を使用 …………… 各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)
- ② **INFO**を使用 …………… INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)
- ③ **NOTICE**を使用 …………… NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：する)
- ④ **ホストアドレス** …………… SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
ホストはSYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。
- ⑤ **ファシリティ** …………… SYSLOGのファシリティを入力します。 (出荷時の設定：1)
設定できる範囲は、「0～23」です。
通常「1」を使用します。

5-4.「SNMP」画面

■ SNMP設定



TCP/IPネットワークにおいて、ネットワーク上の各ホストから自動的に情報を収集してネットワーク管理するときの設定です。

登録		取消	
SNMP 設定			
SNMPを使用	①	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
コミュニティID(GET)	②	<input type="text" value="public"/>	

- 〈登録〉ボタン …………… 「SNMP」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン …………… 「SNMP」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ① SNMPを使用 …………… SNMP機能を使用するかしないかを選択します。
 (出荷時の設定：する)
- ② コミュニティID(GET) …… 本製品から設定情報をSNMP管理ツール側で読み出すことを許可するIDを設定します。
 (出荷時の設定：public)
 入力は、半角31文字以内の英数字で入力します。

5 「システム設定」メニュー

5-5.「ダイナミックDNS」画面



■ 登録状況

ダイナミックDNSの自動更新機能を使用時、自動更新状況を表示します。

登録状況		
起動時刻	①	----/--/-- --:--
登録状態	②	未登録
ホストアドレス	③	-
IPアドレス	④	-

- ① 起動時刻 ご契約のプロバイダーや回線接続業者から本製品に自動配布されるIPアドレスの変更を、ご利用のダイナミックDNSサーバに自動アップデート(更新)されたときの時刻を表示します。
- ② 登録状態 自動アップデートが正常に行われたときは、「IPアドレスを更新しました」と表示されます。
※「回線に接続していません」/「ダイナミックDNSサーバにアクセスできませんでした」/「ダイナミックDNSサーバとの通信を確立できませんでした」/「ダイナミックDNSサーバにログインできませんでした」/「ダイナミックDNSサーバからエラーが返されました」/「ダイナミックDNSサーバが選択されていません」などが表示されたときは、ご利用になるダイナミックDNSサーバからの情報が、[ダイナミックDNS設定]項目の各欄に正しく設定されているかを確認してください。
- ③ ホストアドレス ダイナミックDNSサーバに登録されているホスト名([ダイナミックDNS設定]項目(☞P78)の[ホスト名]欄と[ドメイン]欄に入力した内容)を表示します。
※登録したホスト名が「icomphone」で、登録したドメインが「icom.co.jp」の場合は、「icomphone.icom.co.jp」と表示されます。
- ④ IPアドレス 現在、ダイナミックDNSサーバに登録されているグローバルIPアドレスを表示します。

5-5.「ダイナミックDNS」画面(つづき)

■ ダイナミックDNS設定



ダイナミックDNSサービスから取得したドメインと本製品のWAN側IPアドレスの関連付けを自動更新するための設定です。

ダイナミックDNS設定	
ダイナミックDNSの自動更新を①	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
定期更新間隔 ②	10 日
登録するIPアドレス ③	<input checked="" type="radio"/> WAN <input type="radio"/> LOCAL
ダイナミックDNSサーバ ④	設定なし
ホスト名 ⑤	<input type="text"/> <small>登録したURLが「test.example.com」の場合「test」がホスト名、「example.com」がドメインとなります。</small>
ドメイン ⑥	<input type="text"/>
ユーザID ⑦	<input type="text"/>
パスワード ⑧	<input type="password"/>
接続状態 ⑨	<input checked="" type="radio"/> オンライン <input type="radio"/> オフライン

〈登録〉ボタン 「ダイナミックDNS」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン 「ダイナミックDNS」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して今すぐ更新〉ボタン 本製品のWAN側IPアドレスを、[ダイナミックDNSサーバ]欄で選択したダイナミックDNSサーバに送信します。

① ダイナミックDNSの自動更新を使用

本製品のWAN側(ご契約のプロバイダーや回線接続業者から本製品に自動配布される)IPアドレスが変更されたらすぐに、ダイナミックDNSサーバへの登録を自動で更新するかしないかを選択します。
 (出荷時の設定：しない)
 ※自動更新に失敗した場合は、その後、1時間ごとに自動更新を行います。
 ※「しない」を設定したときは、[定期更新間隔]②欄も無効になります。

② 定期更新間隔

ダイナミックDNSサーバへの登録を定期的に行う間隔を設定します。
 (出荷時の設定：10)
 設定できる範囲は、「0~99」です。
 ※ダイナミックDNSの自動更新間隔を、「0」に設定したときは、ダイナミックDNSの自動更新機能だけが動作します。
 ※ご利用になるダイナミックDNSサーバによっては、一定期間更新がないと、取得したドメインが無効になるため、定期的に更新することで防止できます。

5 「システム設定」メニュー

5-5.「ダイナミックDNS」画面



■ダイナミックDNS設定(つづき)

ダイナミックDNS設定	
ダイナミックDNSの自動更新を(1)	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
定期更新間隔(2)	10 日
登録するIPアドレス(3)	<input checked="" type="radio"/> WAN <input type="radio"/> LOCAL
ダイナミックDNSサーバ(4)	設定なし
ホスト名(5)	<input type="text"/> <small>登録したURLが「test.example.com」の場合「test」がホスト名、</small>
ドメイン(6)	<input type="text"/> <small>「example.com」がドメインとなります。</small>
ユーザID(7)	<input type="text"/>
パスワード(8)	<input type="text"/>
接続状態(9)	<input checked="" type="radio"/> オンライン <input type="radio"/> オフライン

③ 登録するIPアドレス …………… ダイナミックDNSサーバに登録するIPアドレスをルータのWAN側IPアドレスにするかLOCAL側IPアドレスにするかを選択します。LOCAL側選択時はIPアドレスの更新を起動時に行います。
(出荷時の設定：WAN)

④ ダイナミックDNSサーバ …… ご利用いただけるのは、下記のサーバです。

- ◎ieServer
- ◎Zenno.Com
- ◎miniDNS
- ◎Dynamic Do!.jp
- ◎Earth Dynamic System
- ◎DynDNS.org(英語)

ご利用になるダイナミックDNSサイトから取得したホスト名を半角31文字以内で入力します。

⑤ ホスト名 ……………

ご利用になるダイナミックDNSサイトから取得したドメインを半角31文字以内で入力します。

⑥ ドメイン ……………

ご利用になるダイナミックDNSサーバへ接続するためのユーザーIDを半角31文字以内で入力します。

⑦ ユーザID ……………

ご利用になるダイナミックDNSサーバへ接続するためのパスワードを半角31文字以内で入力します。

⑧ パスワード ……………

入力した文字はすべて「*」で表示されます。

(入力例：icom / 表示例：****)

⑨ 接続状態 ……………

メンテナンスなどで、本製品を一時的に使用しない場合など、あらかじめ、ご利用になるダイナミックDNSサーバへ「オフライン」であることを通知するときに使用します。

(出荷時の設定：オンライン)

この章では、
「情報表示」メニューで表示される設定画面について説明します。

6-1.「電話通信記録」画面	98
■ 電話通信記録	98
6-2.「通信記録」画面	98
■ 通信記録	98
6-3.「インターフェイス情報」画面	98
■ ネットワーク インターフェイス リスト	98
■ ブリッジポート情報	99
■ 本体MACアドレス	99
6-4.「UPnP情報」画面	100
■ UPnP IGD情報	100
■ UPnP IGDポートマッピングテーブル	100

6 「情報表示」メニュー

6-1.「電話通信記録」画面

電話通信記録 通信記録 インターフェイス情報 UPnP情報

■ 電話通信記録

加入電話およびIP電話の発信と着信履歴を表示します。

電話通信記録		クリア
日付・時間	通信記録	
01/01 00:10:26	電話回線接続無しのため切断	
01/01 00:10:26	V o I P 電話帳に番号が無いため切断	
01/01 00:10:26	V o I P 回線へ発信:番号 (0665231234)	

〈クリア〉をクリックすると、履歴を消去できます。

6-2.「通信記録」画面

電話通信記録 通信記録 インターフェイス情報 UPnP情報

■ 通信記録

WAN側回線の通信記録を表示します。

通信記録		クリア
日付・時間	通信記録	
09/19 14:17:19	DHCP:BIND (My Address [192.168.63.129] : GW Address [192.168.63.1])	
	Lease 3 day : Primary DNS [172.16.0.5]	
	Domain Name [icom.co.jp]	
09/19 14:17:10	DHCP:RELEASE success	

〈クリア〉をクリックすると、履歴を消去できます。

6-3.「インターフェイス情報」画面

電話通信記録 通信記録 インターフェイス情報 UPnP情報

■ ネットワーク インターフェイス リスト

本製品のインターフェイスに対する[IPアドレス]と[サブネットマスク]を表示します。

ネットワーク	インターフェイス	IPアドレス	サブネットマスク
	local	192.168.0.1	255.255.255.0
	wan	(192.168.63.1)	255.255.255.0

6-3.「インターフェイス情報」画面(つづき)



■ブリッジポート情報

本製品の各ポートごとに、ブリッジ通信の状況とパケットの数を表示します。

ブリッジポート情報		
Ethernet ①	状況	通信中
	送信パケット数	3
	受信パケット数	4
Wireless ②	状況	通信中
	送信パケット数	1
	受信パケット数	0

- ① Ethernet…………… [有線LAN]ポートの通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。
- ② Wireless…………… 無線LANの通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

■本体MACアドレス

本製品のMACアドレスを表示します。

※このMACアドレスは、本製品の底面パネルに貼られているシリアルシールにも12桁で記載されています。

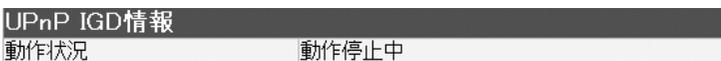
本体MACアドレス
00-90-C7-73-00-69

6 「情報表示」メニュー

6-4.「UPnP情報」画面



■ UPnP IGD情報



動作状況 UPnPデバイス機能の動作状況を「動作中」「動作停止中」のどちらかで表示します。

■ UPnP IGDポートマッピングテーブル

UPnPデバイス機能のポートマッピングテーブルの内容を一覧表示します。



- ① ホストIP リモートホストのIPアドレスを表示します。リモートホストが指定されていない場合は「*」を表示します。
- ② WAN側ポート WAN側のポート番号を表示します。
- ③ ローカルIP ローカルホストのIPアドレスを表示します。
- ④ LAN側ポート LAN側のポート番号を表示します。
- ⑤ プロトコル プロトコルを表示します。

この章では、
「メンテナンス」メニューで表示される設定画面について説明します。

7-1.「ファームウェアの更新」画面	102
■ ファームウェアオンライン更新	102
■ ファームウェアファイルを指定	102
■ 「Firm Utility使用」モード	103
7-2.「設定初期化」画面	103
■ 設定初期化	103
7-3.「設定保存」画面	104
■ 設定の保存と書き込み	104
■ 現在の設定	105

7 「メンテナンス」メニュー

7-1.「ファームウェアの更新」画面



■ ファームウェアオンライン更新

ファームウェアをオンラインでバージョンアップするとき使用します。



ファームウェアの情報を表示

〈表示〉ボタンでファームウェアサーバに接続し、最新のファームウェア情報を表示します。

■ ファームウェアファイルを指定

パソコンに保存しているファイルを指定してファームウェアをバージョンアップするとき使用します。



- ① パソコンに保存している本製品のファームウェアファイル(拡張子：dat)を、[ファームウェアファイルを指定]項目のテキストボックスに直接入力するか、〈参照...〉ボタンをクリックして、指定します。
- ② 〈書き込み〉ボタンをクリックします。
 - 更新を開始すると、「ファームウェア更新中」と表示されます。

7-1.「ファームウェアの更新」画面(つづき)

■ 「Firm Utility使用」モード

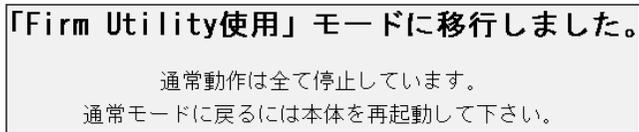


本製品に付属の「Firm Utility」を使用して、本製品を出荷時の状態に戻したり、ファームウェアをバージョンアップするとき使用します。



「Firm Utility使用」モードにするときは、[移行する]欄のチェックボックスをクリックしてチェックマークを入れてから、〈実行〉ボタンをクリックします。

- 次の画面を表示して、「Firm Utility使用」モードに移行します。



※「Firm Utility使用」モードに移行後も、本製品に設定された内容で動作します。

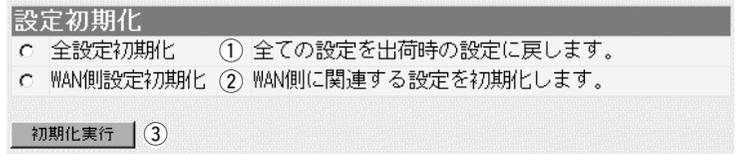
※「Firm Utility使用」モードに移行しないと、「Firm Utility」と本製品が通信できません。

7-2.「設定初期化」画面

■ 設定初期化



選択した初期化条件で、本製品の設定内容を初期化します。



- ① 全設定初期化 …………… 本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。
- ② WAN側設定初期化 ……… 以下の3つの画面だけを出荷時の状態に戻します。
「WAN側」、「WAN側詳細」、「アドレス変換」
- ③ 〈初期化実行〉ボタン …… 選択された[初期化条件]にしたがって、初期化を実行します。

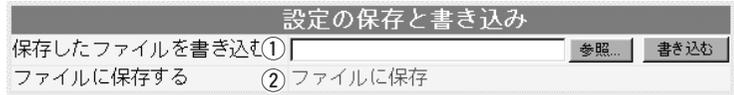
7 「メンテナンス」メニュー

7-3. 「設定保存」画面

■ 設定の保存と書き込み



本製品の設定内容を保存したり、保存した設定ファイルの本製品に書き込んだりします。



① 保存したファイルを書き込む ……………

[ファイルに保存する] (②) 欄の操作で保存した設定ファイル(拡張子: .sav)内容を本製品に書き込むとき使用します。

設定ファイルの保存先をテキストボックスに直接入力するか、〈参照...〉ボタンをクリックすると表示される右の画面から目的の設定ファイルを指定します。



テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉ボタンをクリックすると、本製品にその設定内容を書き込みます。

書き込む前の設定内容は、消去されますのでご注意ください。

※WWWブラウザの「ファイル(F)」メニューから、[名前を付けて保存(A)...]をクリックして保存した「設定保存」画面のファイル(拡張子: .htm/.html)とは互換性がないので保存したファイルとして読み込むことはできません。

② ファイルに保存する ……………

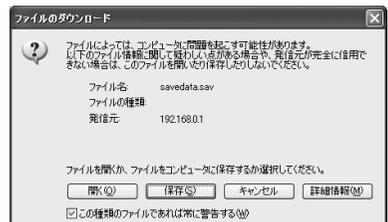
本製品すべての設定内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。

[設定の保存と書き込み]項目で[ファイルに保存]をクリックすると表示される右の画面から〈保存(S)〉をクリックすると、設定ファイルを保存できます。

設定ファイルのファイル形式(拡張子)は、「.sav」です。

保存したファイルは、[保存したファイルを書き込む] (①) 欄の操作で、本製品自身や本製品を使用する別の相手に書き込みできます。

※「VoIP電話帳」画面(☎ 2-5章)に登録された内容についても保存されます。

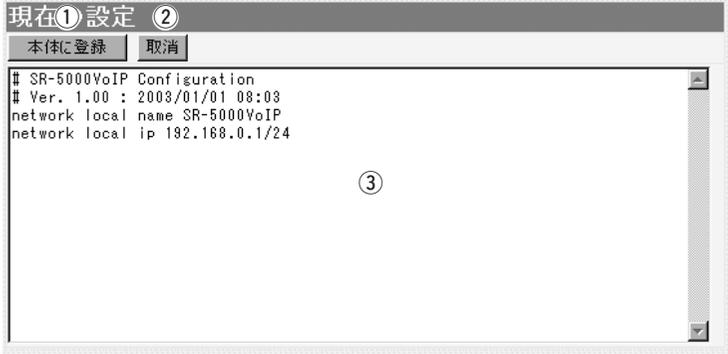


7-3.「設定保存」画面(つづき)

■ 現在の設定



変更された設定内容の確認や設定ファイルをハイパーテキスト形式(.htm/.html)で保存、書き込みができます。



- ① <本体に登録> ボタン …… 「内容表示」(③)部に表示された内容を、本製品に書き込みます。
※本製品のIPアドレスの設定が、「内容表示」部に表示されたIPアドレスと異なるときは、設定を本製品に登録できません。
- ② <取消> ボタン …………… 「内容表示」(③)部に表示された内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。
- ③ 「内容表示」部 …………… 変更された設定内容を表示します。
この画面内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。
保存するときは、WWWブラウザの「ファイル(E)」メニューから、[名前を付けて保存(A)...]をクリックすると、保存できます。
※[設定の保存と書き込み]項目の「ファイルに保存」をクリックして保存した設定ファイル(拡張子：.sav)とは互換性がないので、読み込むことはできません。(※P87)
※各画面で設定されたパスワードやキージェネレーター(無線通信暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されません。
そのため、保存されたファイルよりそれらが外部へ漏れることはありません。



この章では、

「Windows Messenger」の相手とIP電話するときの説明と、Telnetによる接続、PPTPパススルーで使用するパソコンの設定などについて説明します。

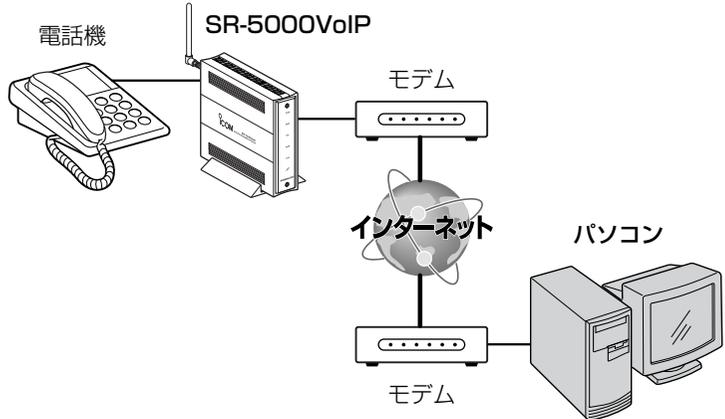
8-1.相手のパソコンとIP電話するには	108
① 対応ソフトウェアの確認と準備	108
② 「Windows Messenger」の設定	109
③ 「Windows Messenger」から本製品に電話をするには	112
④ 本製品から「Windows Messenger」に電話をするには	114
8-2.複数固定IPアドレスサービスを使うには	115
■ グローバル固定IPアドレスの使いかた	115
8-3.Telnetによる接続	116
■ Windows XP/Windows 2000の場合	116
■ Windows 98/98 SE/Meの場合	116
■ オンラインヘルプ	117
8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定	118
■ Windows XPをクライアントに使用する場合	118
■ Windows 2000をクライアントに使用する場合	123
■ Windows Meをクライアントに使用する場合	127
8-5.NTTフレッツ・スクウェアに接続するには	134
■ NTT東日本でご契約の場合	134
■ NTT西日本でご契約の場合	136

8-1.相手のパソコンとIP電話するには

本製品に接続された電話機と相手のパソコンとのあいだでIP電話をするには、相手のパソコンに「Windows Messenger」または「MSN Messenger」が必要です。

※ブリッジタイプモデムに接続されたパソコンにはグローバルIPアドレスが割り当てられていることを確認してください。

※右図のように使用する場合は、本製品のVoIP接続設定を「Peer to Peer」に設定してください。



1 対応ソフトウェアの確認と準備

1.対応OSと「Windows Messenger」または「MSN Messenger」の対応バージョンを下記に示します。

対応OS タイプ	Messenger タイプ	バージョン	DirectX バージョン
Windows XP	Windows Messenger	4.6～4.7	8.1
Windows 2000	MSN Messenger	4.6～4.7(5.0以降を除く)	8.1
Windows 98/98SE/Me	MSN Messenger	4.6～4.7(5.0以降を除く)	8.1

※バージョンの確認は、「Messenger」を起動して、「ヘルプ(H)」メニューから「Windows Messenger(またはMSN Messenger)のバージョン情報(A)」をクリックします。



2.マイクとスピーカーを「Windows Messenger」または「MSN Messenger」で使用できる状態に設定してください。

8-1.相手のパソコンとIP電話するには(つづき)

② [Windows Messenger]の設定

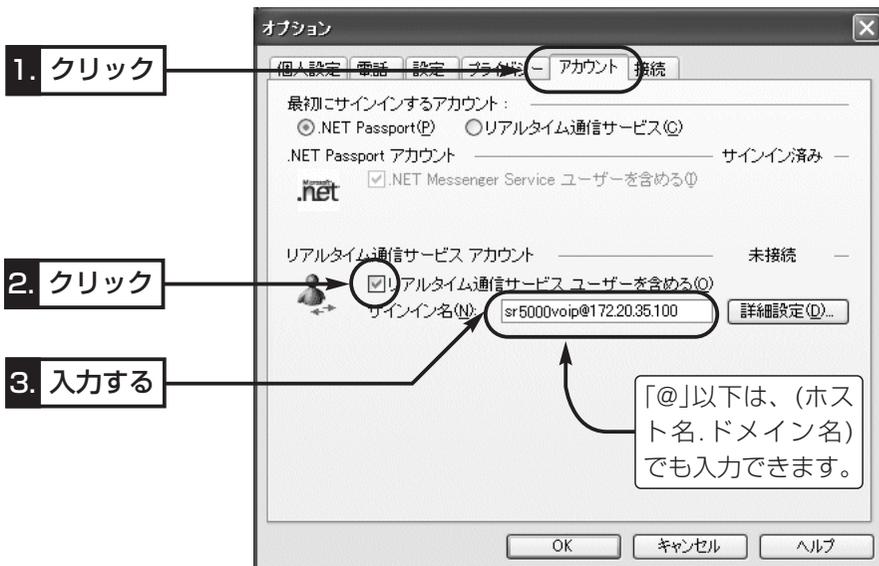
ここでは、Windows XPに標準の[Windows Messenger] (Ver.4.7)を例に、その準備(接続先の設定)について説明します。

〈設定の手順〉

- ① Windows Messengerの「ツール(T)」メニューから[オプション(O)]をクリックします。



- ② [アカウント]タブで、[リアルタイム通信サービスユーザーを含める(O)]のチェックボックスにチェックを入れます。
- ③ 自分のSIP URLを[サインイン名(N)]のテキストボックスに入力(例：sr5000voip@172.20.35.100)します。



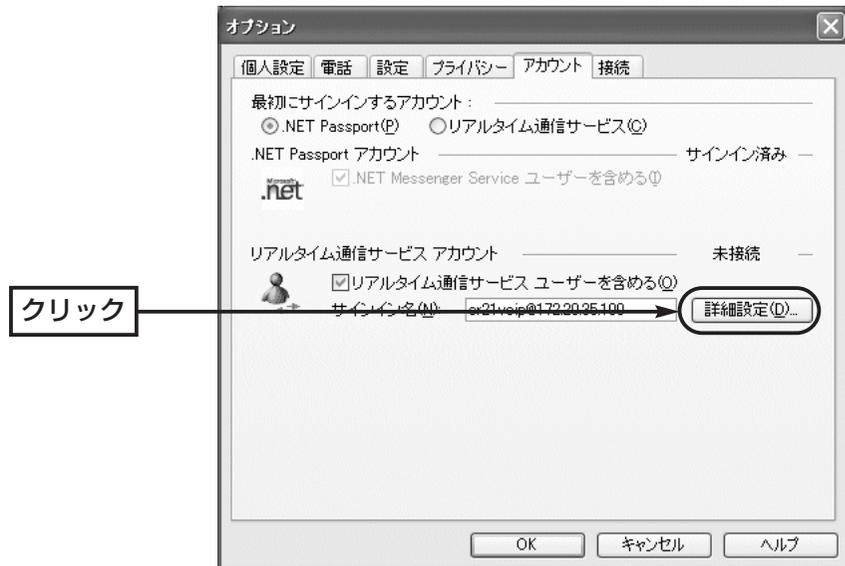
8 ご参考に

8-1.相手のパソコンとIP電話するには

② Windows Messengerの設定(つづき)

④ 〈詳細設定(D)〉をクリックします。

- 「リアルタイム通信サービスの接続の設定」画面を表示します。



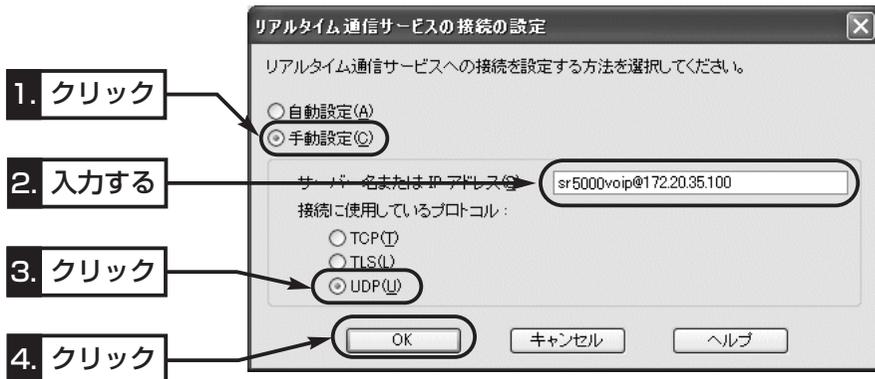
⑤ [手動設定(C)]のラジオボタンをクリックします。

⑥ 通信相手のSIP URLを[サーバー名またはIPアドレス(S)]のテキストボックスに入力(例：sr5000voipA@172.20.35.100)します。

※「@」以下は、(ホスト名.ドメイン名)でも入力できます。

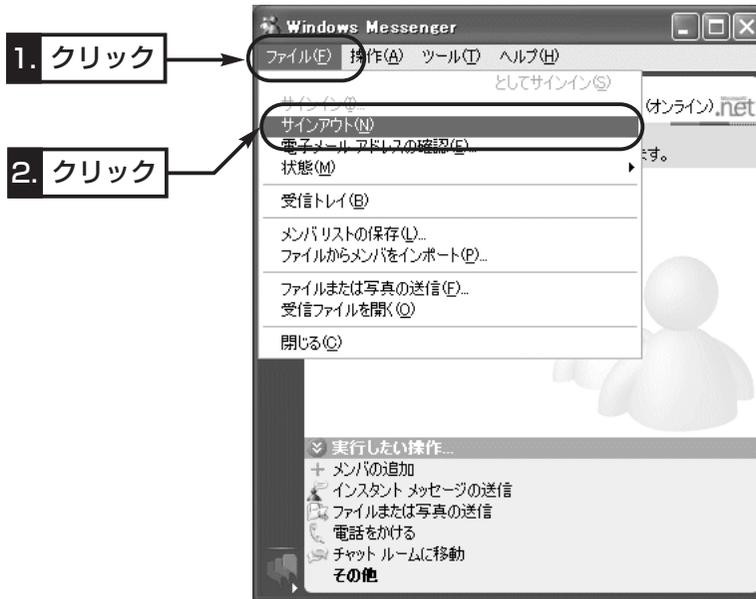
⑦ [UDP(U)]のラジオボタンをクリックします。

⑧ 〈OK〉をクリックします。

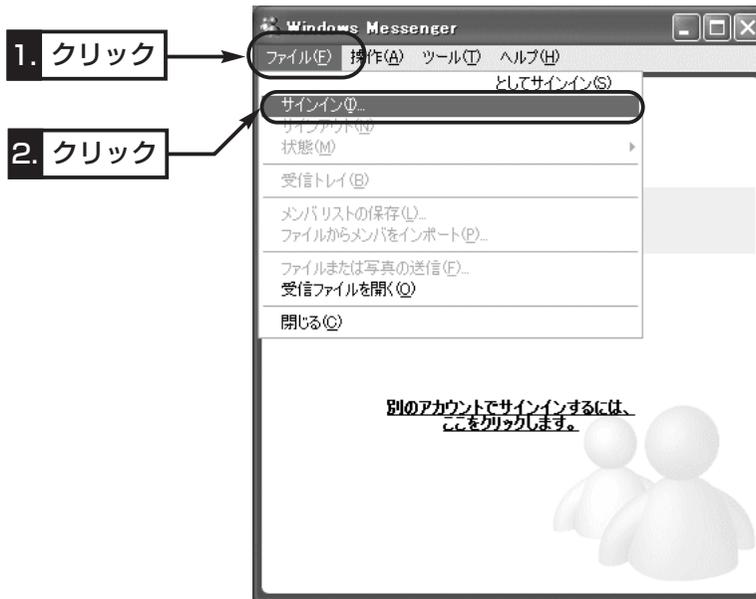


8-1.相手のパソコンとIP電話するには
 ② Windows Messengerの設定(つづき)

⑨ サインインしなおすため、「ファイル(F)」メニューから[サインアウト(N)]をクリックします。



⑩ 「ファイル(F)」メニューから[サインイン(I)]をクリックします。



※接続する相手を変更する場合は、ここで行った設定をその相手ごとに変更する必要があります。

8 ご参考に

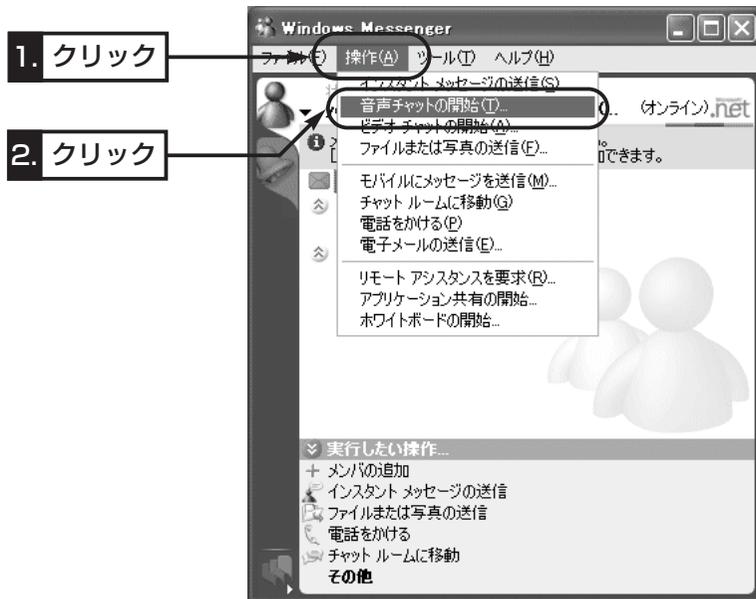
8-1.相手のパソコンとIP電話するには(つづき)

③ 「Windows Messenger」から本製品に電話するには

「②」 「Windows Messenger」の設定で設定した接続先(本製品)に発信するには次の手順で操作します。

〈発信の手順〉

① Windows Messengerの「操作(A)」メニューから[音声チャットの開始(T)]をクリックします。

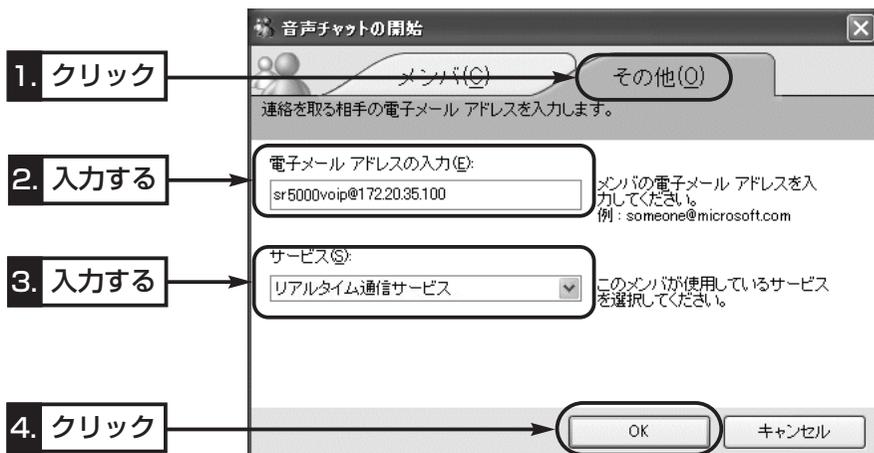


② [その他(Q)]タブをクリックして、通信相手のSIP URLを[電子メールアドレスの入力(E)]のテキストボックスに入力(例：sr5000voipA@172.20.35.100)します。

※「@」以下は、(ホスト名.ドメイン名)でも入力できます。

③ [サービス(S)]のテキストボックスで、「リアルタイム通信サービス」を選択します。

④ <OK> をクリックします。

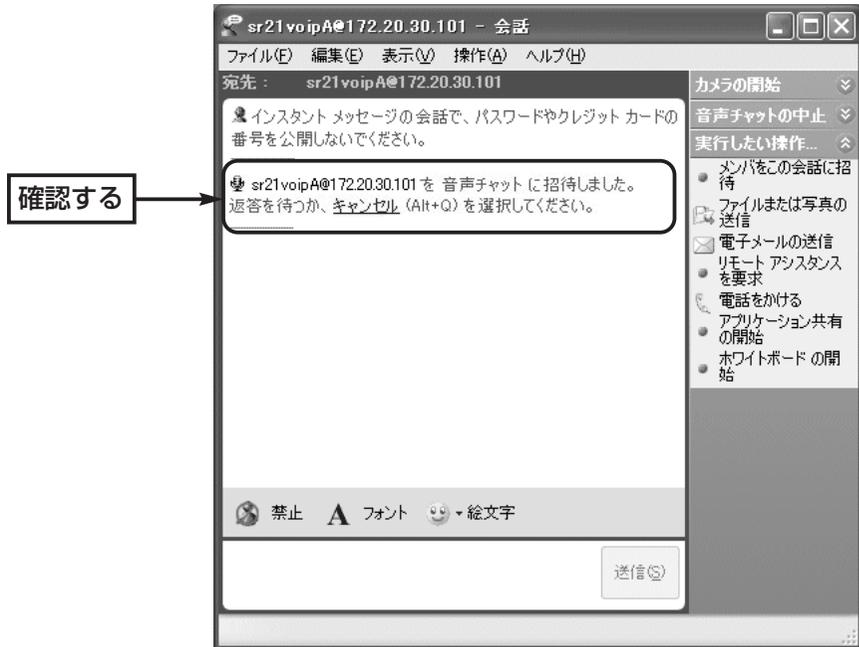


8-1.相手のパソコンとIP電話するには

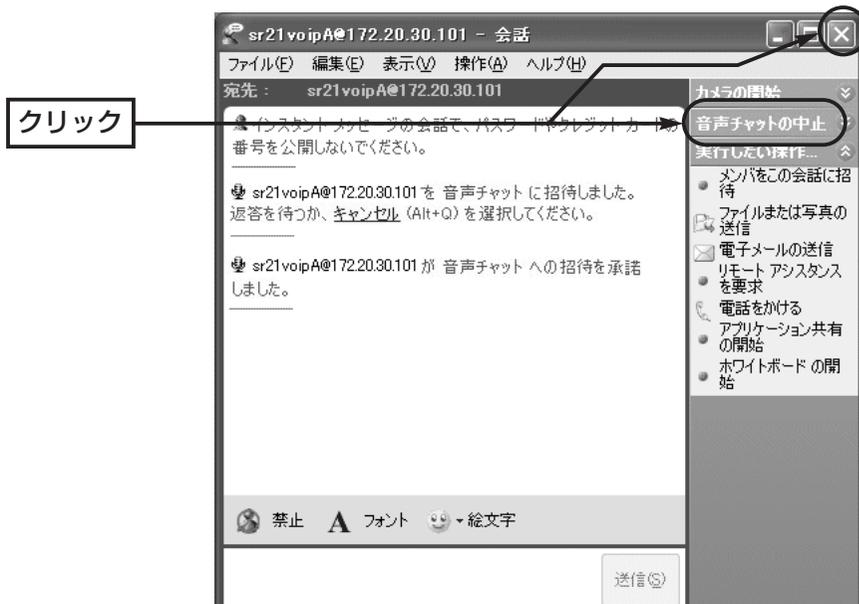
③ Windows Messengerから本製品に電話するには(つづき)

⑤ 設定された相手先への発信を開始する画面が表示されたことを確認します。

※表示された画面の[マイク]アイコンに「×」が表示されているときなどは、発信に失敗していますので、互いの設定を確認してください。



⑥ 通話を切るときは、「音声チャットの中止」をクリックするか、下記の画面を閉じてください。



8 ご参考に

8-1.相手のパソコンとIP電話するには

4 本製品から「Windows Messenger」に電話をするには

「2 「Windows Messenger」の設定」で設定されている相手先に発信するには次の手順で操作します。

〈発信の手順〉

- ① 本製品の「VoIP電話帳」画面に、相手先(Windows Messengerを使用する相手)のSIP URLが登録されていることを確認します。
- ② 本製品に接続された電話機から、VoIP電話帳に登録した相手のSIP URLに対応する電話番号をダイヤルすると発信を開始します。
- ③ 通話を切るときは、本製品に接続された電話機の受話器を置いてください。

8-2.複数固定IPアドレスサービスを使うには

ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーがこのサービスを提供している場合、このサービスをご契約になると、回線接続業者、またはプロバイダーから利用可能な複数のグローバル固定IPアドレスを指定されます。

これらのグローバル固定IPアドレスは、本製品の回線種別を「PPPoE複数固定IP」(1-1章「回線種別」)に変更することで、本製品のEthernetケーブルに接続されたパソコン(LAN側)に直接設定して利用できます。

また、本製品のDHCPサーバ機能などで、自動割り当てされたプライベートアドレスのパソコンと混在した環境でご利用いただけます。

■ グローバル固定IPアドレスの使いかた

ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから8個のグローバル固定IPアドレスを指定された場合を例に、その使いかたを説明します。

- ◎割り当てられた指定の8個：172.16.0.48～172.16.0.55
- ◎サブネットマスク：255.255.255.248
- ◎ネットワークIPアドレス：172.16.0.48(使用できません)
- ◎ブロードキャストアドレス：172.16.0.55(使用できません)
- ◎172.16.0.49(WAN側IPアドレスとして本製品に設定)
- ◎172.16.0.50(本製品に接続するパソコンに使用可能)
- ◎172.16.0.51(本製品に接続するパソコンに使用可能)
- ◎172.16.0.52(本製品に接続するパソコンに使用可能)
- ◎172.16.0.53(本製品に接続するパソコンに使用可能)
- ◎172.16.0.54(本製品に接続するパソコンに使用可能)

※指定以外のグローバルIPアドレスを使用することはできません。

また、連続で指定された複数のグローバル固定IPアドレスのうち、最初(ネットワークアドレス)と最後(ブロードキャストアドレス)は、ネットワーク上でホストに割り当てて使用できない規則になっています。

8-3.Telnetによる接続

Telnetによる接続方法とオンラインヘルプの見かたについて説明します。

ご使用のOSやTelnetクライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

■ Windows XP/Windows 2000の場合

- ① Windowsを起動します。
- ② [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
名前欄に「Telnet.exe」と入力し、〈OK〉をクリックします。
- ③ Telnetクライアントが起動しますので、下記のように指定します。
Microsoft Telnet>open 本製品のIPアドレス
(出荷時の設定：192.168.0.1)
- ④ [User]と[Password]が要求されます。
本製品の「本体管理」画面(☞5-1章)で設定した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力してログインしてください。
※初期値では[User]、[Password]ともに設定されていませんから、何も入力しないで[Enter]キーを押してください。
- ⑤ ログインメッセージ(Welcome to SR-5000VoIP!)が表示されます。

■ Windows 98/98 SE/Meの場合

- ① Windowsを起動します。
- ② [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
名前欄に「Telnet.exe」と入力し、〈OK〉をクリックします。
- ③ Telnetクライアントが起動しますので、メニューバーから[接続]→[リモートシステム]を選択します。
- ④ [接続]ダイアログボックスが表示されます。
ホスト名、ポート、ターミナルの種類を下記のように選択して、〈接続(C)〉ボタンをクリックします。
ホスト名：本製品のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)
ポート：telnet(23)
ターミナルの種類：vt100
- ⑤ [User]と[Password]が要求されます。
本製品の「本体管理」画面(☞5-1章)で設定した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力してログインしてください。
※初期値では[User]、[Password]ともに設定されていませんから、何も入力しないで[Enter]キーを押してください。
- ⑥ ログインメッセージ(Welcome to SR-5000VoIP!)が表示されます。

8-3.Telnetによる接続(つづき)

■ オンラインヘルプ

オンラインで、コマンドリファレンスを参照することができます。

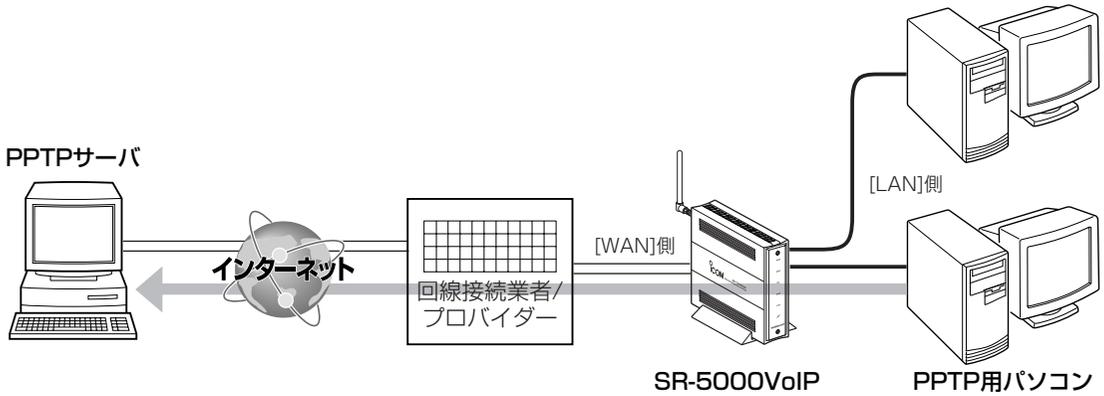
- ◎コマンド一覧 [Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。コマンド名の入力に続いて[Tab]キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。

- ◎コマンドヘルプ コマンドの意味を知りたい時は、コマンド名の入力に続いて[?]キーを押すとコマンドのヘルプが表示されます。

- ◎コマンド名の補完 コマンド名を先頭から数文字入力し[Tab]キーを押すと、コマンド名が補完されます。
 入力した文字に続くコマンドが一つしか無いときは、コマンド名を最後まで補完します。
 例) cl[Tab]→clear
 複数のコマンドがあるときは、同じ文字列の所までを補完します。
 さらに[Tab]キーを押すと、コマンドの候補を表示します。
 例) r[Tab]→re
 re[Tab]→restart remote
 res[Tab]→restart

8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■ Windows XPをクライアントに使用する場合



〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows XPの場合

ご契約のプロバイダーを介して、インターネットで会社のネットワークに接続するような場合の設定例です。

〈設定の手順〉

- 1.設定に使用するパソコンを起動します。
- 2.「ログオン」画面が表示されたら、管理者のユーザー名でログオンします。
- 3.起動したら、マウスを〈スタート〉→[コントロールパネル(C)]の順に操作します。
- 4.コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。
- 5.[ネットワーク接続]アイコンをクリックします。



- 6.[新しい接続を作成する]をクリックします。



8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

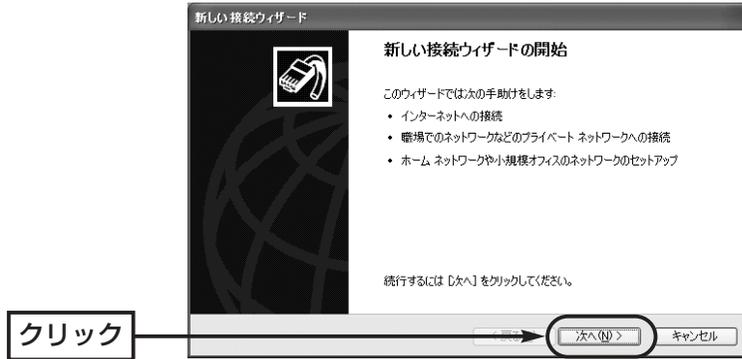
■ Windows XPをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

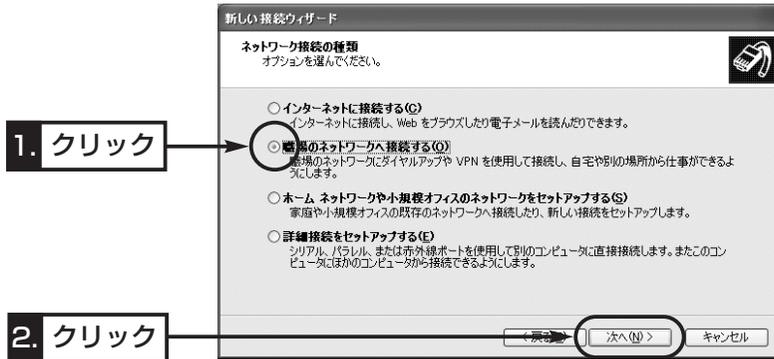
◎Windows XPの場合

〈設定の手順〉(つづき)

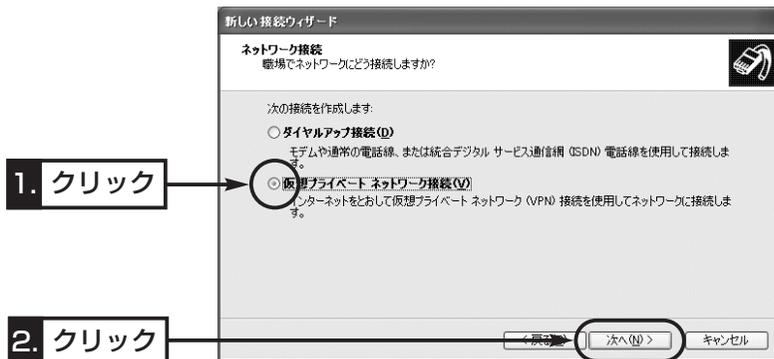
7. 〈次へ(N)〉をクリックします。



8.[職場のネットワークへ接続する(Q)]のラジオボタンをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。



9.[仮想プライベート ネットワーク接続(V)]のラジオボタンをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。



8 ご参考に

8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

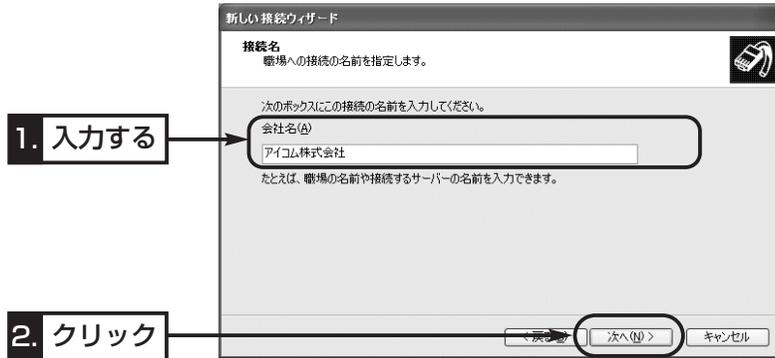
■ Windows XPをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

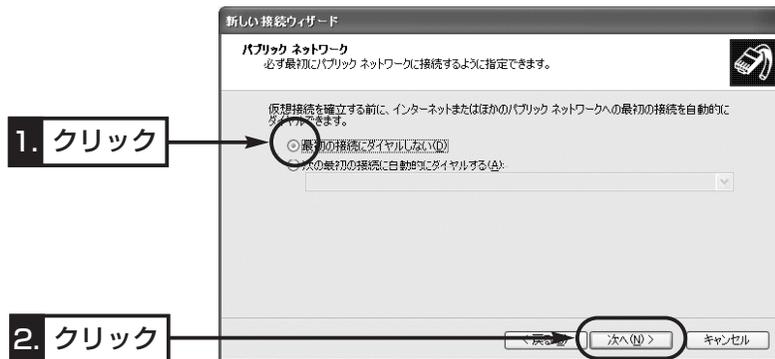
◎Windows XPの場合

〈設定の手順〉(つづき)

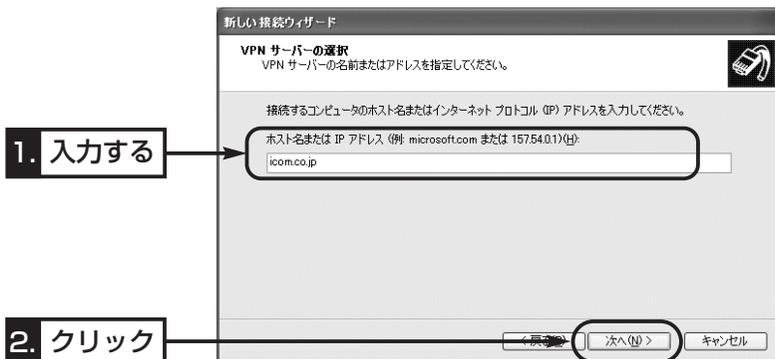
10.接続先名を[会社名(A)]のテキストボックスに入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。



11.次の画面が表示されたときは、[最初の接続にダイヤルしない(D)]をクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。



12.ネットワーク管理者から指定された接続先のホスト名、またはIPアドレスを入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。



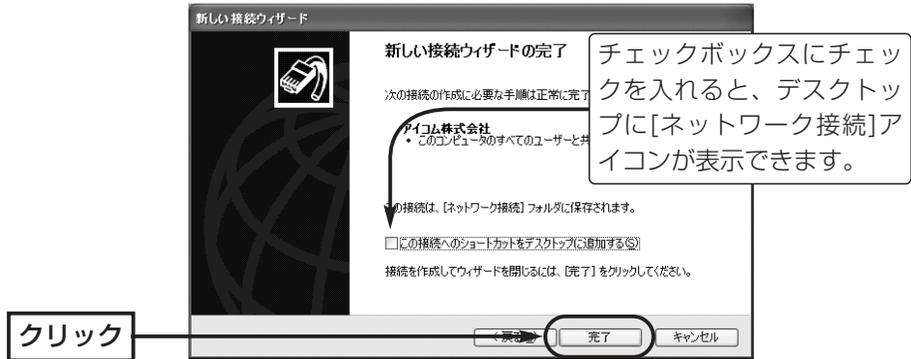
8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■ Windows XPをクライアントに使用する場合
 〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows XPの場合

〈設定の手順〉(つづき)

13. 〈完了〉をクリックします。



14.PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。



※上記画面で〈キャンセル〉をクリックした場合の接続方法は、次ページで説明しています。

8 ご参考に

8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■ Windows XPをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

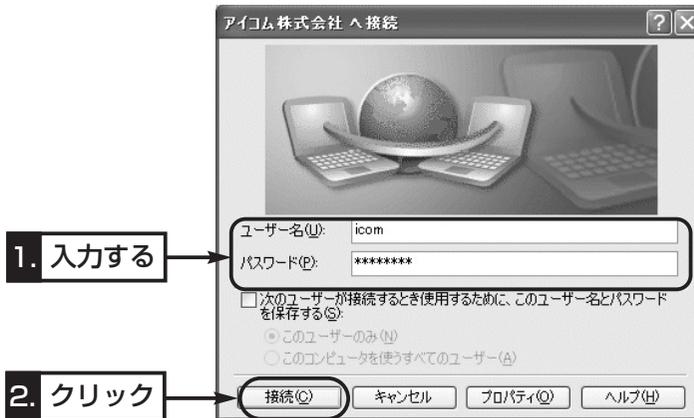
◎Windows XPの場合(つづき)

〈設定後、接続するには〉

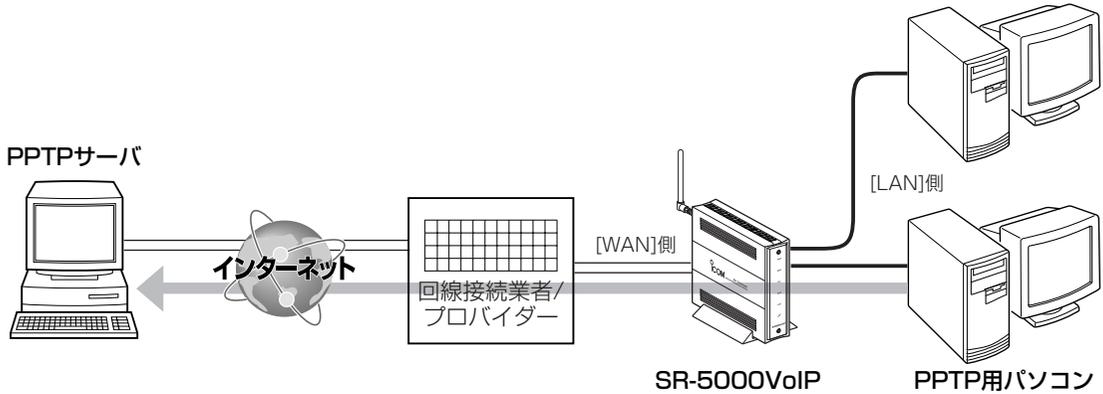
1. 〈スタート〉 → [コントロールパネル(C)]の順に操作します。
2. コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。
3. [ネットワーク接続]アイコンをクリックします。
4. 仮想プライベート ネットワークにあるアイコンをクリックします。



5. PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。



8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定(つづき)
■ Windows 2000をクライアントに使用する場合



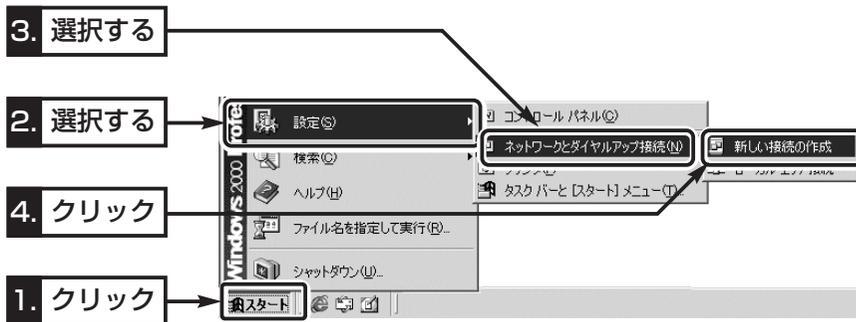
〈PPTP用のパソコン設定例〉

ご契約のプロバイダーを介して、インターネットで会社のネットワークに接続するような場合の設定例です。

©Windows 2000の場合

〈設定の手順〉

- 1.マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番に操作して、[新しい接続の作成]をクリックします。



2. 〈次へ(N)〉をクリックします。



8 ご参考に

8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

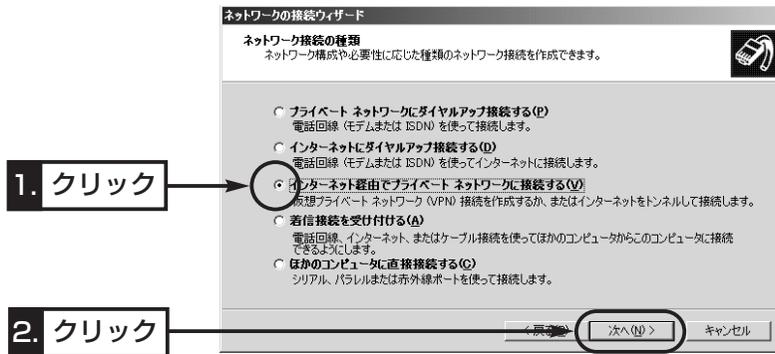
■ Windows 2000をクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

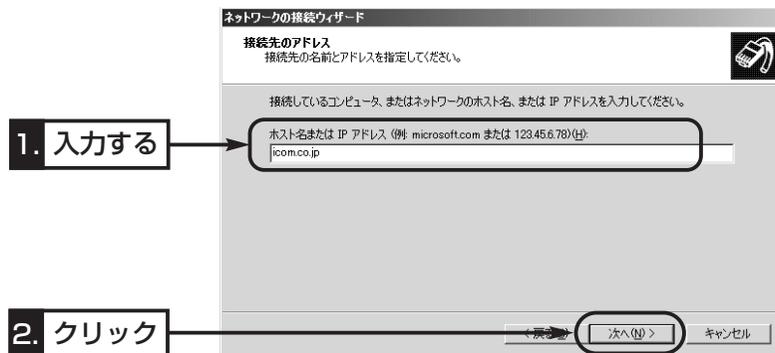
◎Windows 2000の場合

〈設定の手順〉(つづき)

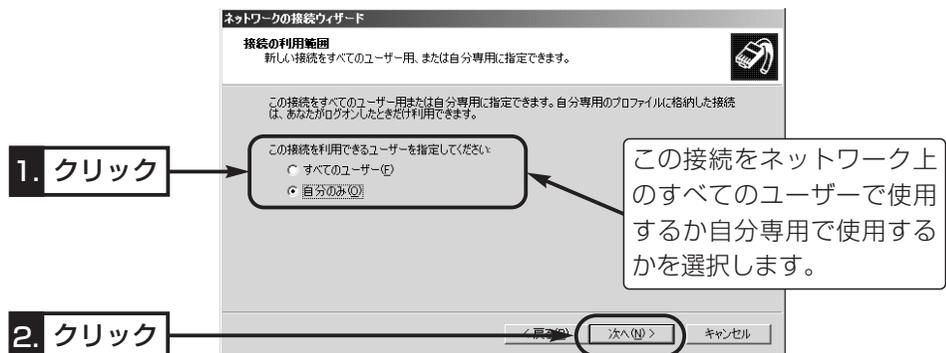
- 3.[インターネット経由でプライベート ネットワークに接続する (V)]のラジオボタンをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。



- 4.ネットワーク管理者から指定された接続先のホスト名、または IPアドレスを入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。



- 5.使用目的に該当する(例：自分のみ(C))ラジオボタンをクリックしてから、〈次へ(N)〉をクリックします。



8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

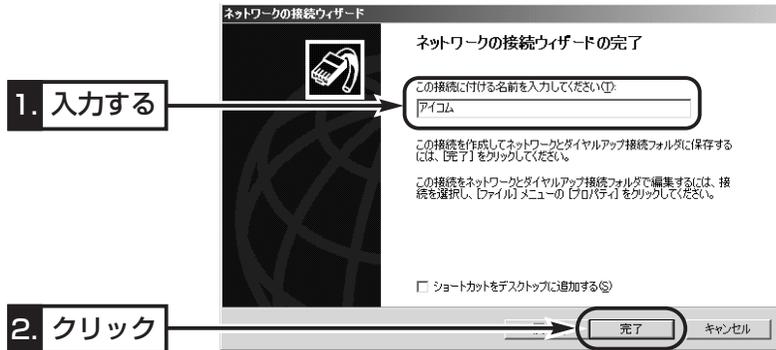
■ Windows 2000をクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows 2000の場合

〈設定の手順〉(つづき)

6.あとでわかるように、任意で接続先名を入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。



7.PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。



※上記画面で〈キャンセル〉をクリックした場合の接続方法は、次ページで説明しています。

8 ご参考に

8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

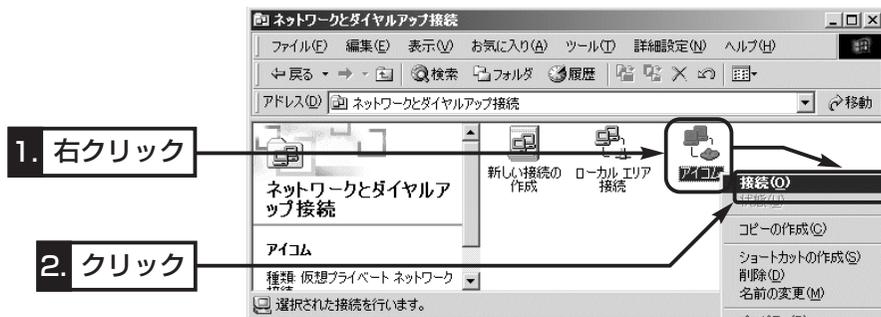
■ Windows 2000をクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

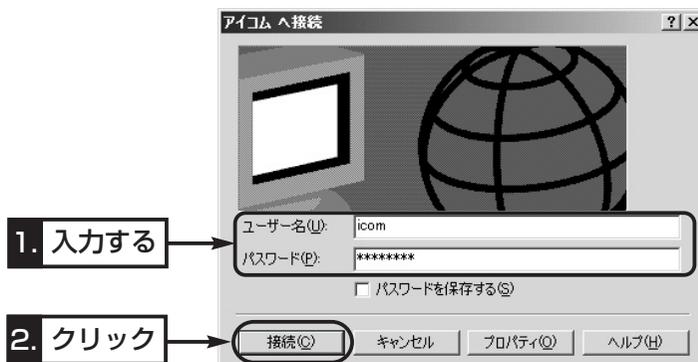
◎Windows 2000の場合(つづき)

〈設定後、接続するには〉

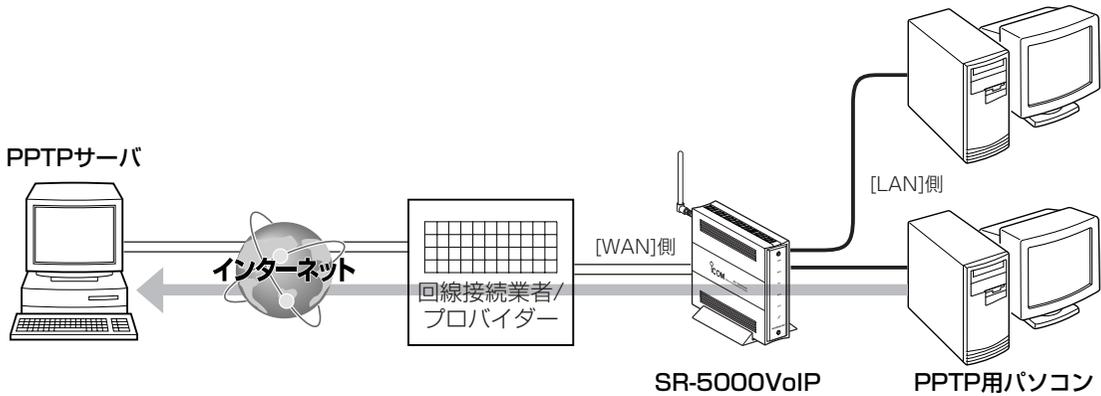
- 1.マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番に操作します。
- 2.新しく作成されたアイコンを右クリックして、[接続(C)]をクリックします。



- 3.PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。



8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定(つづき)
■ Windows Meをクライアントに使用する場合



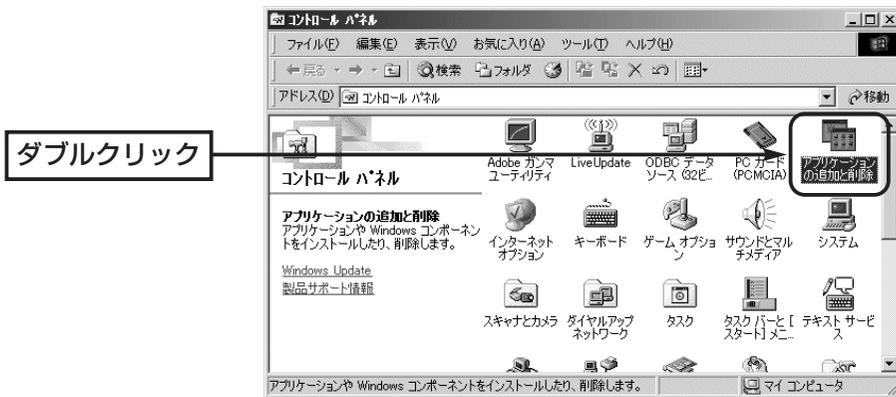
〈PPTP用のパソコン設定例〉

ご契約のプロバイダーを介して、インターネットで会社のネットワークに接続するような場合の設定例です。

©Windows Meの場合

〈設定の手順〉

- 1.マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]の順番に操作します。
- 2.[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックします。



8 ご参考に

8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

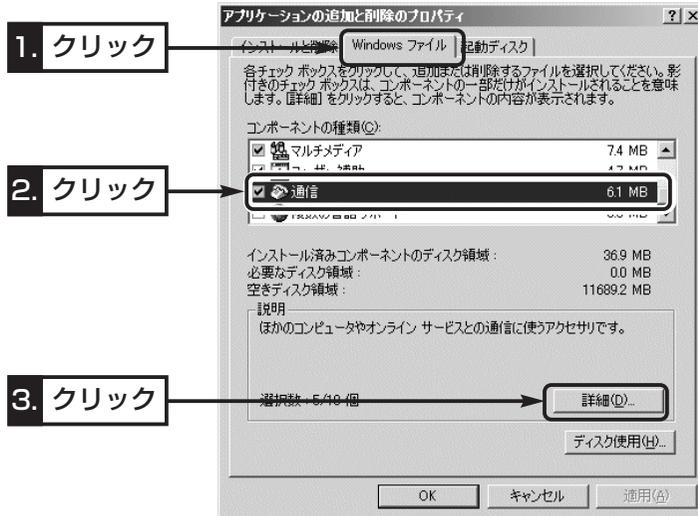
■ Windows Meをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

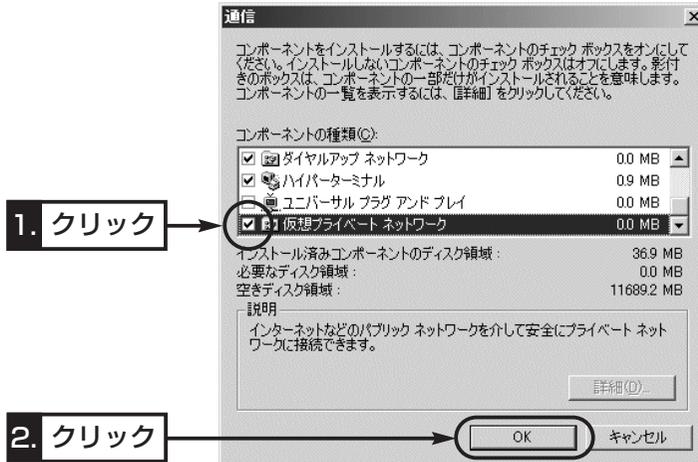
◎Windows Meの場合

〈設定の手順〉(つづき)

3.[Windows ファイル]タブ→[通信]→〈詳細(D)〉の順にクリックします。



4.[仮想プライベート ネットワーク]のチェックボックスにチェックを入れてから、〈OK〉をクリックします。



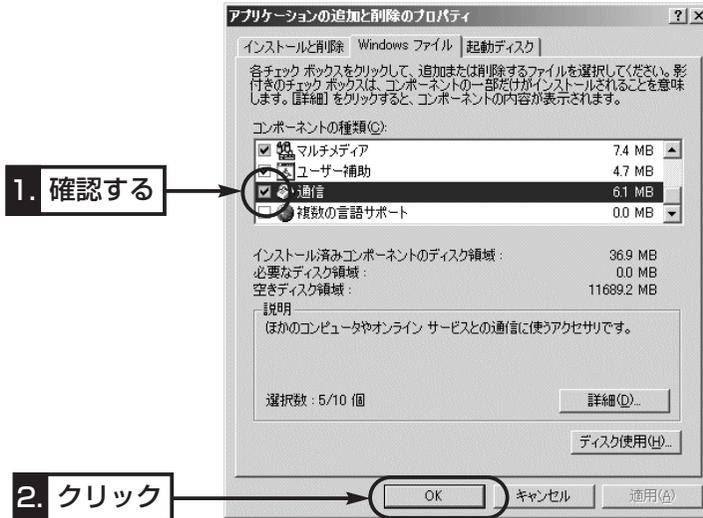
8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■ Windows Meをクライアントに使用する場合
 〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows Meの場合

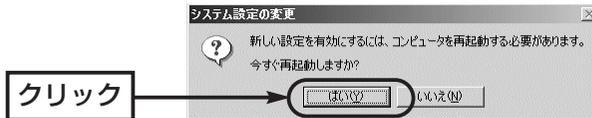
〈設定の手順〉(つづき)

5.[通信]にチェックマークが入っていることを確認して、〈OK〉をクリックします。

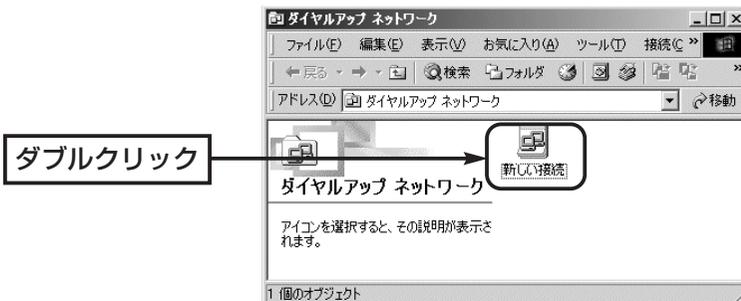


6. 〈はい(Y)〉をクリックします。

- パソコンが再起動します。



7.マウスを 〈スタート〉 → [設定(S)] → [ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番に操作して、[新しい接続]をダブルクリックします。



8 ご参考に

8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

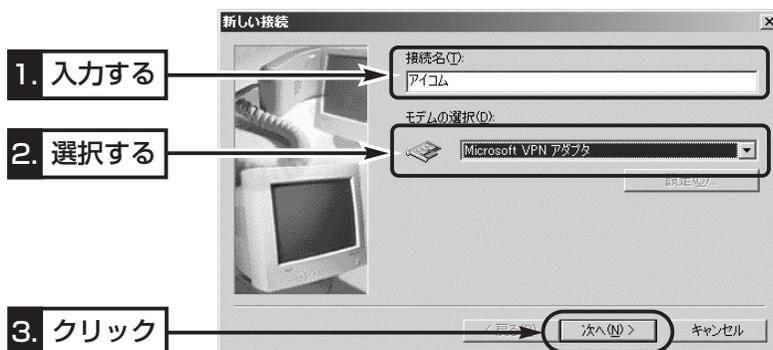
■ Windows Meをクライアントに使用する場合
〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows Meの場合

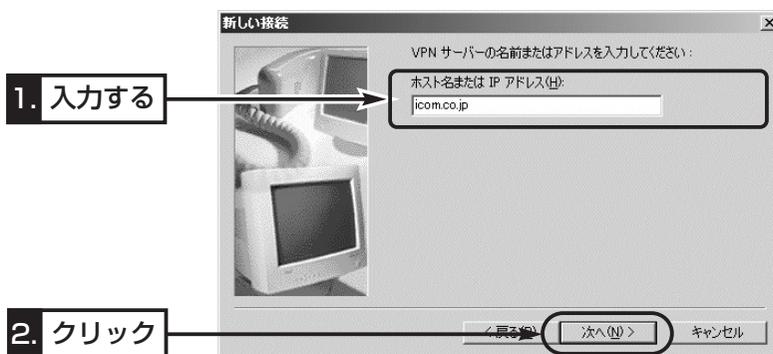
〈設定の手順〉(つづき)

8.[接続名(I)]には、あとでわかるように、任意で接続先名を入力します。

9.[モデムの選択(D)]から、「Microsoft VPN アダプタ」を選択して、〈次へ(N)〉をクリックします。



10.ネットワーク管理者から指定された接続先のホスト名、またはIPアドレスを入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。



11. 〈完了〉をクリックします。



8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

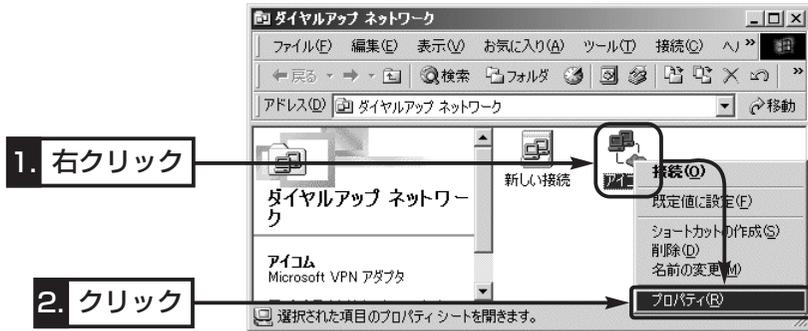
■ Windows Meをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

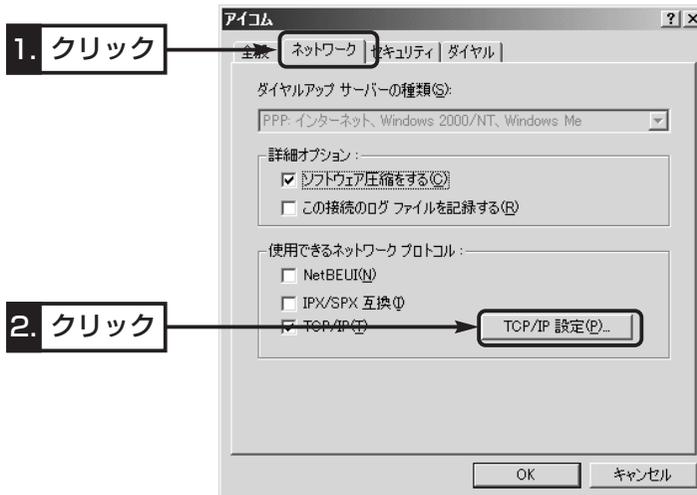
◎Windows Meの場合

〈設定の手順〉(つづき)

12.新しく作成されたアイコンを右クリックして、[プロパティ (R)]をクリックします。



13.[ネットワーク]タブ→〈TCP/IP 設定(P)...〉の順にクリックします。



8 ご参考に

8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

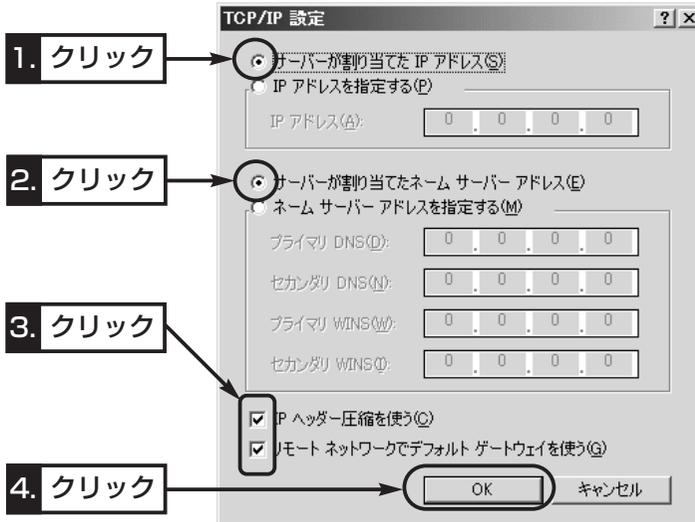
■ Windows Meをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

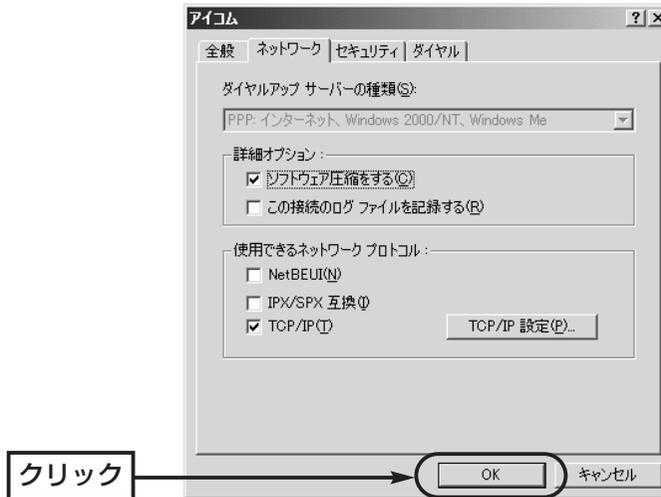
◎Windows Meの場合

〈設定の手順〉(つづき)

14.ラジオボタンとチェックボックスをクリックして、下記の画面の状態にして、〈OK〉をクリックします。



15. 〈OK〉をクリックします。



8-4.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

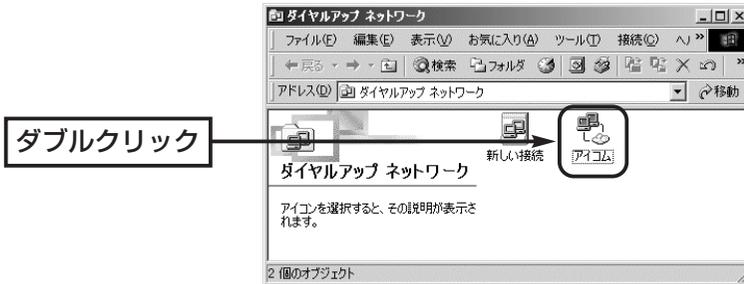
■ Windows Meをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

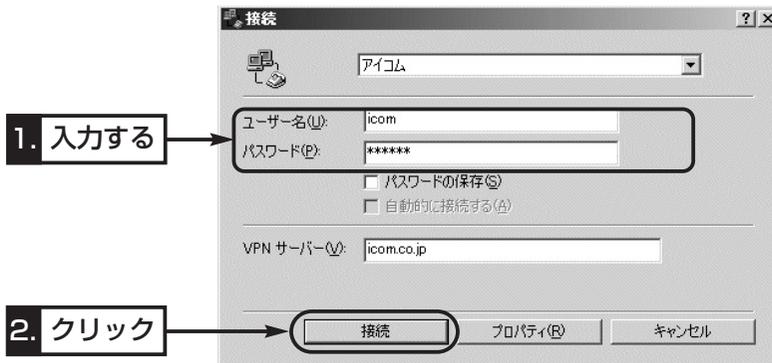
◎Windows Meの場合(つづき)

〈接続の手順〉

- 1.マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ダイヤルアップネットワーク(N)]の順番に操作します。
- 2.新しく作成されたアイコンをダブルクリックします。



- 3.PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続〉をクリックします。



8-5.NTTフレッツ・スクウェアに接続するには

■ NTT東日本でご契約の場合

〈本製品の設定手順〉

1. 「WAN側設定」メニューで、NTT東日本フレッツ・スクウェアへの接続先設定を行います。
※接続先を追加する場合は、[回線設定]項目の右にある〈▼〉をクリックして、「追加」を選択してください。
2. 「フレッツスクウェア」を[接続先名]欄に入力します。
3. 「guest@flets」(半角文字)を[ユーザID]欄に入力します。
4. 「guest」(半角文字)を[パスワード]欄に入力します。
5. 〈登録〉をクリックします。
6. 「WAN側設定」メニューの「WAN側詳細」画面にある[PPPoE詳細設定]項目で、[接続先選択]欄から「フレッツ・スクウェア」を選択します。
7. 〈選択〉をクリックします。
8. 「*.flets」を[宛先ドメイン]欄に入力します。
9. 〈登録〉をクリックします。
10. 「WAN側設定」メニューの「WAN側」画面にある[接続状況]項目で、第2セッションの列にある[接続先の選択]欄から「フレッツ・スクウェア」を選択します。
11. 第1セッションの列にある[接続先の選択]欄には、通常インターネットへ接続するのに使用する接続先名を選択します。
12. 第1セッションと第2セッションの〈切断〉をクリックして、回線を切断します。
13. 「ネットワーク設定」メニューの「ルーティング」画面にある[スタティックルーティング設定]項目で、下記のルーティングテーブルを作成します。(合計11行)
※合計11行の[経路]欄は、すべてに「フレッツ・スクウェア」を選択してください。
※合計11行の[ゲートウェイ]欄は、すべて何も入力しないでください。
※合計11行の[メトリック]欄は、すべてに「1」(半角)を入力してください。

〈宛先〉

220.210.194.0
220.210.195.0
220.210.195.64
220.210.196.0
220.210.197.0
220.210.197.64
220.210.197.96
220.210.198.0
220.210.199.0
172.25.0.0
172.27.0.0

〈サブネットマスク〉

255.255.255.128
255.255.255.192
255.255.255.224
255.255.255.0
255. 255.255.192
255.255.255.224
255.255.255.224
255.255.255.192
255.255.255.224
255.255.0.0
255.255.0.0

(2003年9月現在)

8-5.NTTフレッツ・スクウェアに接続するには

■ NTT東日本でご契約の場合

〈本製品の設定手順〉(つづき)

14.「WAN側」画面にある[接続状況]項目で、第1セッションと第2セッションの[接続先の選択]欄の右にある〈接続〉をクリックします。

※すでに接続されている場合は、操作の必要はありません。

15.インターネットへの接続(第1セッション側)を確認します。

(例：http://www.icom.co.jp/)

16.WWWブラウザのアドレスバーに下記のアドレスを入力して、NTTフレッツ・スクウェア(第2セッション側)への接続を確認します。

<http://www.flets/>

【スタティックルーティングの設定について】

NTT東日本のフレッツ・スクウェアをご利用になる場合、ルーティングテーブルに設定するアドレスは、変更になることがあります。

変更された場合、ルーティングテーブルの設定を変更してください。

変更しない場合は、NTT東日本のフレッツ・スクウェアのホームページにアクセスできません。

ルーティングテーブルに設定するアドレスについては、NTT東日本のフレッツ・スクウェアに接続してから、「<http://routing.flets/routing.html>」(2003年9月現在)でご確認ください。

【NTT東日本のフレッツ・スクウェアを第2セッションで利用できないときは？】

「WAN側設定」メニューの「WAN側」画面にある[接続状況]項目で、第1セッションの列にある[接続先の選択]欄で「フレッツ・スクウェア」を指定すると、ルーティングテーブルの設定をしなくても、<http://www.flets/>にアクセスできます。

この状態で、「<http://routing.flets/routing.html>」(2003年9月現在)にアクセスして、ルーティングテーブルに設定するアドレスの最新情報を確認してください。

8-5.NTTフレッツ・スクウェアに接続するには(つづき)

■ NTT西日本でご契約の場合

〈本製品の設定手順〉

- 1.「WAN側設定」メニューで、NTT西日本フレッツ・スクウェアへの接続先設定を行います。
※接続先を追加する場合は、[回線設定]項目の右にある〈▼〉をクリックして、「追加」を選択してください。
- 2.「フレッツスクウェア」を[接続先名]欄に入力します。
- 3.「flets@flets」(半角文字)を[ユーザID]欄に入力します。
- 4.「flets」(半角文字)を[パスワード]欄に入力します。
- 5.〈登録〉をクリックします。
- 6.「WAN側設定」メニューの「WAN側詳細」画面にある[PPPoE詳細設定]項目で、[接続先選択]欄から「フレッツ・スクウェア」を選択します。
- 7.〈選択〉をクリックします。
- 8.「*.flets」を[宛先ドメイン]欄に入力します。
- 9.〈登録〉をクリックします。
- 10.「WAN側設定」メニューの「WAN側」画面にある[接続状況]項目で、第2セッションの列にある[接続先の選択]欄から「フレッツ・スクウェア」を選択します。
- 11.第1セッションの列にある[接続先の選択]欄には、通常インターネットへ接続するのに使用する接続先名を選択します。
- 12.第1セッションと第2セッションの〈切断〉をクリックして、回線を切断します。
- 13.「WAN側」画面にある[接続状況]項目で、第1セッションと第2セッションの[接続先の選択]欄の右にある〈接続〉をクリックします。
※すでに接続されている場合は、操作の必要はありません。
- 14.インターネットへの接続(第1セッション側)を確認します。
(例：http://www.icom.co.jp/)
- 15.WWWブラウザのアドレスバーに下記のアドレスを入力して、NTTフレッツ・スクウェア(第2セッション側)への接続を確認します。

<http://www.flets/>

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本 社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	003-0806	札幌市白石区菊水6条2-2-7	TEL 011-820-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	108-0022	東京都港区海岸3-3-18	TEL 03-3455-0331
名古屋営業所	468-0066	名古屋市天白区元八事3-249	TEL 052-832-2525
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

● サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。